

第4章

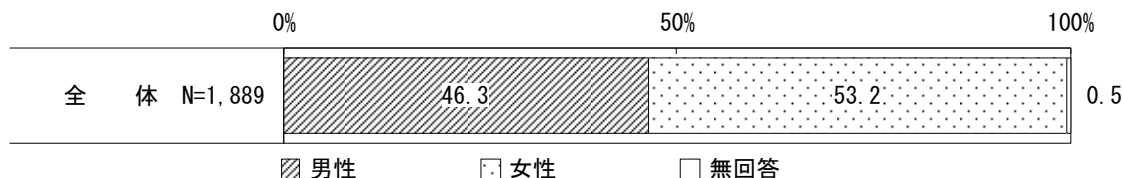
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

1 基本属性.....

(1) 性別

回答者の性別は、「男性」が46.3%、「女性」が53.2%です。

図表4-1 性別



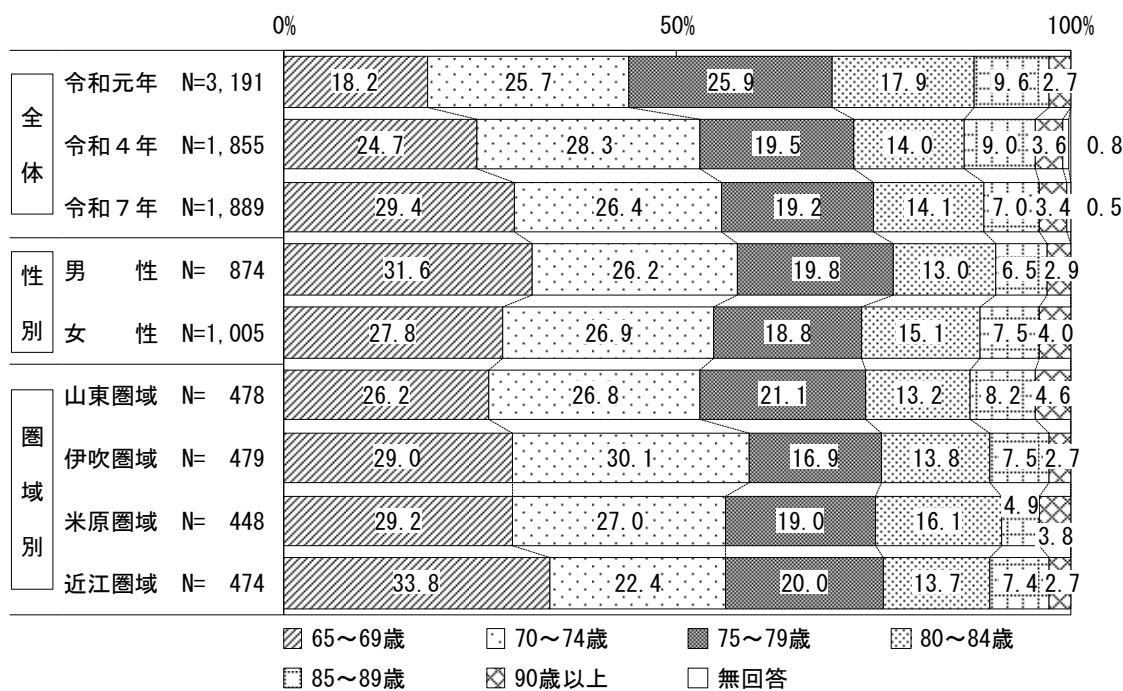
(2) 年齢

回答者の年齢は、「65～69歳」が29.4%と最も高く、これに「70～74歳」(26.4%)を加えた《75歳未満》は55.8%を占めています。《75歳以上》は43.7%で、そのうち《75～84歳》は33.3%、《85歳以上》は10.4%です。これまでの調査結果と比べると、《75歳未満》が上昇しています。

性別にみると、《75歳以上》は男性が42.2%、女性が45.4%となっており、女性が3.2ポイント高くなっています。

圏域別にみると、《75歳以上》は山東圏域が47.1%と最も高く、伊吹圏域が40.9%と最も低くなっています。

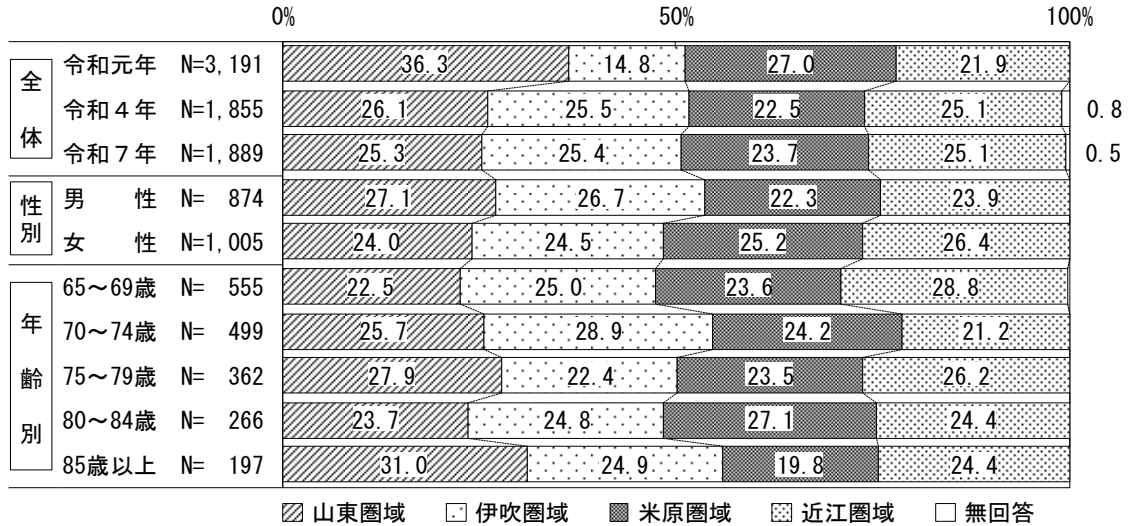
図表4-2 年齢



(3) 居住地域（圏域）

回答者の住まいを圏域別にみると、「山東圏域」が25.3%、「伊吹圏域」が25.4%、「米原圏域」が23.7%、「近江圏域」が25.1%となっています。

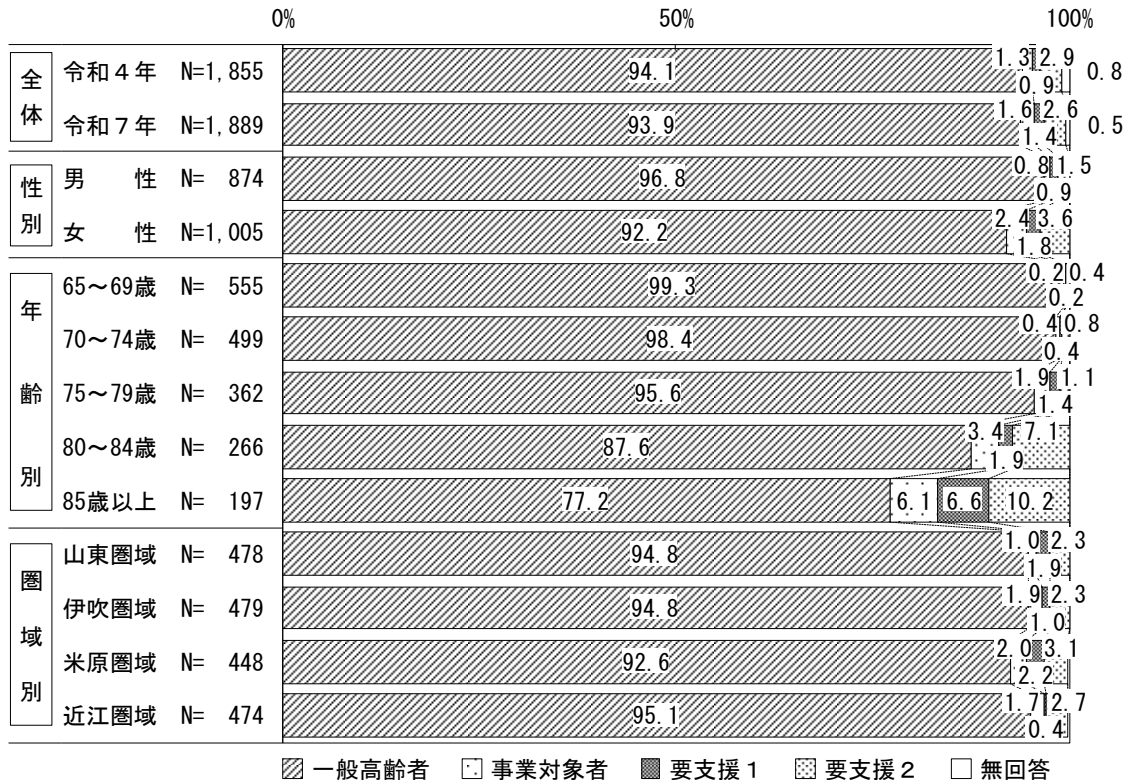
図表 4-3 居住地域（圏域）



(4) 認定状況

回答者の介護に関する認定状況は、認定を受けていない「一般高齢者」が93.9%、介護予防・日常生活支援総合事業の「事業対象者」が1.6%、要支援認定を受けている「要支援1」が1.4%、「要支援2」が2.6%となっています。年齢が高くなるにしたがい「一般高齢者」が低下しています。

図表 4-4 認定状況



(5) 世帯類型

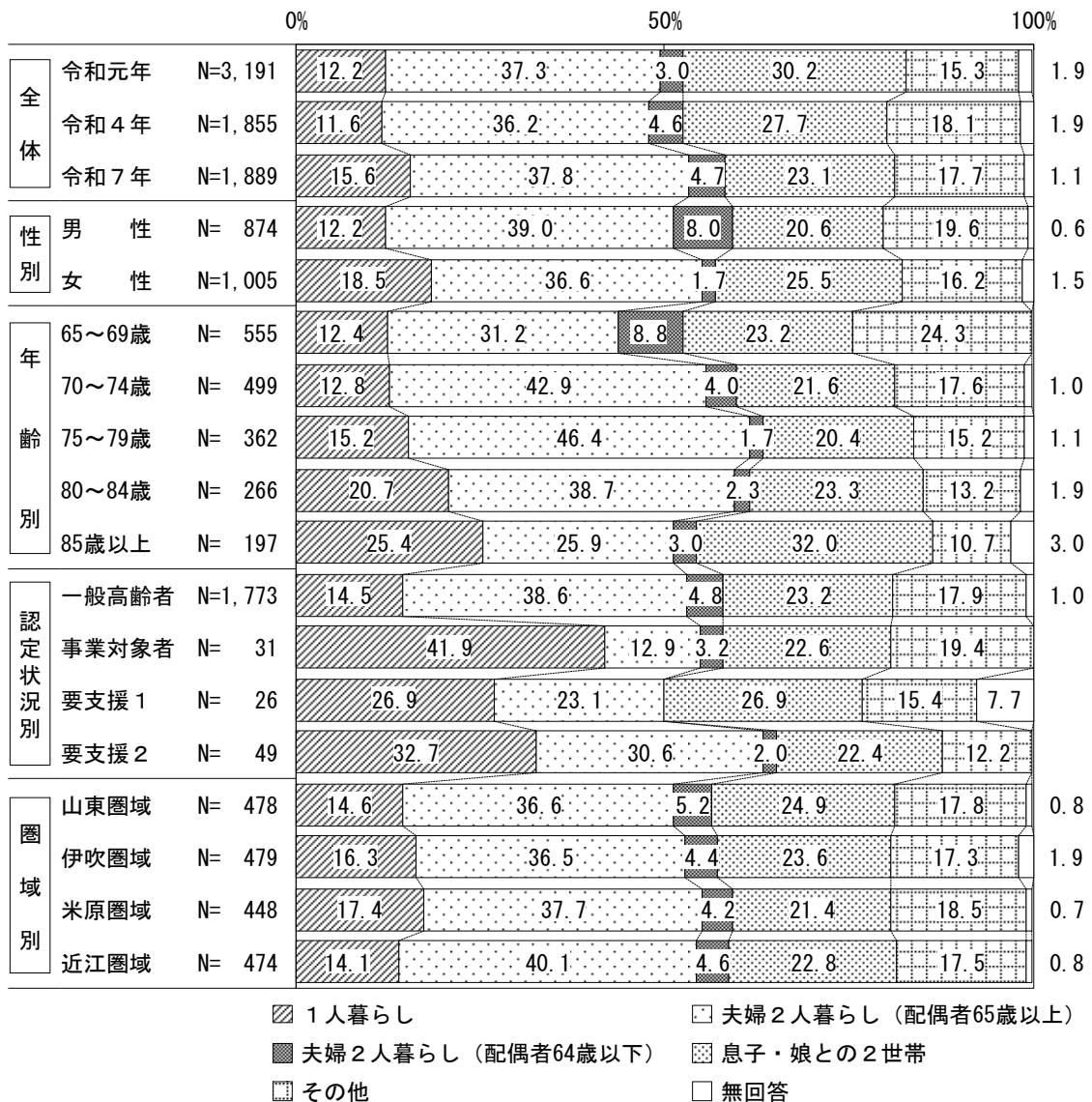
世帯類型は、夫婦ともに65歳以上の「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が37.8%と最も高く、これにどちらか一方が65歳以上の「夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）」（4.7%）を加えた《夫婦のみ》の世帯が42.5%となっています。「息子・娘との2世帯」は23.1%、三世同居などの「その他」の世帯は17.7%、「1人暮らし」は15.6%です。

性別にみると、男性は女性より《夫婦のみ》および「その他」が高く、女性は男性より「1人暮らし」および「息子・娘との2世帯」が高くなっています。

年齢別にみると、また、年齢が高くなるにしたがい「その他」が低下し、「1人暮らし」が上昇しています。また、85歳以上で急激に《夫婦のみ》が低下し、「息子・娘との2世帯」が高くなっています。

認定状況別にみると、事業対象者は「1人暮らし」が41.9%と高くなっている一方、《夫婦のみ》は16.1%の低い割合となっています。

図表4-5 世帯類型



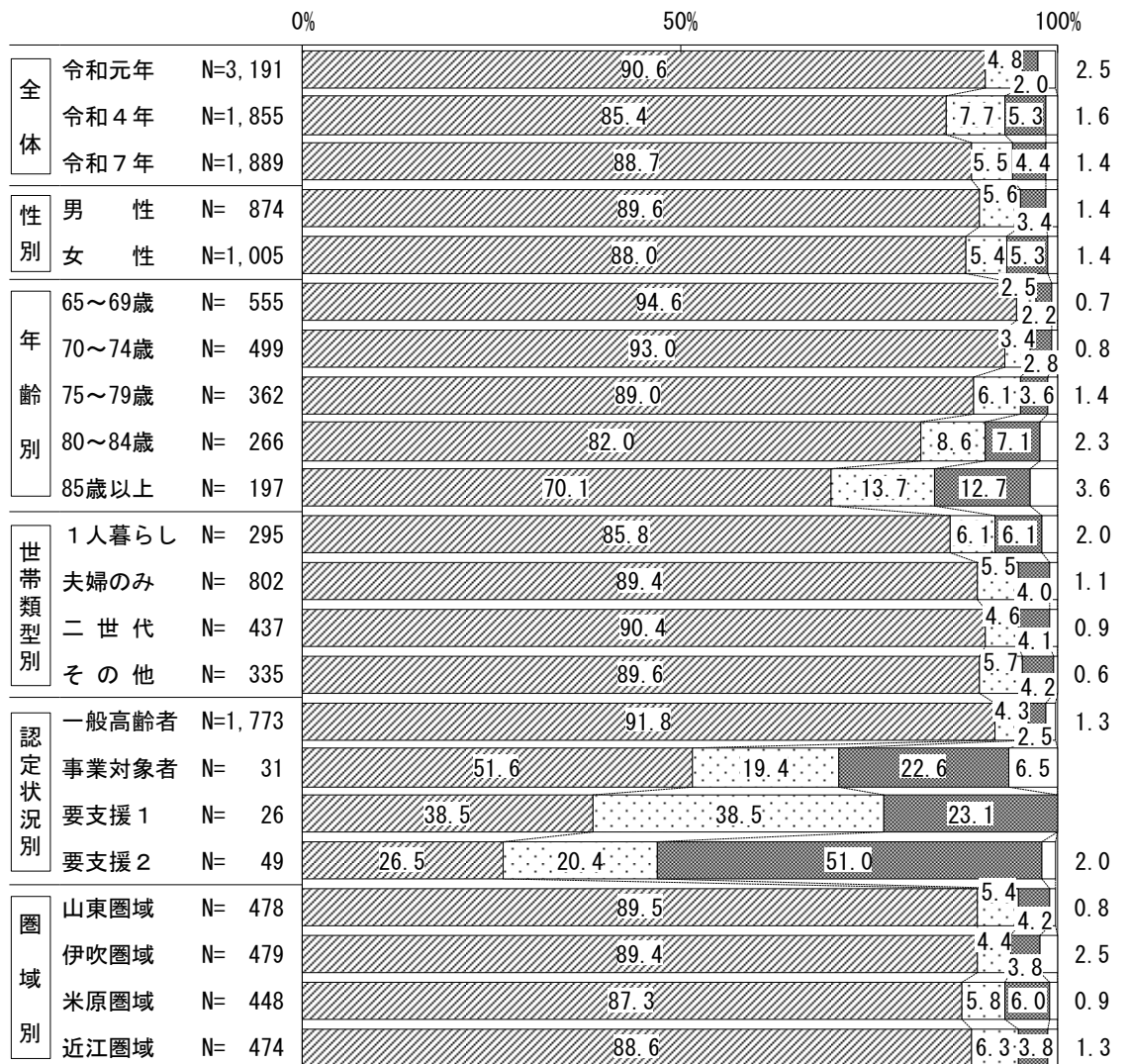
(6) 介護・介助の必要性

「あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか」という設問に対しては、「介護・介助は必要ない」が88.7%を占めています。「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」は5.5%で、これに「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」（4.4%）を加えた《介護・介助が必要》は9.9%です。

年齢別にみると、《介護・介助が必要》は年齢が高くなるにしたがい上昇しており、85歳以上では26.4%となっています。

認定状況別にみると、要支援1および要支援2では《介護・介助が必要》が60%以上を占めており、特に要支援2は71.4%の高い割合となっています。

図表4-6 介護・介助の必要性



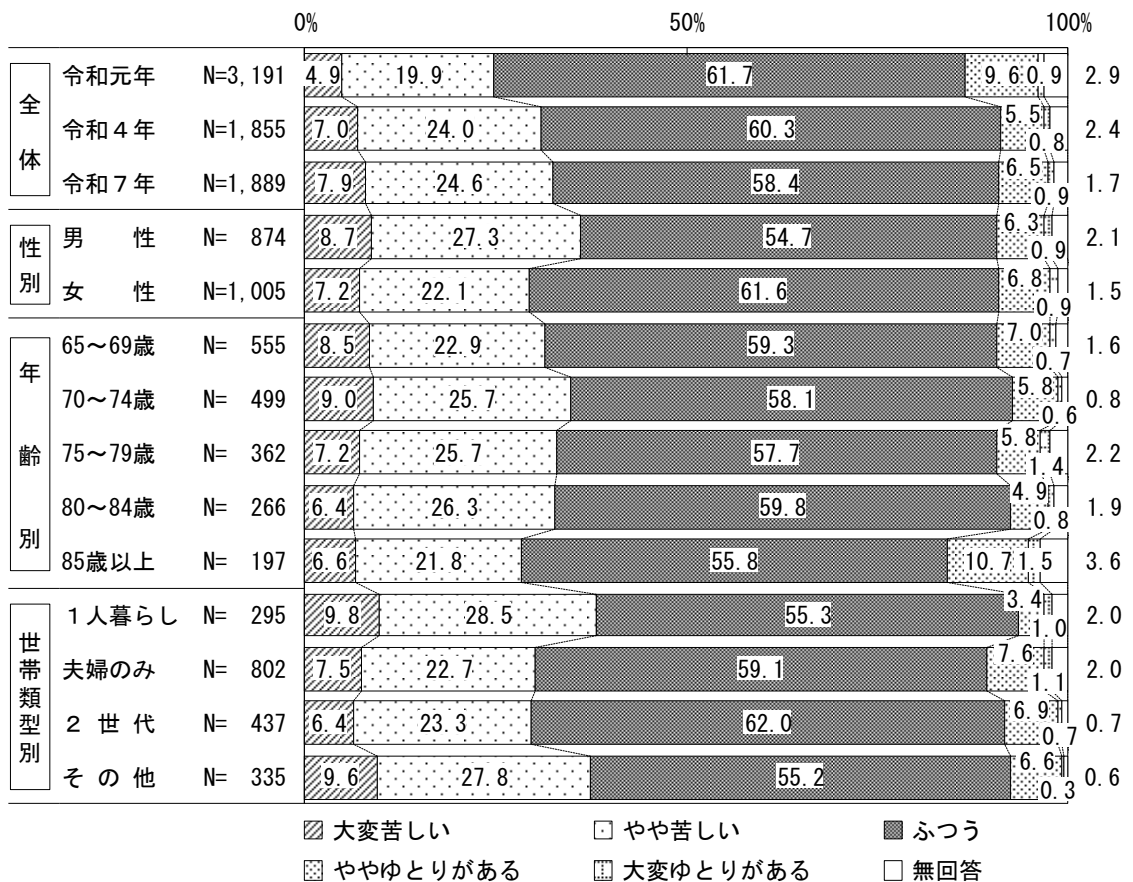
- ▨ 介護・介助は必要ない
- ▤ 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
- 現在、何らかの介護を受けている
- 無回答

(7) 経済的な状況

現在の暮らしの状況を経済的に見てどう感じるかたずねたところ、「ふつう」が58.4%を占めています。「大変苦しい」(7.9%)と「やや苦しい」(24.6%)を合計した《苦しい》は32.5%、「ややゆとりがある」(6.5%)と「大変ゆとりがある」(0.9%)を合計した《ゆとりがある》は7.4%です。これまでの調査結果と比べると、《苦しい》が上昇しています。

《苦しい》は、性別では男性が女性より6.7ポイント高くなっています。また、年齢別では70～74歳が最も高く、85歳以上が低くなっています。

図表4-7 経済的な状況

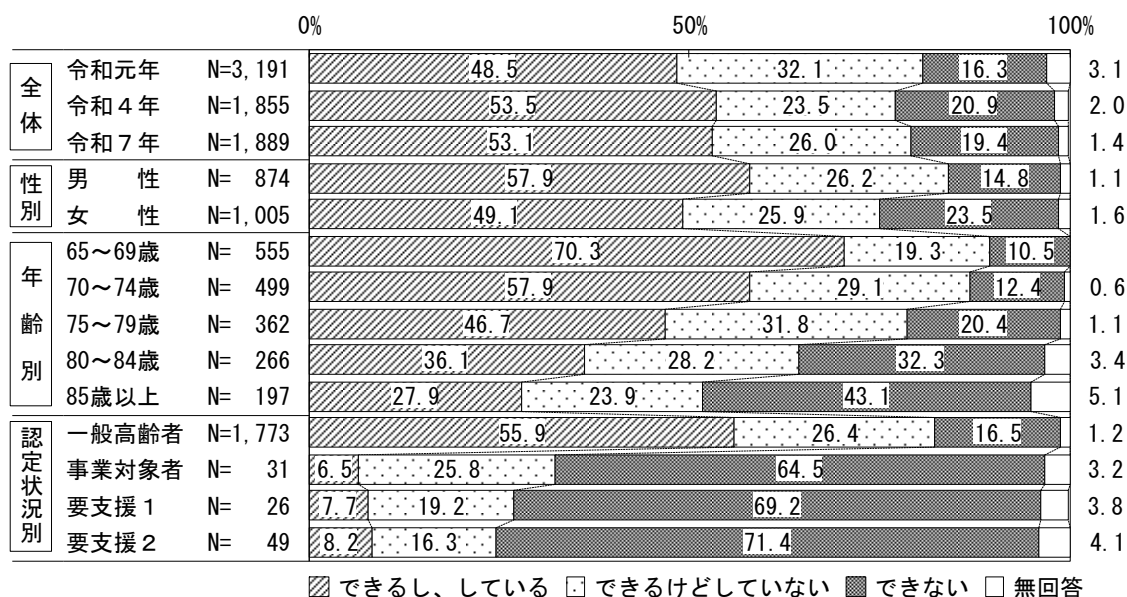


2 からだを動かすこと.....

(1) 階段を手すりや壁をつたわずに登っているか

階段を手すりや壁をつたわずに登ることについては、「できるし、している」「できるけどしていない」を合計した《できる》が79.1%、「できない」が19.4%となっています。「できない」は、性別では女性が男性より高く、年齢別では年齢が高くなるにしたがい上昇しています。また、認定状況別では事業対象者、要支援1・2で60%以上を占めています。

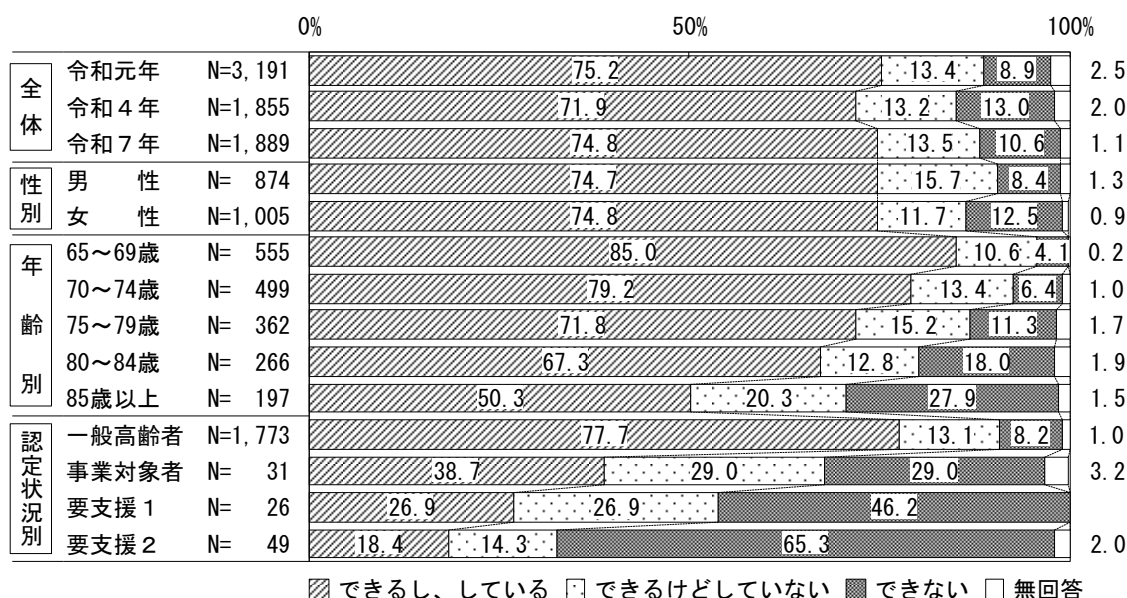
図表4-8 階段を手すりや壁をつたわずに登っているか



(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか

椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることが《できる》は88.3%です。「できない」は、性別では女性が高く、年齢別では年齢が高くなるにしたがい上昇しています。また、認定状況別では要支援2で65.3%を占めています。

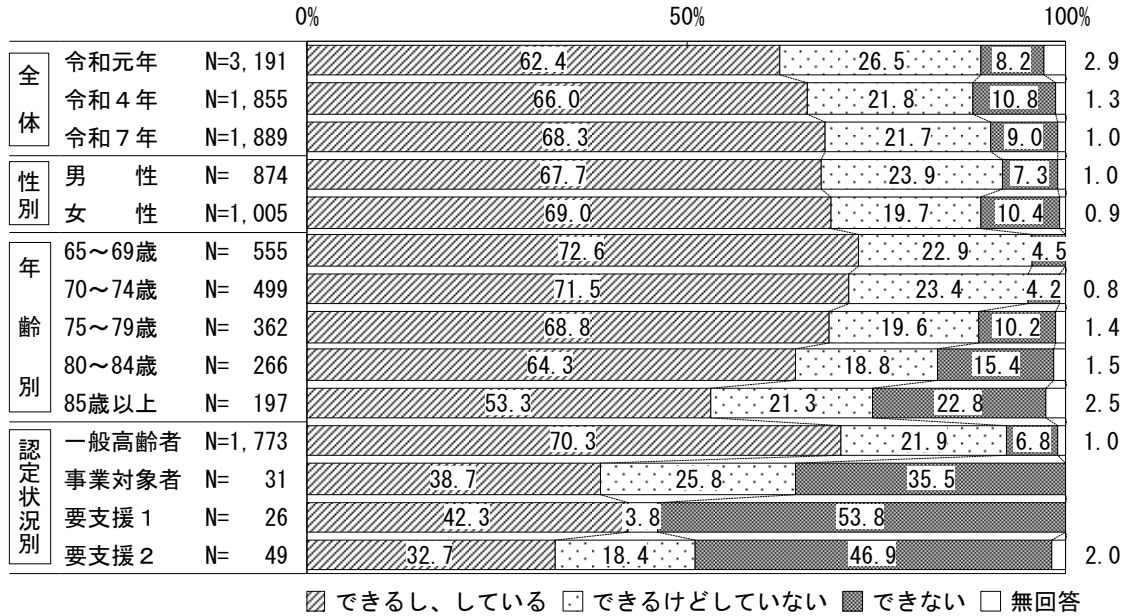
図表4-9 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか



(3) 15分位続けて歩けるか

15分位続けて歩くことについては、《できる》は90.0%、「できない」が9.0%となっています。「できない」は、性別では女性が高く、年齢別では年齢が高くなるにしたがい上昇しています。また、認定状況別では要支援1で53.8%を占めています。

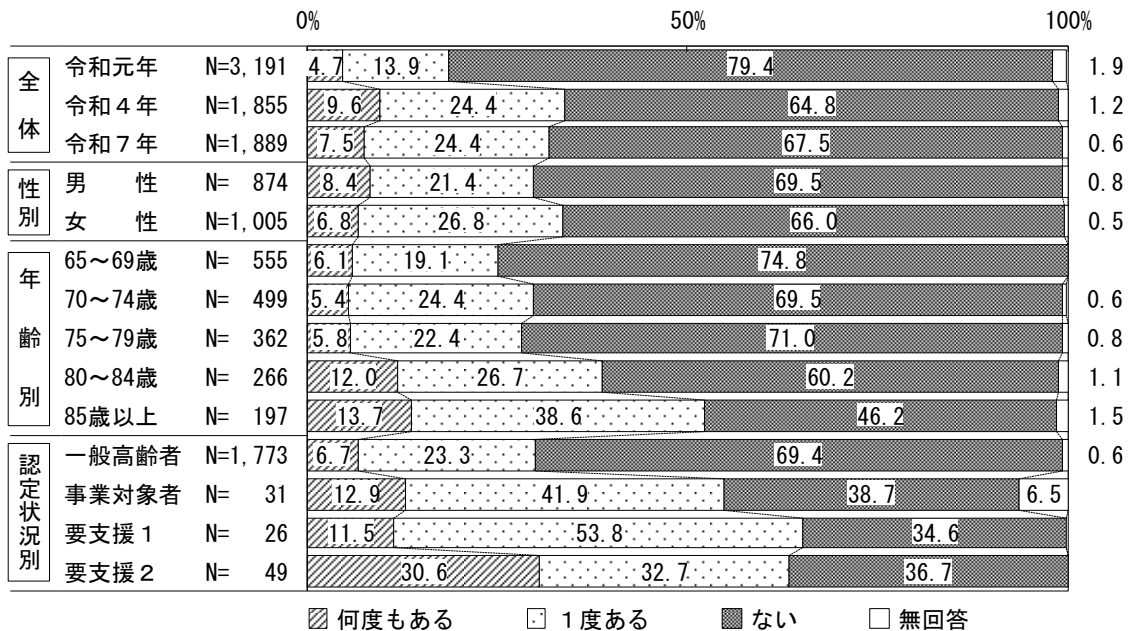
図表4-10 15分位続けて歩けるか



(4) 過去1年間に転んだ経験があるか

この1年間に転んだ経験があるかたずねたところ、「何度もある」が7.5%、「1度ある」が24.4%となっており、合計した《ある》は31.9%です。《ある》は、性別では女性が男性より高く、年齢別では年齢が高くなるにしたがい上昇する傾向にあります。また、認定状況別では要支援1・2で60%以上を占めています。

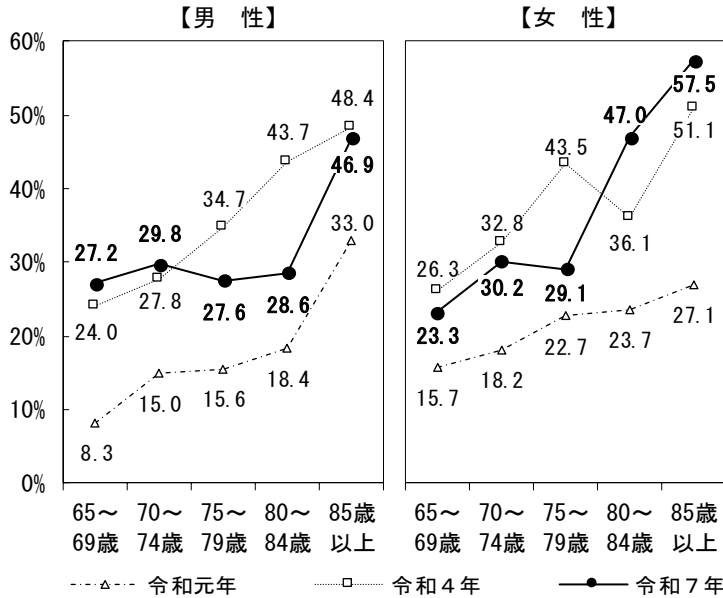
図表4-11 過去1年間に転んだ経験があるか



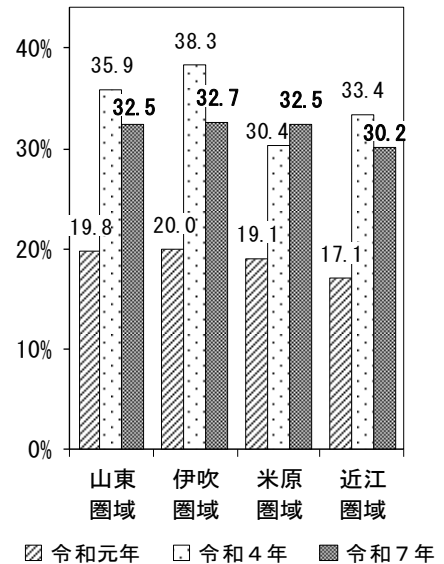
「何度もある」または「1度ある」と回答した場合は、転倒リスクのある高齢者になります。転倒リスクのある高齢者を性・年齢別にみると、男性は85歳以上で大幅に上昇している一方、女性は年齢が高くなるにしたがい上昇する傾向にあります。圏域別にみると、近江圏域が30.2%とやや低くなっているものの、大きな開きはありません。

図表4-12 転倒リスクのある高齢者（性・年齢別、圏域別）

①性・年齢別



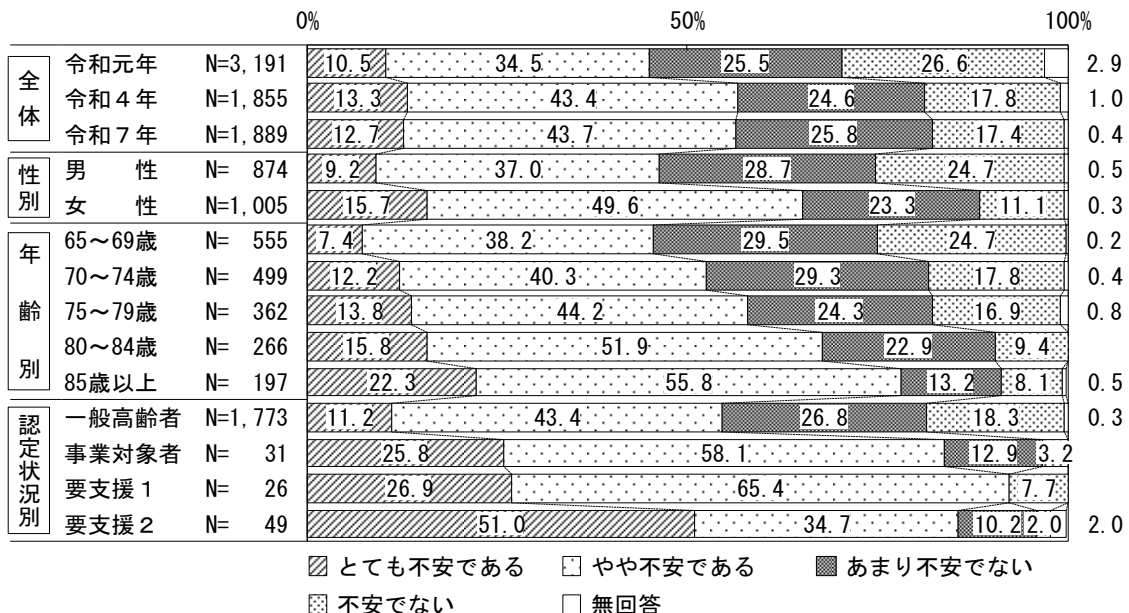
②圏域別



(5) 転倒に対する不安は大きいのか

転倒に対する不安について「とても不安である」(12.7%)と「やや不安である」(43.7%)を合計した《不安である》は56.4%です。《不安である》は、女性が男性より19.1ポイント高く、年齢別では年齢が高くなるにしたがい上昇し、85歳以上で78.1%を占めています。また、認定状況別では事業対象者、要支援1・2で80%以上の高い割合となっており、特に要支援1では92.3%を占めています。

図表4-13 転倒に対する不安は大きいのか



(6) 運動器機能が低下している高齢者

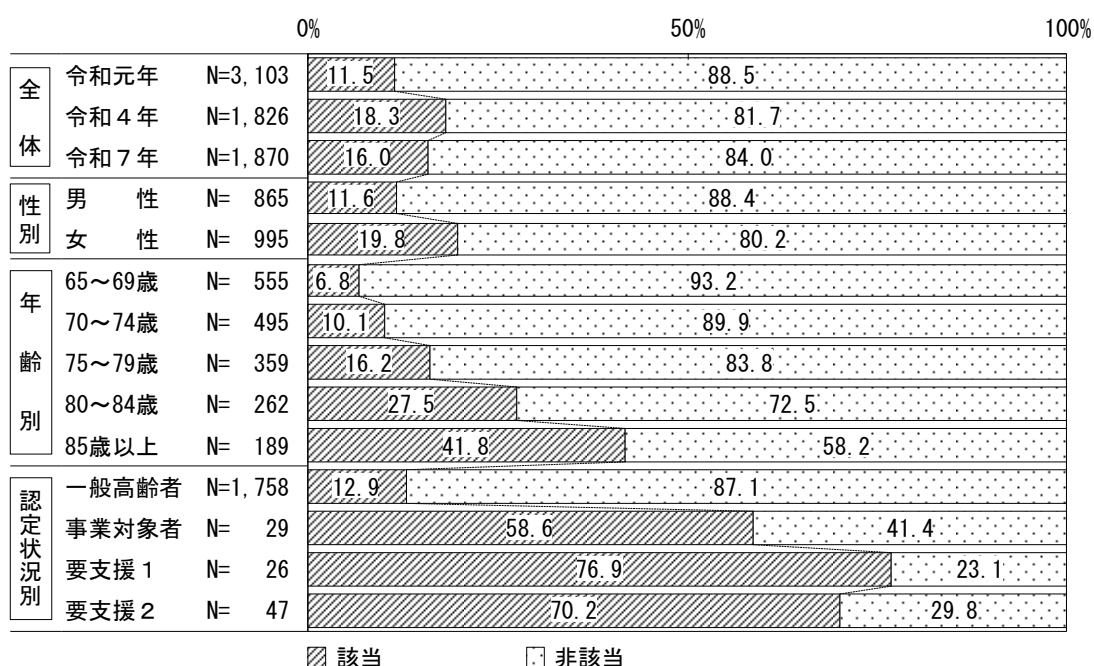
(1)～(5)は運動器の機能低下を問う設問です。5つの設問で3問以上該当する選択肢が回答された場合は、運動器機能が低下している高齢者になります。

設 問	選 択 肢
(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
(3) 15分位続けて歩いていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない
(5) 転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である 2. やや不安である 3. あまり不安でない 4. 不安でない

(注) 表中の網掛けは、該当する選択肢を表しています。

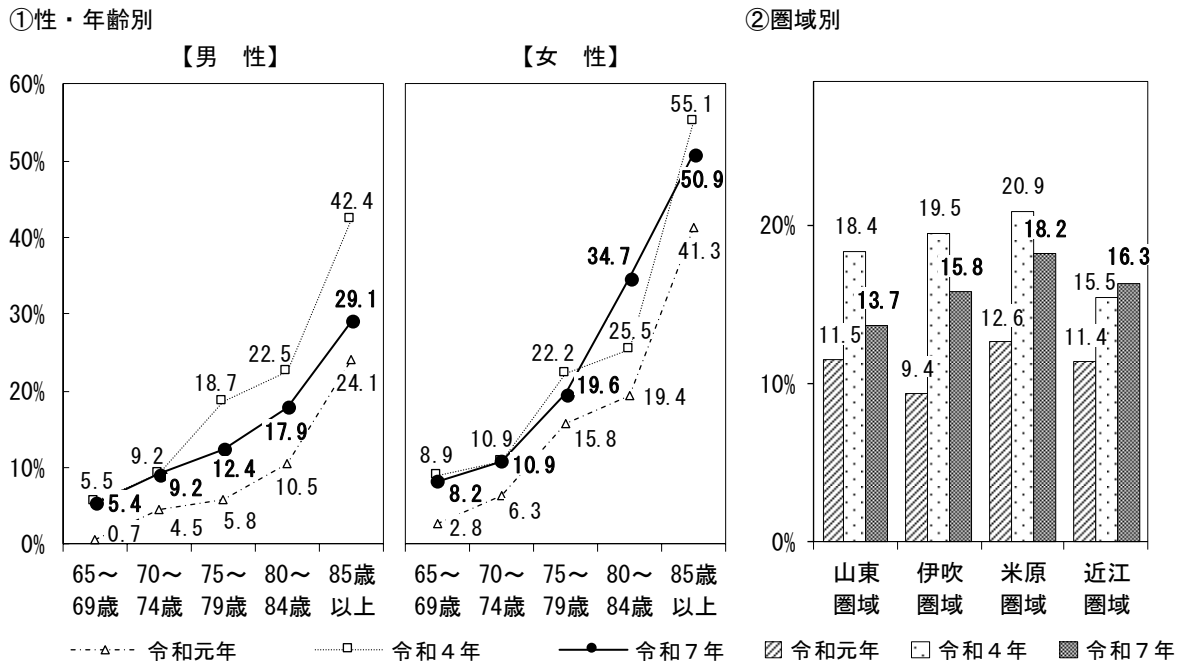
運動器機能が低下している高齢者は16.0%です。性別にみると、女性が男性より8.2ポイント高く、年齢別では年齢が高くなるにしたがい上昇し、85歳以上では41.8%となっています。また、認定状況別では要支援1・2で70%以上を占めています。

図表4-14 運動器機能が低下している高齢者



性・年齢別にみると、男女ともに年齢とともに上昇しています。圏域別にみると、米原圏域が18.2%と最も高く、山東圏域が13.7%と最も低くなっています。

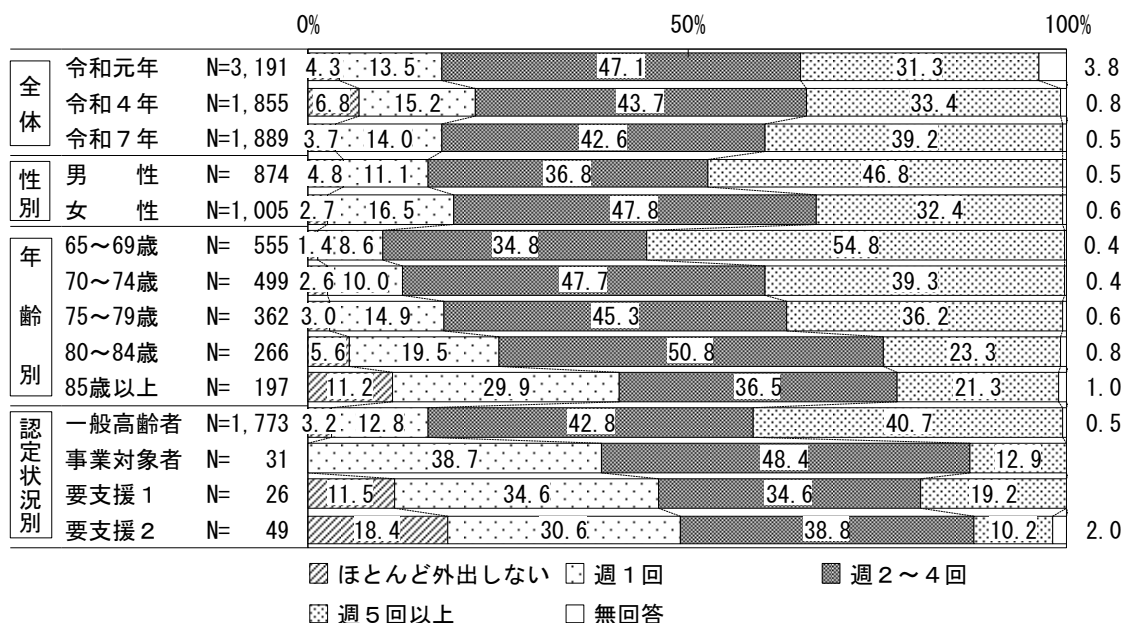
図表4-15 運動器機能が低下している高齢者（性・年齢別、圏域別）



(7) 週に1回以上は外出しているか

(7)、(8)は閉じこもり傾向を問う設問です。外出の頻度は「週2～4回」が42.6%と最も高く、次いで「週5回以上」が39.2%などの順となっています。年齢別にみると、年齢が上がるにつれて外出の頻度は低下しています。

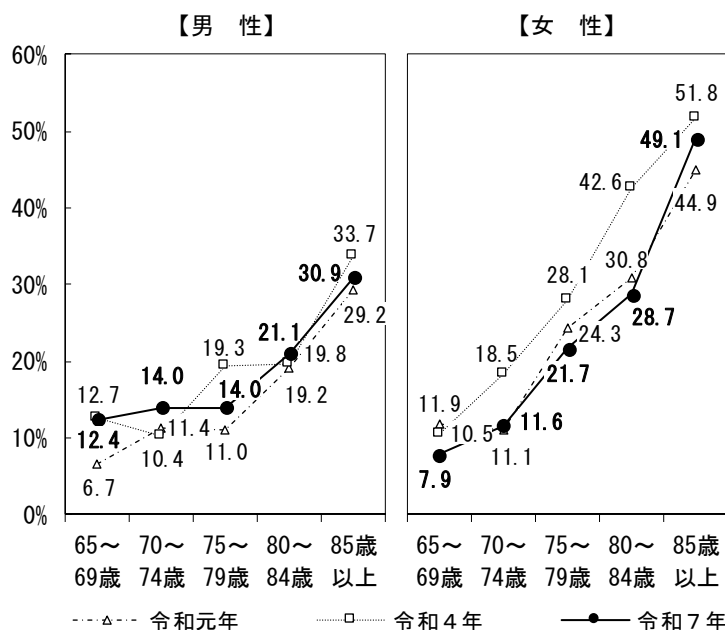
図表4-16 週に1回以上は外出しているか



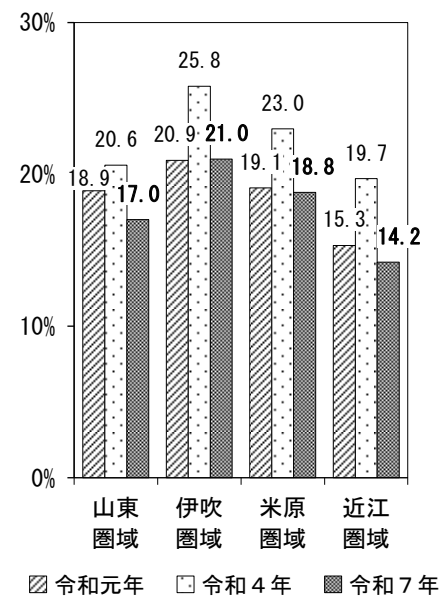
「ほとんど外出しない」または「週1回」と回答した場合は、閉じこもり傾向のある高齢者になります。閉じこもり傾向のある高齢者を性・年齢別にみると、男女ともに年齢が高くなるにしたがい上昇する傾向にあります。圏域別にみると、伊吹圏域が21.0%と最も高く、近江圏域が14.2%と最も低くなっています。

図表4-17 閉じこもり傾向のある高齢者（性・年齢別、圏域別）

①性・年齢別



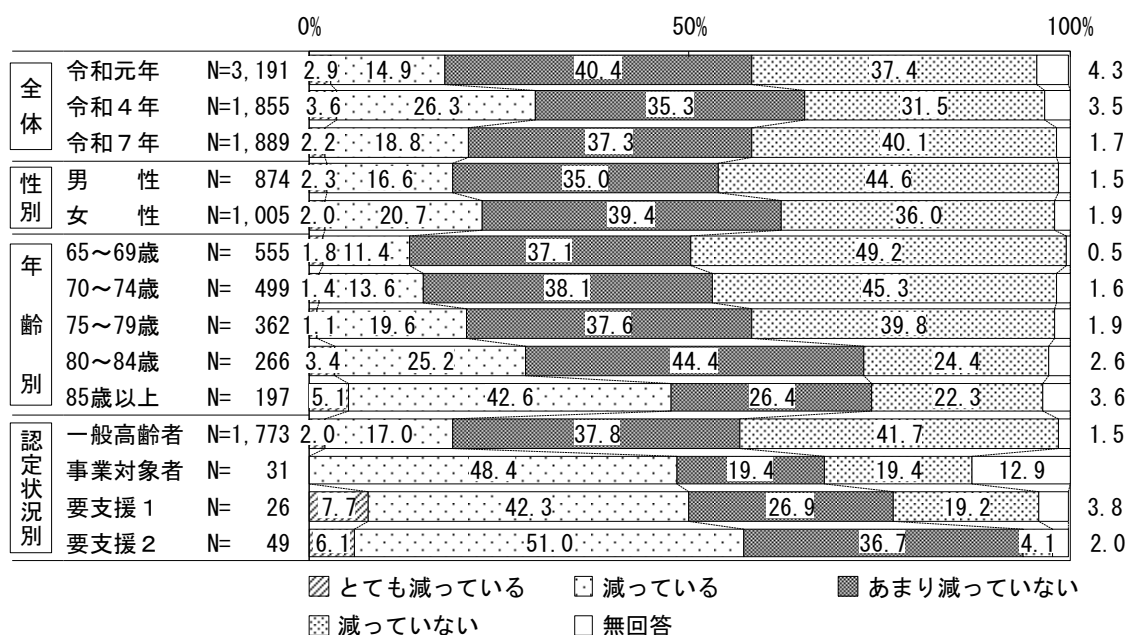
②圏域別



(8) 昨年と比べて外出回数が減っているか

昨年に比べて外出回数が「とても減っている」は2.2%、「減っている」は18.8%で、合計した《減っている》は21.0%です。《減っている》を年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい上昇しており、85歳以上では47.7%となっています。

図表4-18 昨年と比べて外出回数が減っているか



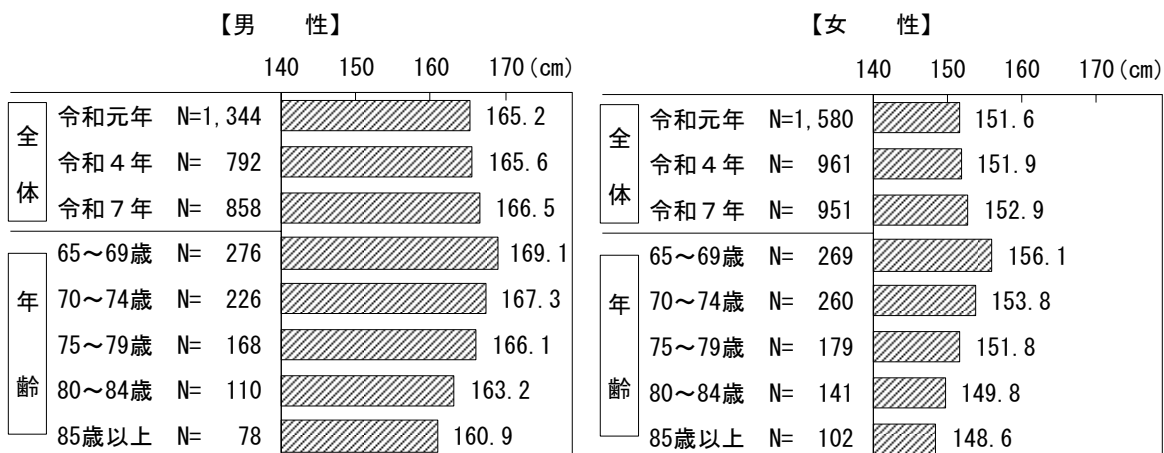
3 食べること.....

(1) 身長と体重

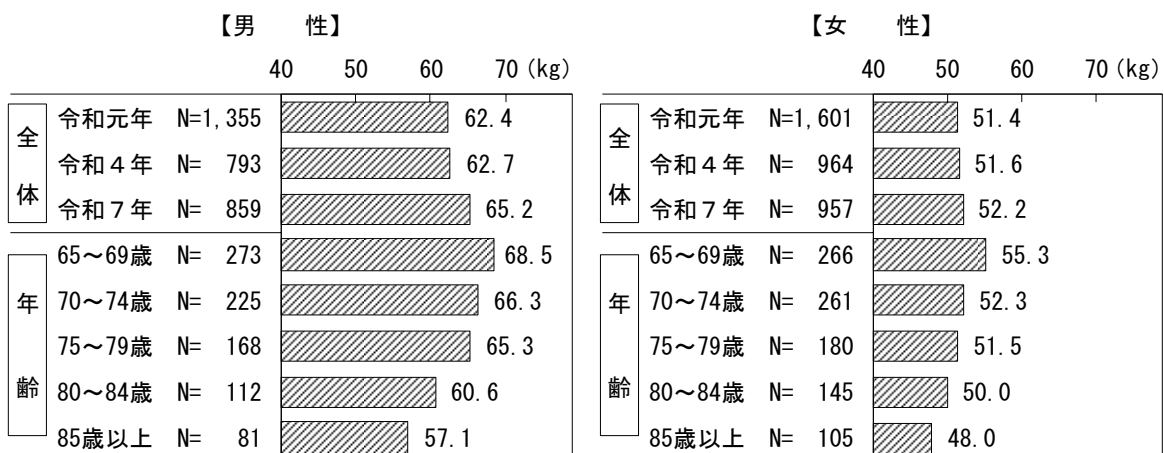
身長は平均は、男性が166.5cm、女性が152.9cm、体重は平均は、男性が65.2kg、女性が52.2kgです。身長、体重ともに年齢が高くなるにしたがい低くなっています。

図表4-19 身長と体重

①平均身長



②平均体重

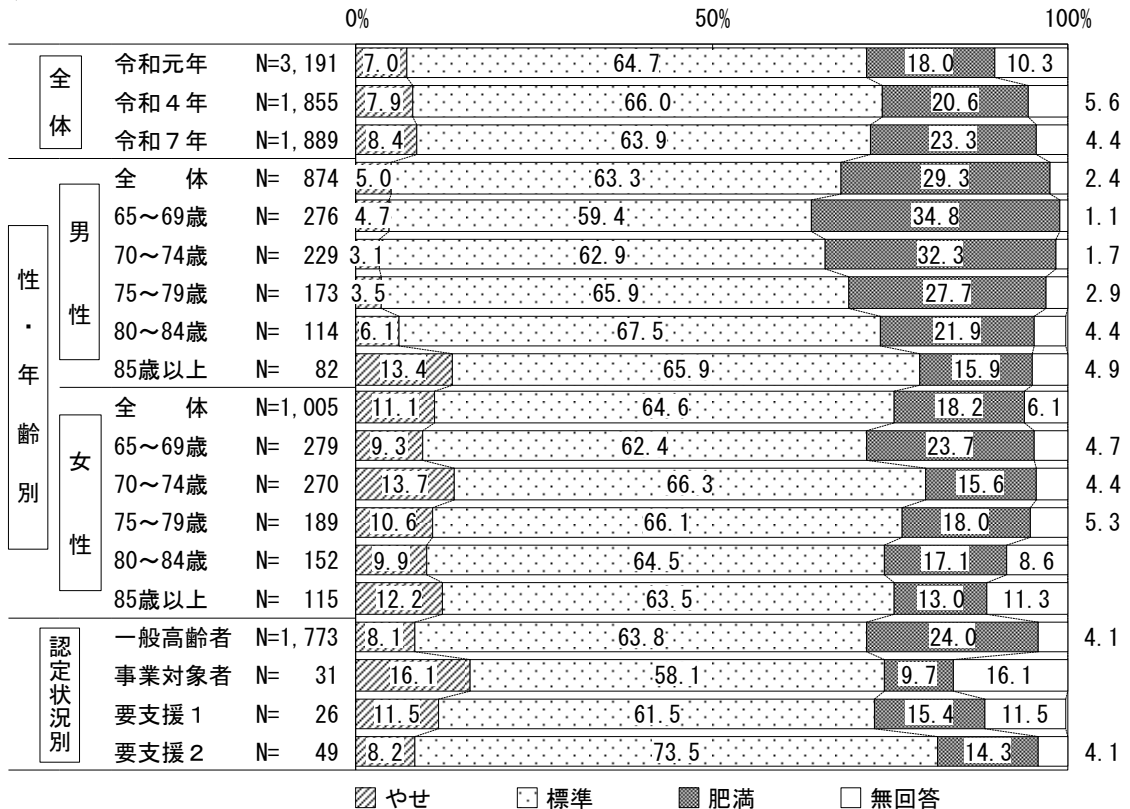


(2) BMI

BMIとは、体重(kg)を身長(m)の2乗で割った値で、18.5未満が「やせ」、25.0以上が「肥満」とされます。「やせ」は全体では8.4%で、低栄養が疑われる高齢者です。これまでの調査結果と比較すると、「肥満」が上昇しています。

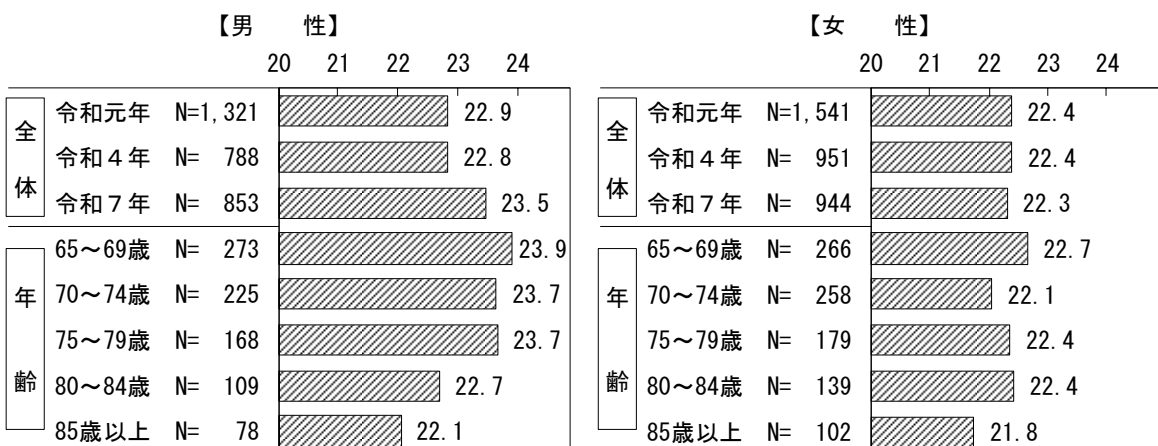
性別にみると、「やせ」は男性の5.0%に対し、女性は11.1%と高くなっています。認定状況別にみると、「やせ」は事業対象者が、「肥満」は一般高齢者が最も高くなっています。

図表4-20 BMI



BMIの平均値を年齢別にみると、男性は22.1~23.9、女性は21.8~22.7となっており、いずれも「標準(18.5~25未満)」を示しています。男性は年齢が高くなるにしたがい低下する傾向にあり、女性は85歳以上で低くなっています。

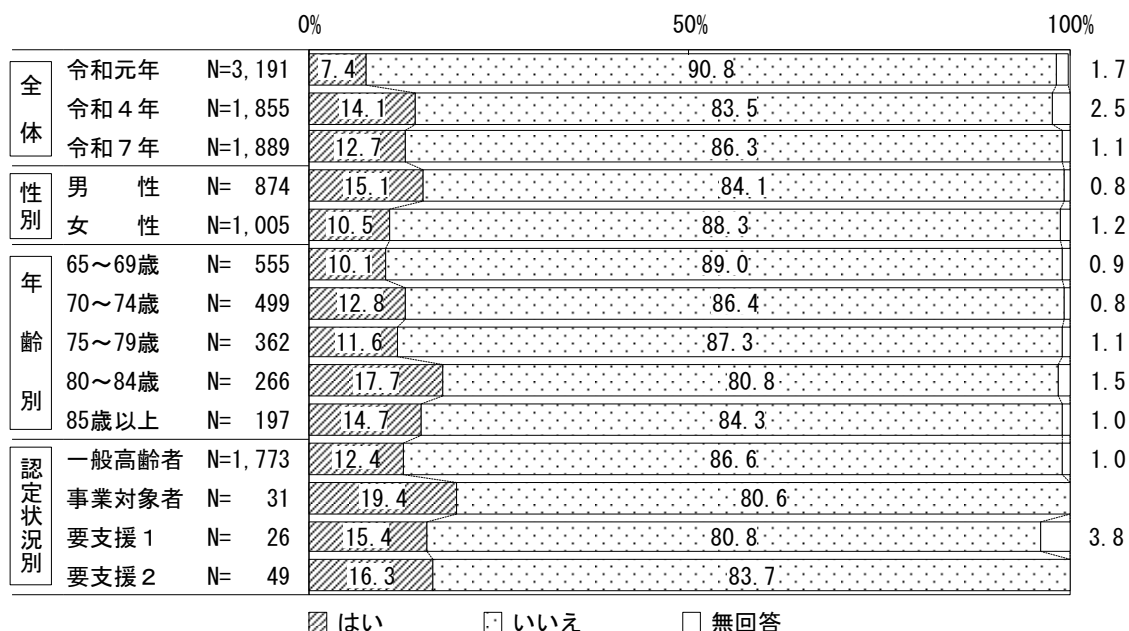
図表4-21 BMIの平均値



(3) 6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか

6か月間で2～3kg以上の体重減少があったかたずねたところ、「はい」(あった)は12.7%です。「はい」は、性別では男性、年齢別では80～84歳、認定状況別では事業対象者が高くなっています。

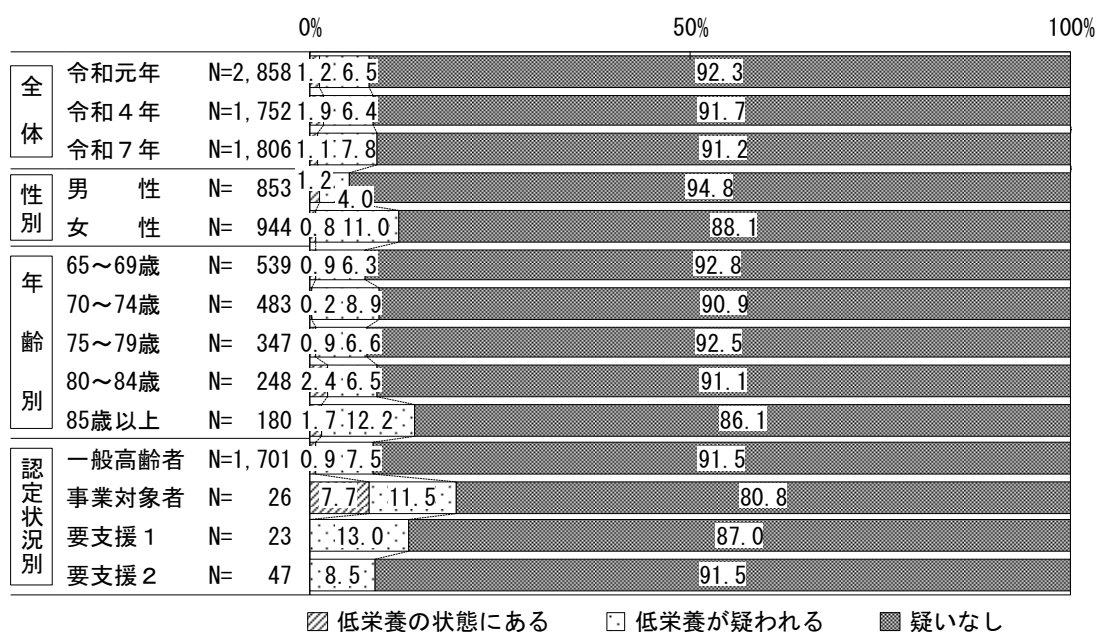
図表4-22 6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか



(4) 低栄養状態にある高齢者

BMIが18.5未満の「やせ」である場合は低栄養が疑われる高齢者になり、さらにそのうち6か月間で2～3kg以上の体重減少があったと答えた人は低栄養状態にある高齢者となります。低栄養状態にある高齢者は1.1%です。

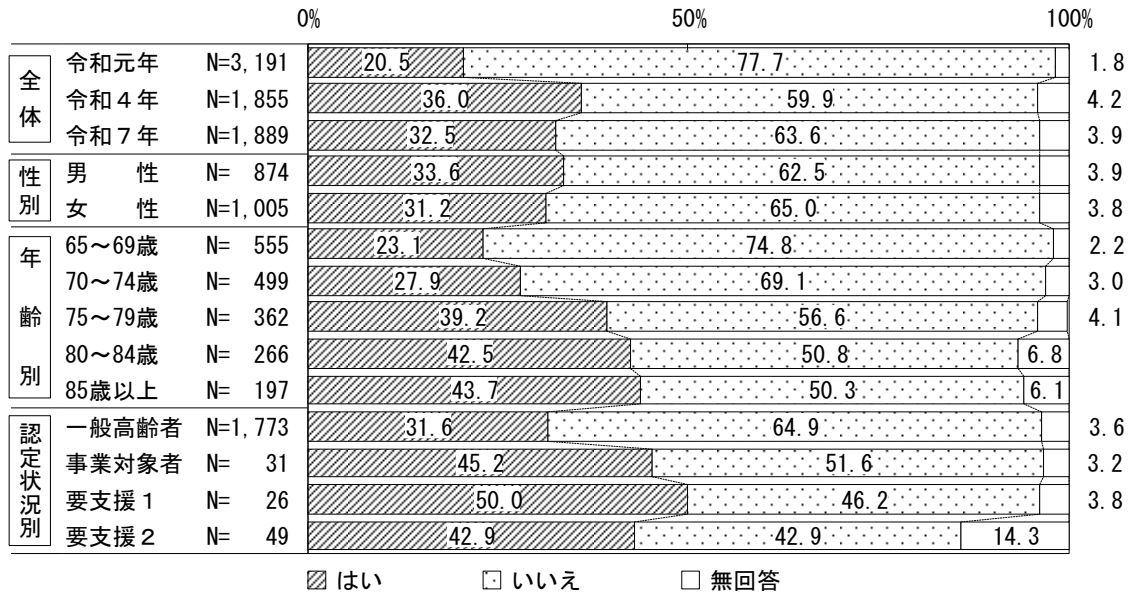
図表4-23 低栄養状態にある高齢者



(5) 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか

半年前に比べて固いものが食べにくくなったかたずねたところ、「はい」(なった)は32.5%となっており、咀嚼機能の低下が疑われます。「はい」は、性別では男性が高く、年齢別では年齢が高くなるにしたがい上昇しています。また、認定状況別では要支援1で50.0%を占めています。

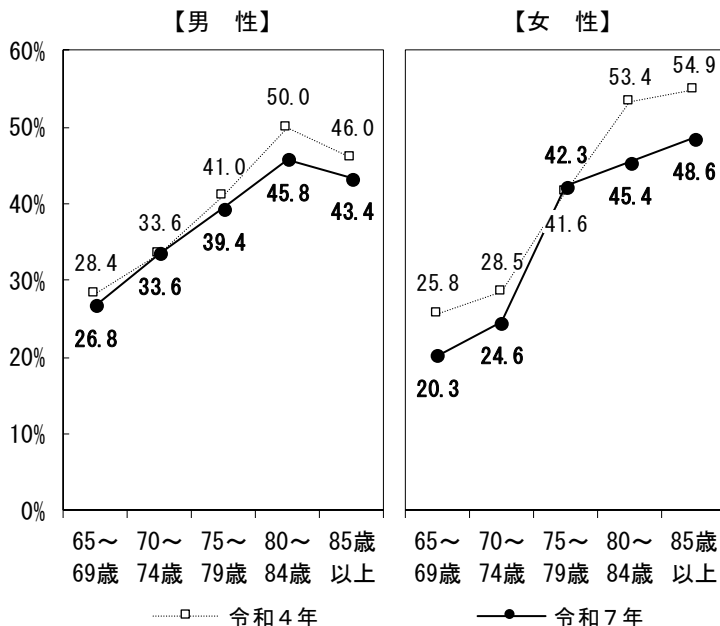
図表4-24 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか



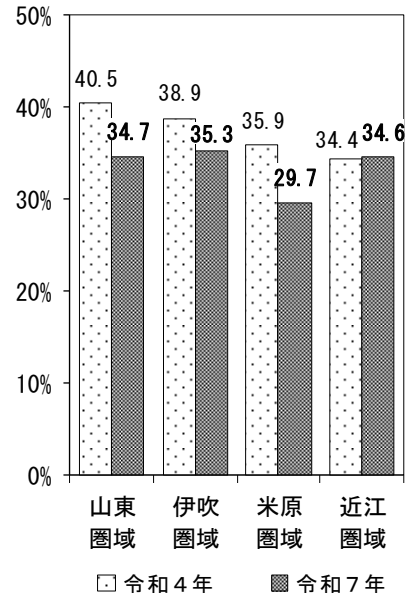
「はい」と回答した場合は、咀嚼機能の低下が疑われる高齢者となります。咀嚼機能の低下が疑われる高齢者を性・年齢別にみると、男女ともに年齢とともに上昇する傾向にあります。圏域別にみると、米原圏域が29.7%と低くなっていますが、そのほかの圏域では35%程度となっており大きな開きはありません。

図表4-25 咀嚼機能の低下が疑われる高齢者(性・年齢別、圏域別)

①性・年齢別



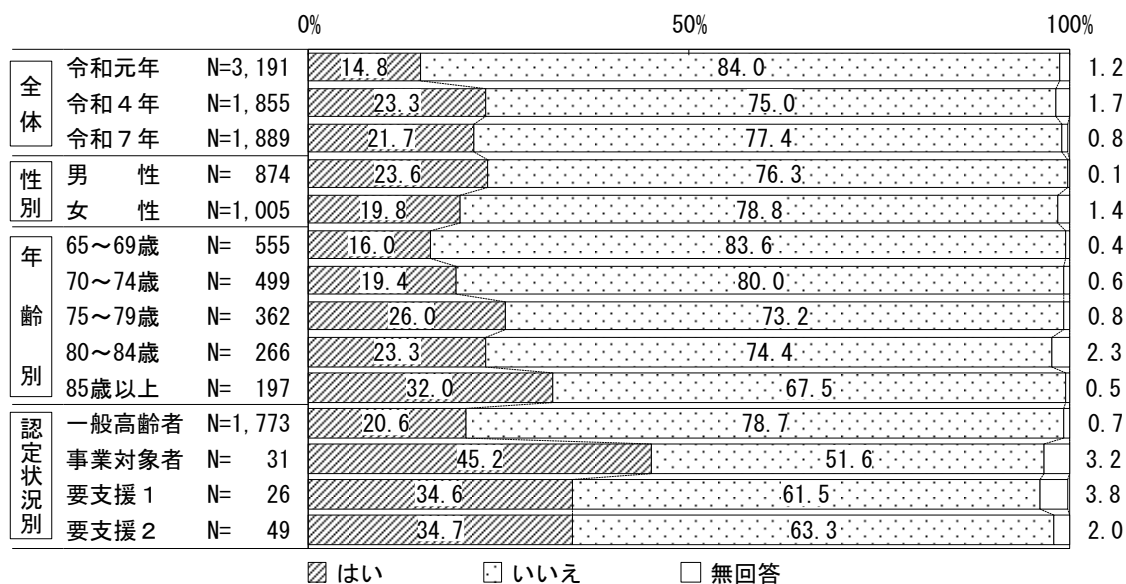
②圏域別



(6) お茶や汁物等でむせることがあるか

お茶や汁物等でむせることがあるかたずねたところ、「はい」(ある)と答えた人は21.7%で、嚥下機能の低下が疑われます。「はい」は、性別では男性が高く、年齢別では年齢が高くなるにしたがい上昇する傾向にあります。

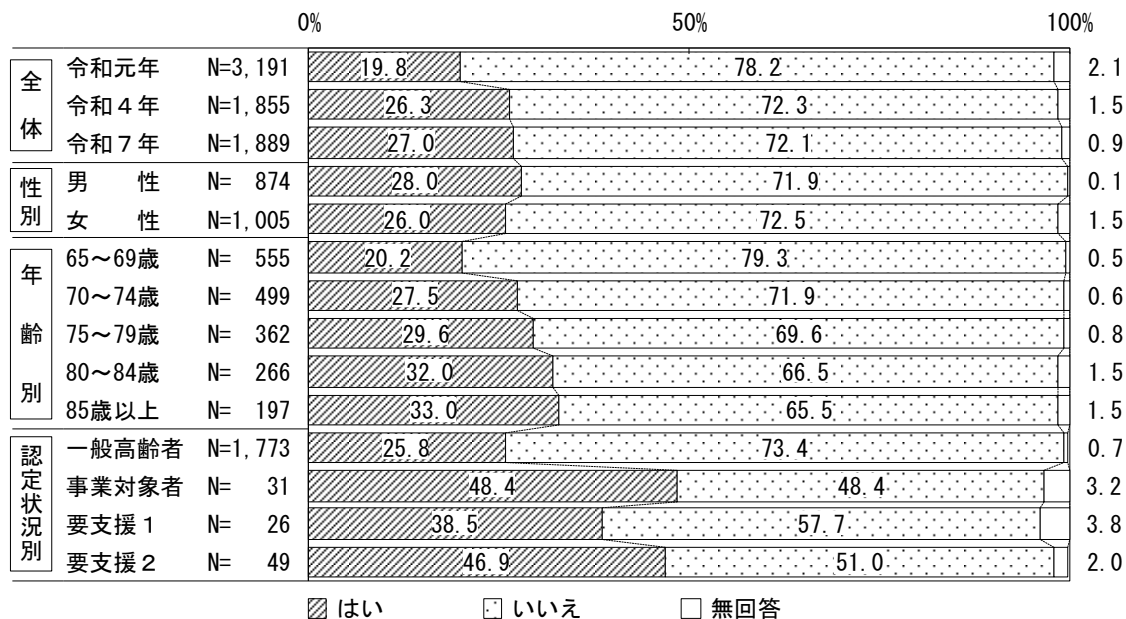
図表4-26 お茶や汁物等でむせることがあるか



(7) 口の渇きが気になるか

肺炎発症リスクを把握する設問です。口の渇きが気になるかたずねたところ、「はい」(気になる)と答えた人は27.0%です。「はい」は、性別では男性が高く、年齢別では年齢が高くなるにしたがい上昇しています。

図表4-27 口の渇きが気になるか

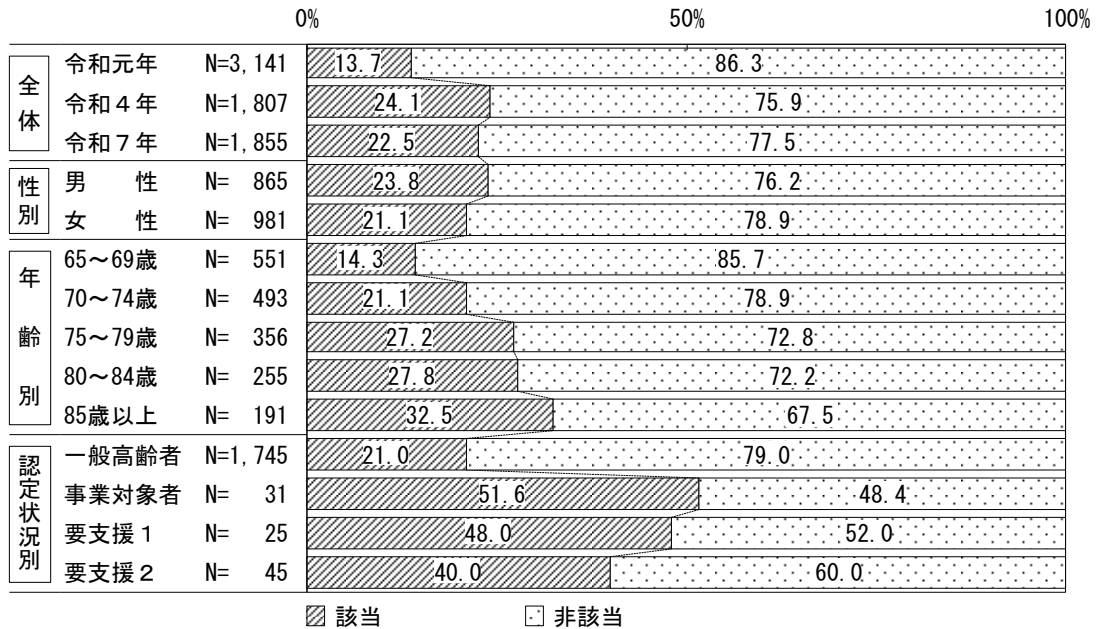


(8) 口腔機能が低下している高齢者

(5)～(7)の設問のうち、2つが該当した場合は口腔機能が低下している高齢者となります。

「該当」は22.5%です。性別では男性が女性より高く、年齢別では年齢が高くなるにしたがい上昇しています。また、認定状況別では事業対象者が51.6%を占めています。

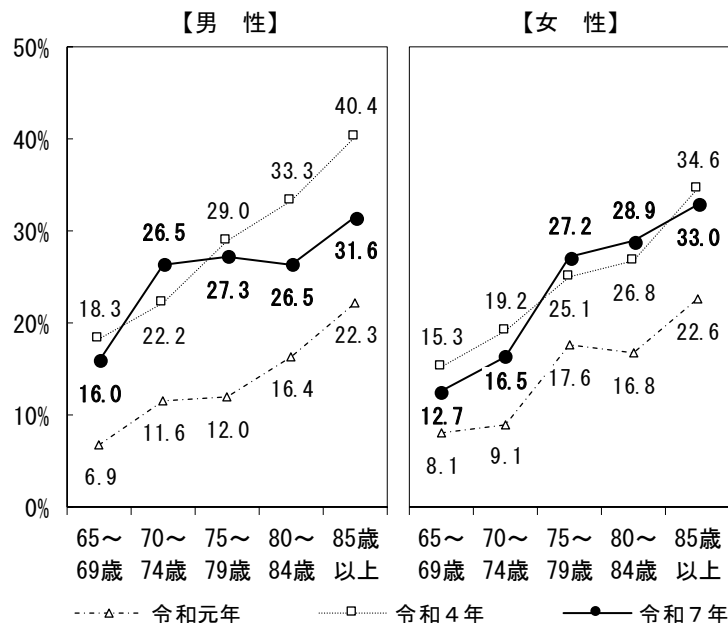
図表 4-28 口腔機能が低下している高齢者



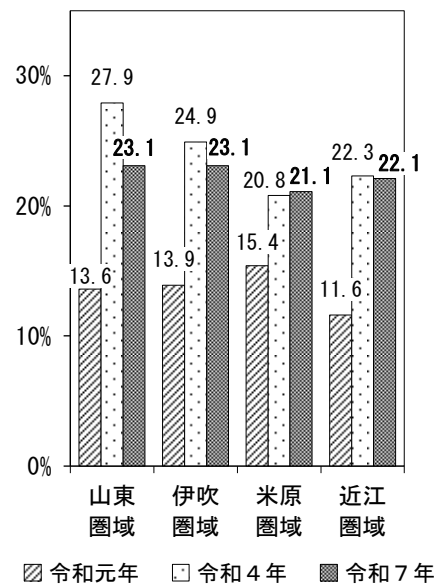
性・年齢別にみると、男性は70～74歳で上昇、その後は横ばいで推移し、85歳以上で再び上昇しています。また、女性は年齢が高くなるにしたがい上昇しています。圏域別にみると、山東圏域および伊吹圏域が23.1%と最も高くなっていますが、大きな開きはありません。

図表 4-29 口腔機能が低下している高齢者（性・年齢別、圏域別）

①性・年齢別



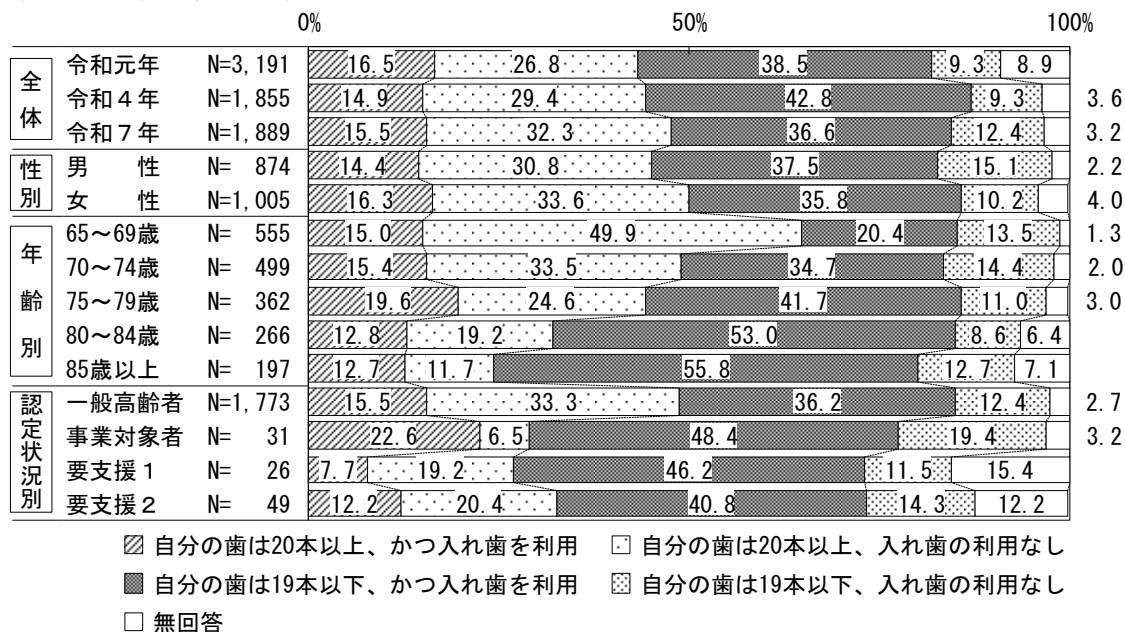
②圏域別



(9) 歯の数と入れ歯の利用状況

歯の数と入れ歯の利用状況をたずねたところ、《自分の歯が20本以上》は47.8%、《自分の歯が19本以下》は49.0%です。また、《入れ歯を利用》しているのは52.1%、《入れ歯なし》は44.7%です。《自分の歯が20本以上》は、性別では女性が男性より4.7ポイント高くなっています。また、年齢別では年齢が高くなるにしたがい低下し、65～69歳では64.9%あったものが、75～79歳では44.2%、80～84歳では32.0%、85歳以上では24.4%となっています。

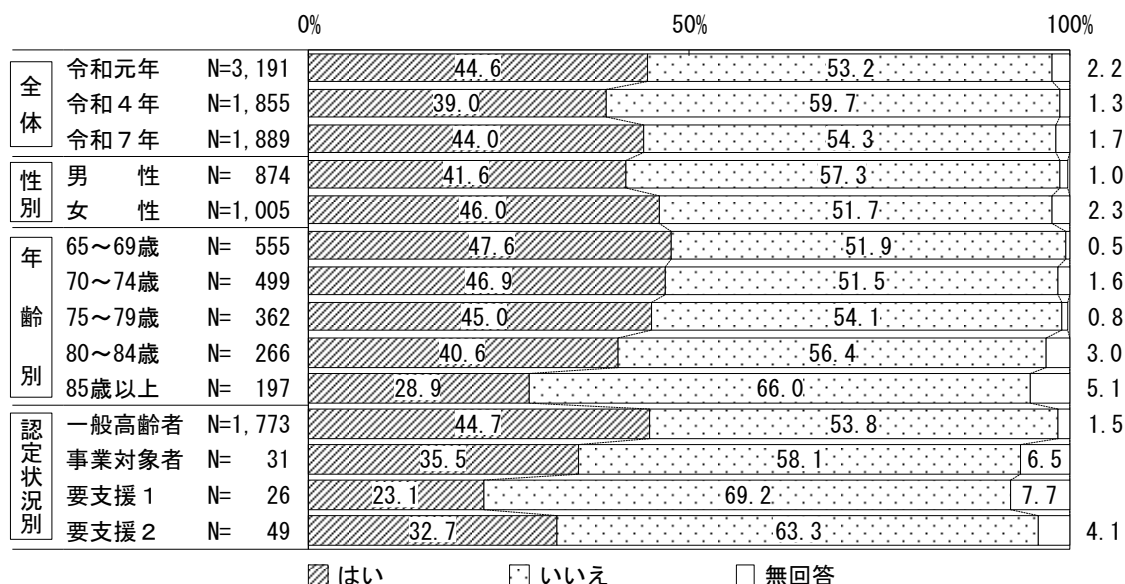
図表4-30 歯の数と入れ歯の利用状況



(10) 定期的に歯科受診をしているか

定期的に歯科受診（健診を含む）をしている（「はい」）人は44.0%です。「はい」は、性別では女性が高く、年齢別では年齢が高くなるにしたがい低下し、85歳以上では28.9%となっています。

図表4-31 定期的に歯科受診をしているか



(11) 誰かと食事をする機会はあるか

誰かと食事をとる機会があるかたずねたところ、「毎日ある」が61.0%を占めています。

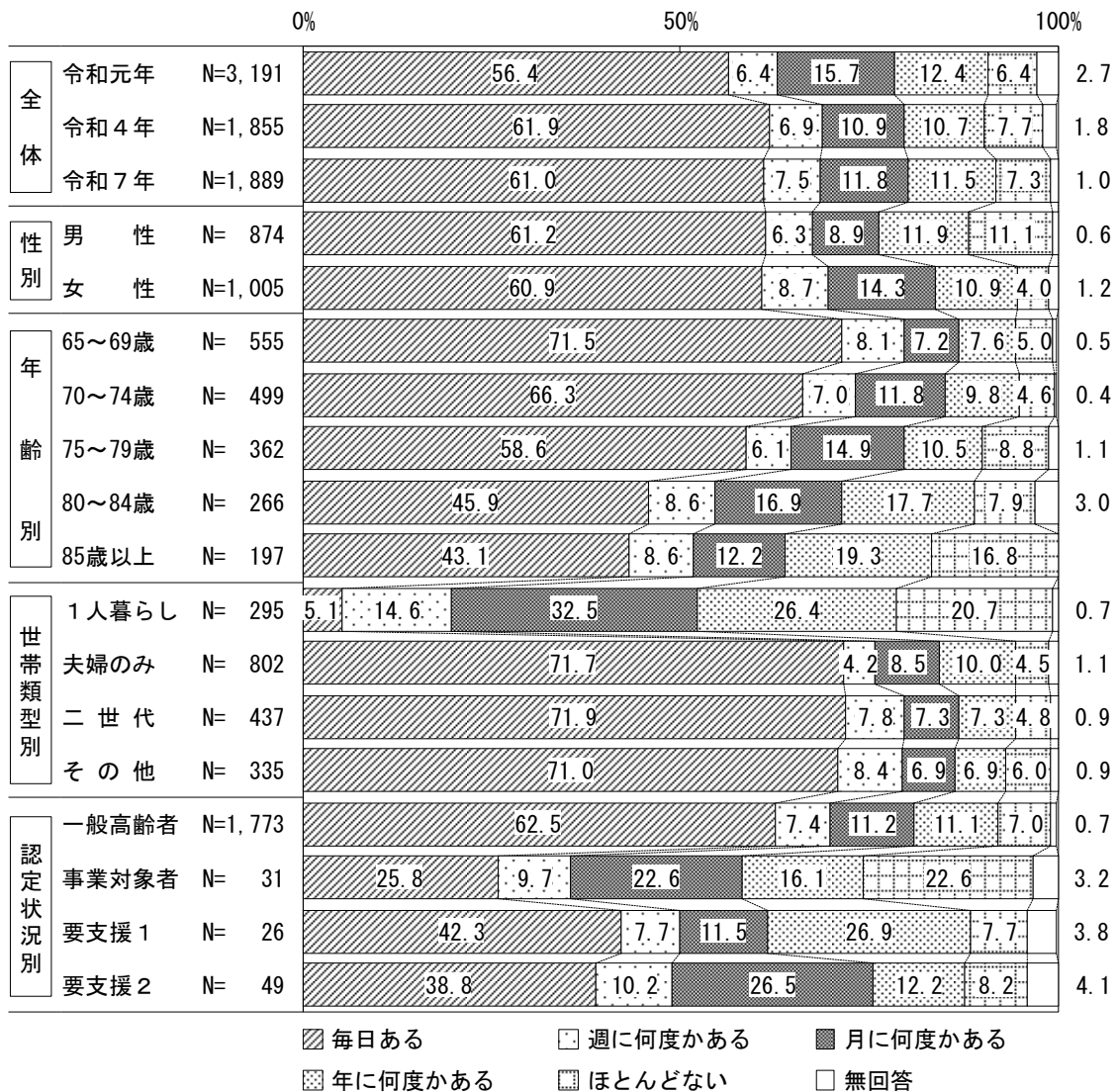
性別にみると、男性は女性に比べて「ほとんどない」が7.1ポイント高くなっています。

年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「毎日ある」が低下しています。

世帯類型別にみると、1人暮らしでは、「月に何度かある」が32.5%と最も高く、次いで「年に何度かある」が26.4%となっており、両者で58.9%を占めています。「毎日ある」は5.1%、「ほとんどない」は14.6%です。

認定状況別にみると、「毎日ある」が過半数を占めているのは一般高齢者のみとなっています。

図表4-32 誰かと食事をする機会はあるか



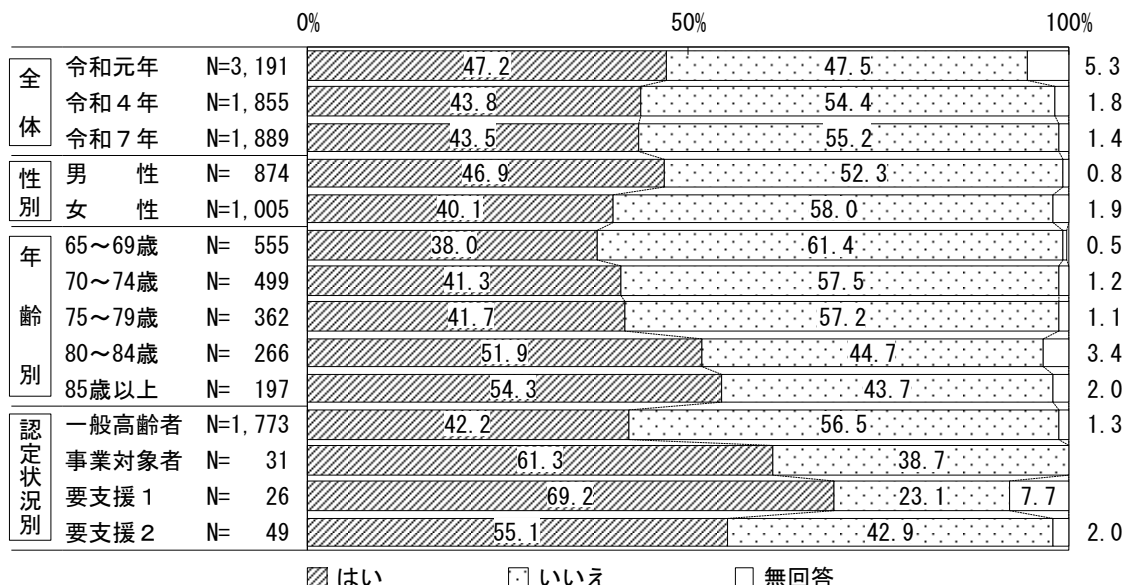
4 毎日の生活.....

(1) 物忘れが多いと感じるか

物忘れが多いと感じてるかたずねたところ、「はい」(感じる)は43.5%です。

「はい」は、性別では男性が高く、年齢別では年齢が高くなるにしたがい上昇し、80歳以上では50%以上を占めています。また、認定状況別では事業対象者および要支援1で60%以上を占めています。

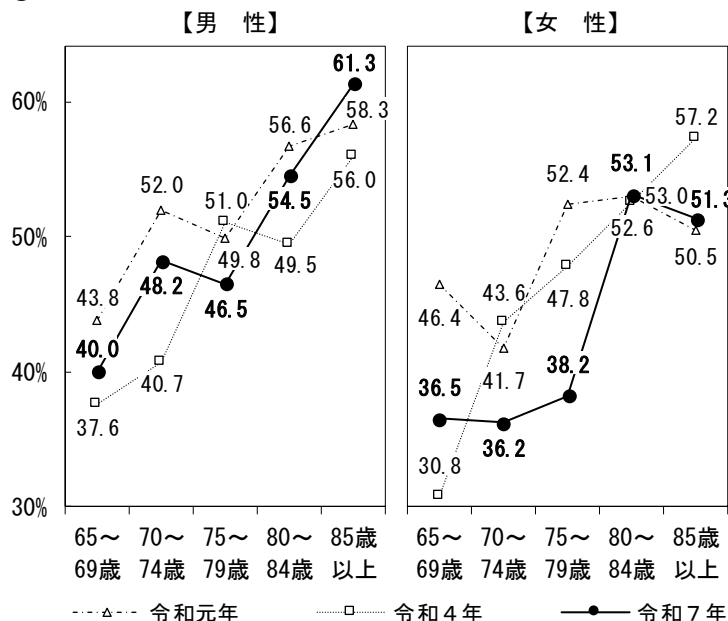
図表4-33 物忘れが多いと感じるか



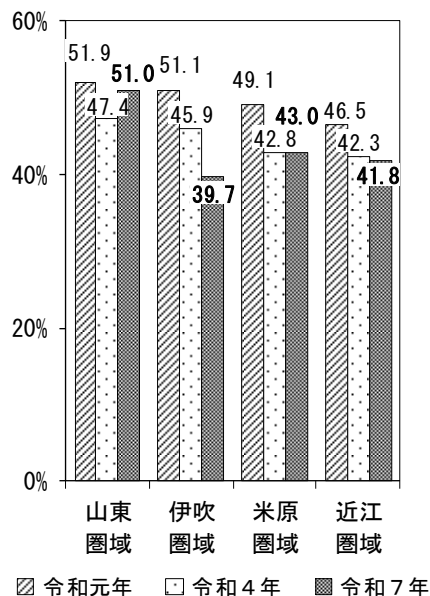
「はい」と回答した場合は、認知機能の低下がみられる高齢者となります。認知機能の低下がみられる高齢者を性・年齢別にみると、男性は75歳以上で年齢が高くなるにしたがい上昇し、女性は80~84歳で急激に上昇しています。圏域別にみると、山東圏域が51.0%と最も高く、伊吹圏域が39.7%と低くなっています。

図表4-34 認知機能が低下している高齢者(性・年齢別、圏域別)

①性・年齢別



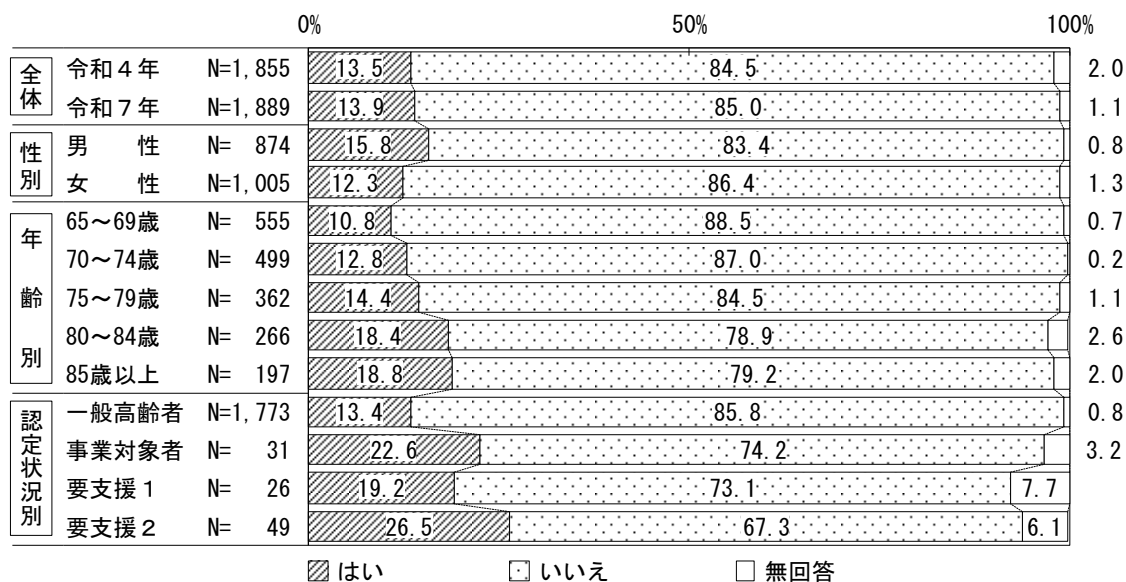
②圏域別



(2) 周りの人から物忘れがあるとと言われるか

周りの人から物忘れがあるとと言われるかたずねたところ、「はい」（言われる）は13.9%となっています。「はい」は、性別では男性が高く、年齢別では年齢が高くなるにしたがい上昇傾向にあります。また、認定状況別では事業対象者および要支援2で20%を超えています。

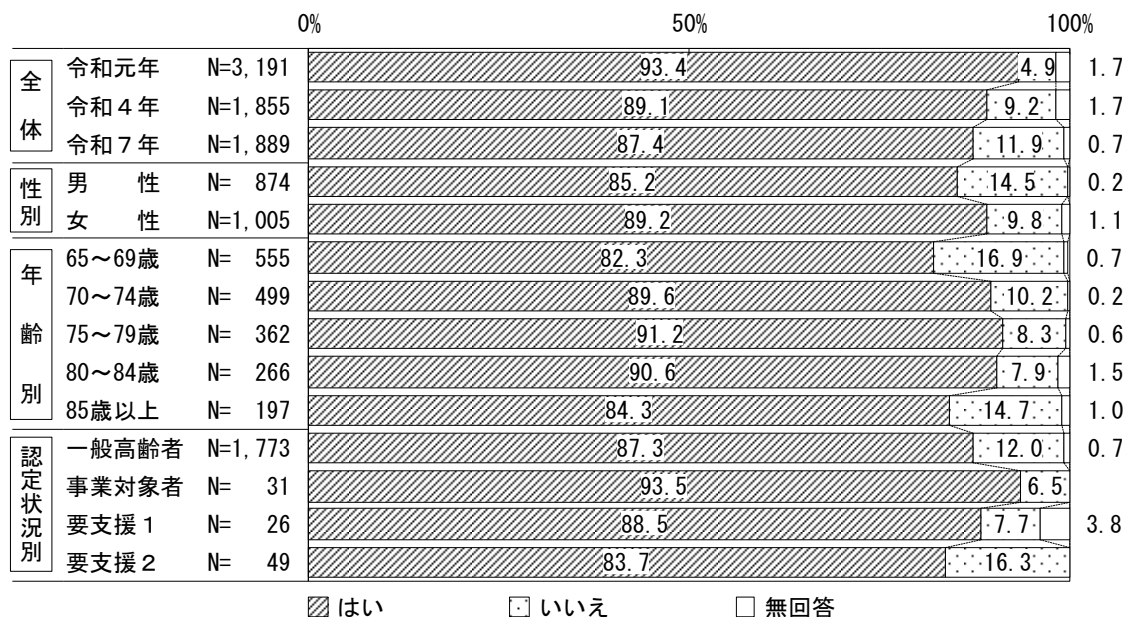
図表4-35 周りの人から物忘れがあるとと言われるか



(3) 電話番号を調べて電話をかけているか

自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしているかたずねたところ、「はい」（している）は87.4%となっています。「はい」は、性別では女性が高く、年齢別では75～79歳までは年齢が高くなるにしたがい上昇しているものの、80歳以上では低下に転じています。

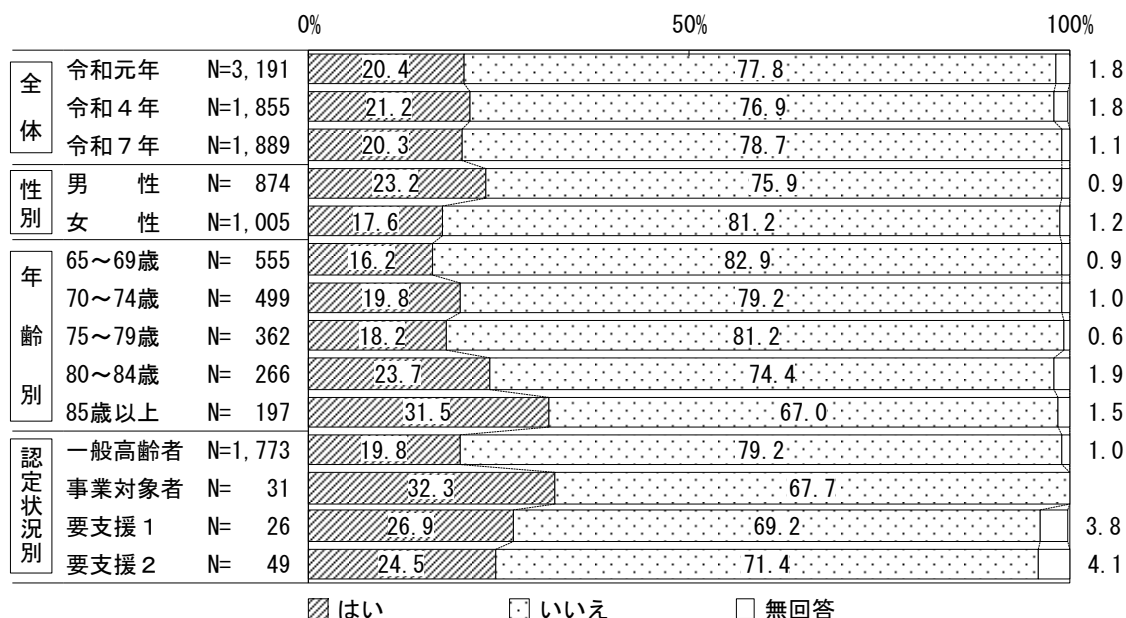
図表4-36 電話番号を調べて電話をかけているか



(4) 今日が何月何日かわからない時があるか

「今日が何月何日かわからない時がありますか」という設問では、「はい」(ある)が20.3%となっています。「はい」は、性別では男性が高く、年齢別では年齢が高くなるにしたがい上昇する傾向にあります。また、認定状況別では事業対象者で32.3%と高くなっています。

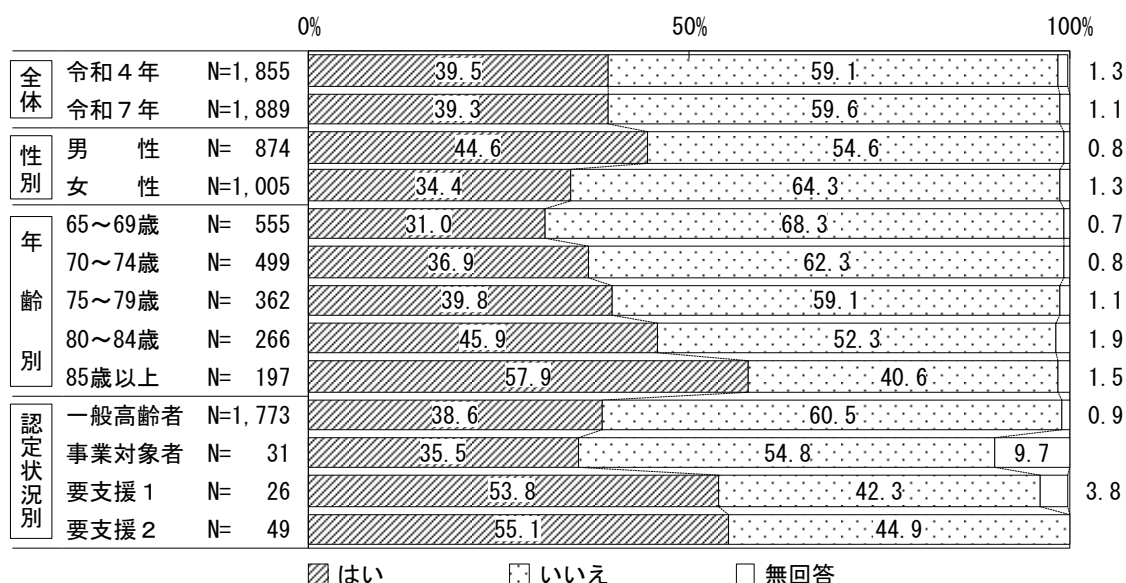
図表4-37 今日が何月何日かわからない時があるか



(5) 耳の聞こえづらさを感じるか

生活の中で耳の聞こえづらさを感じるかたずねたところ、「はい」(感じる)は39.3%となっています。「はい」は、性別では男性が女性より10.2ポイント高く、年齢別では年齢が上がるにつれて高くなり、85歳以上では57.9%を占めています。

図表4-38 耳の聞こえづらさを感じるか



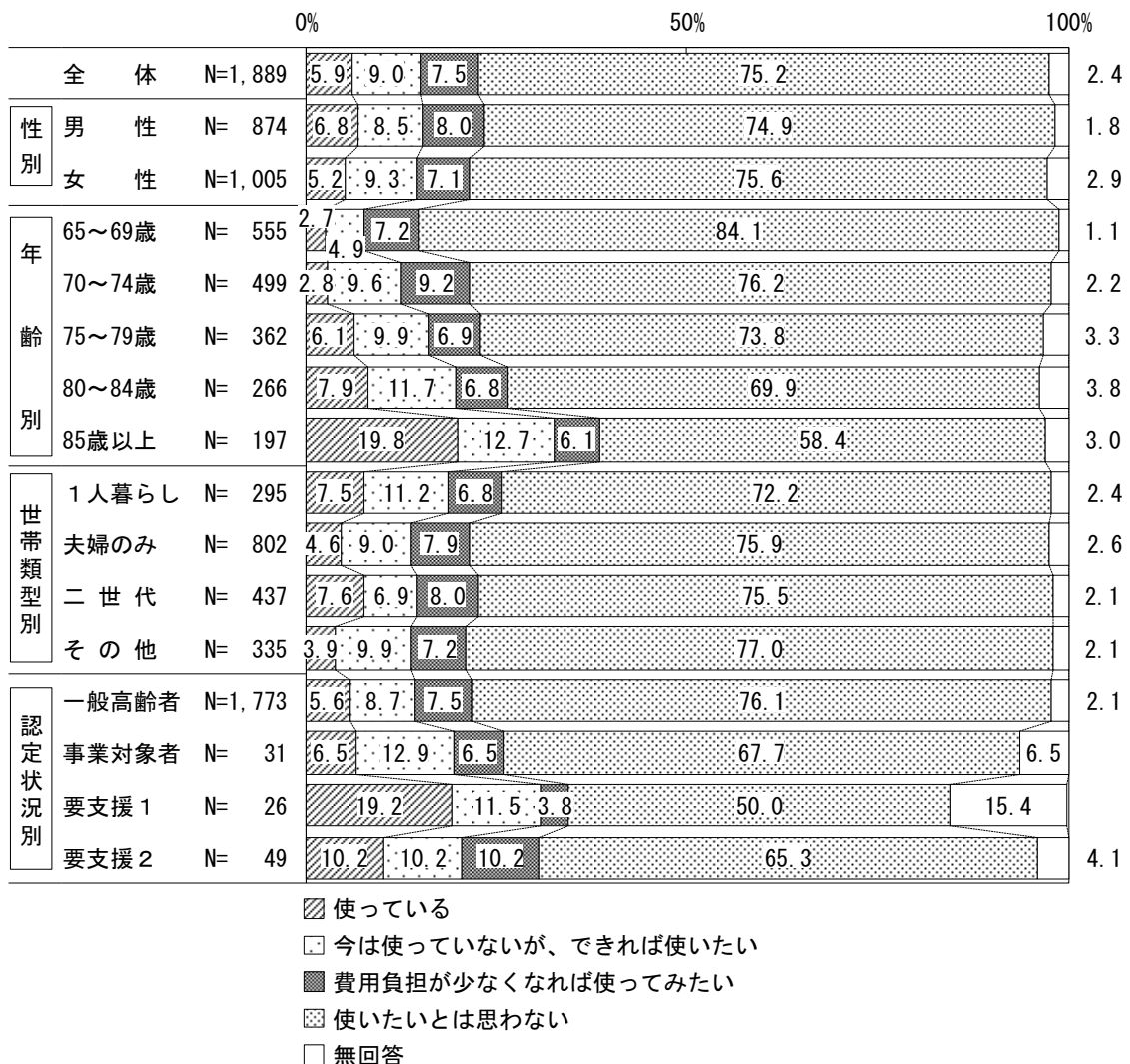
(6) 補聴器の利用状況

「補聴器を使っていますか。使っていない方は、使ってみたいと思いますか」という設問では、「使いたいとは思わない」が75.2%を占めています。「使っている」は5.9%、「今は使っていないが、できれば使いたい」（9.0%）と「費用負担が少なくなれば使ってみたい」（7.5%）の合計《使ってみたい》は16.5%です。

年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「使っている」が上昇しており、特に85歳以上では19.8%と高くなっています。

認定状況別にみると、要支援1は「使っている」が19.2%と高くなっています。また、事業対象者および要支援2は《使ってみたい》が20%程度の比較的高い割合となっています。

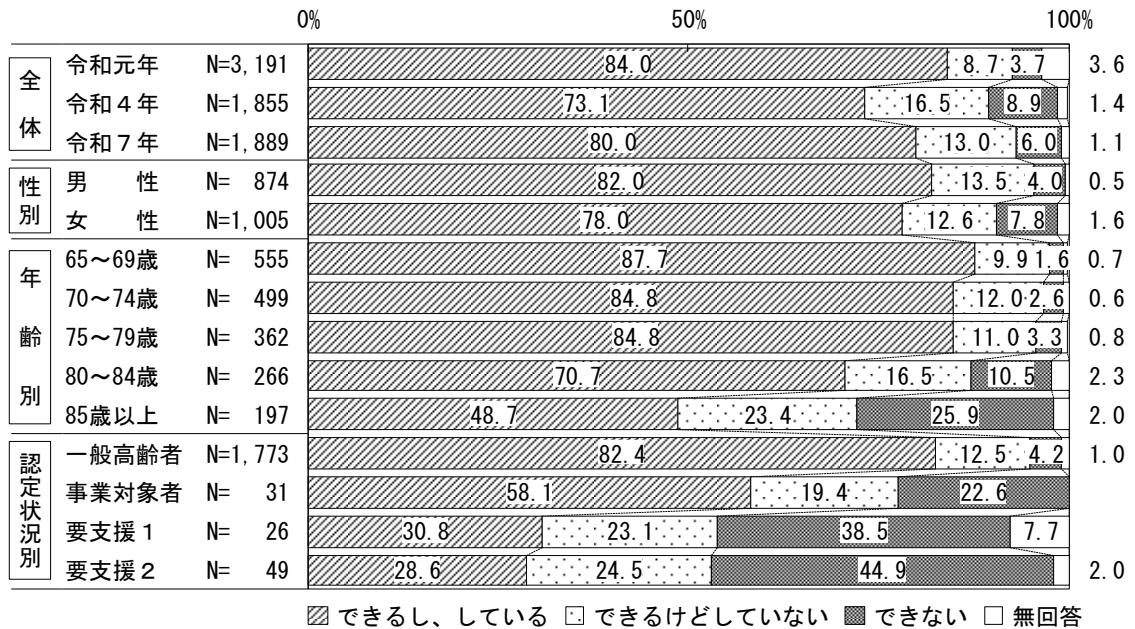
図表4-39 補聴器の利用状況



(7) バスや電車を使って一人で外出しているか

「バスや電車を使って一人で外出していますか（自家用車でも可）」という設問に、「できない」と答えたのは6.0%です。「できない」は、性別では女性が高く、年齢別では85歳以上が高くなっています。また、認定状況別では要支援2で約40%を占めています。

図表4-40 バスや電車を使って一人で外出しているか

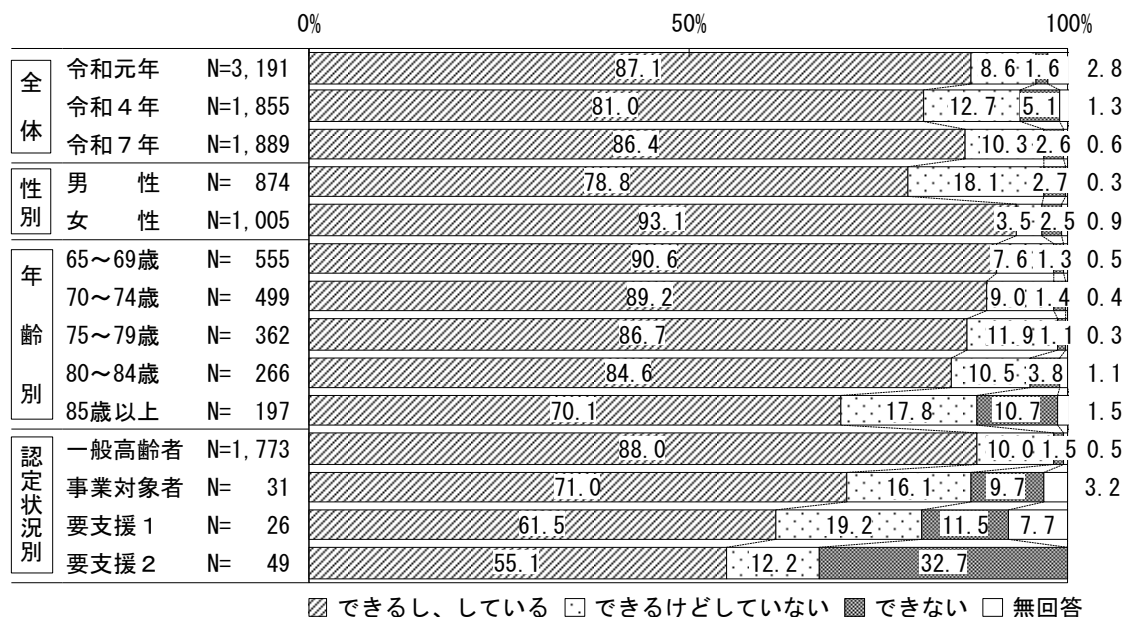


(8) 食品・日用品の買物をしているか

自分で食品・日用品の買物をしているかたずねたところ、「できるし、している」(86.4%)

と「できるけどしていない」(10.3%)を合計した《できる》は96.7%です。年齢別では85歳以上、認定状況別では要支援2が低くなっています。

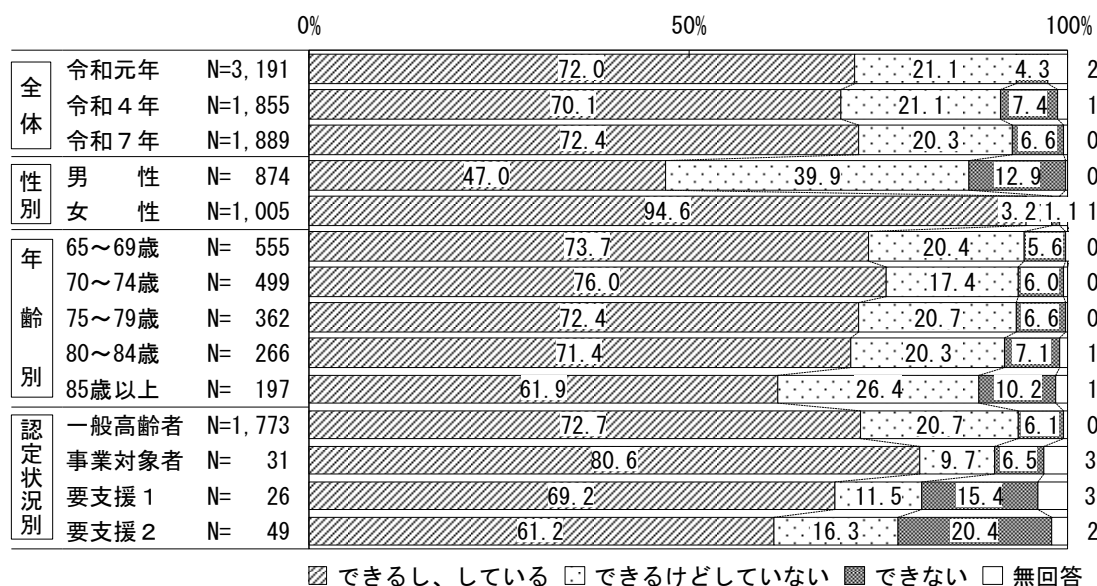
図表4-41 食品・日用品の買物をしているか



(9) 食事の用意をしているか

自分で食事の用意をしているかたずねたところ、「できない」は6.6%となっています。性別にみると、男性は女性に比べて「できるけどしていない」が高く、女性は「できるし、している」が高くなっています。また、「できるし、している」は、年齢別では85歳以上、認定状況別では要支援1・2で60%台の低い割合となっています。

図表4-42 食事の用意をしているか

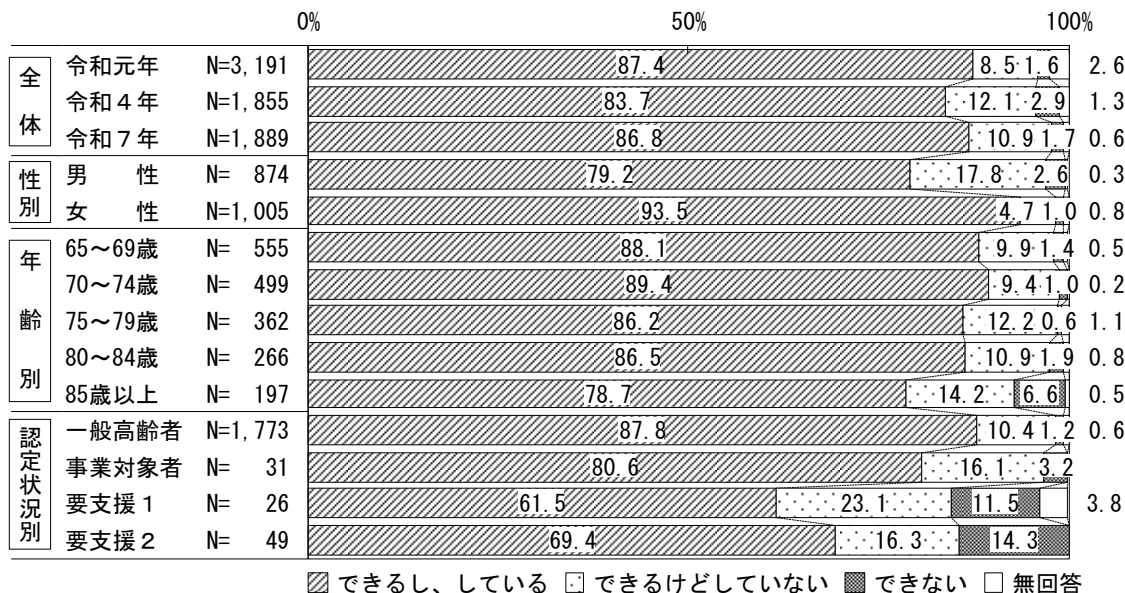


▨ できるし、している □ できるけどしていない ■ できない □ 無回答

(10) 請求書の支払いをしているか

自分で請求書の支払いをしているかたずねたところ、「できない」は1.7%となっています。性別にみると、男性は女性に比べて「できるけどしていない」が高く、女性は「できるし、している」が高くなっています。また、年齢別の85歳以上および認定状況別の要支援1・2では「できるし、している」が低く、「できない」が高くなっています。

図表4-43 請求書の支払いをしているか



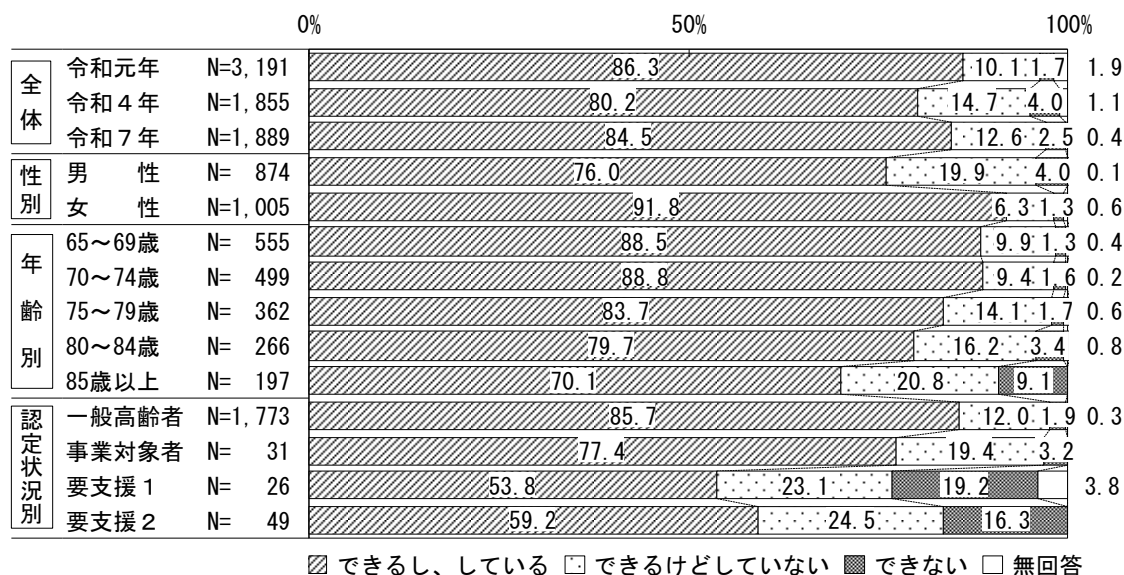
▨ できるし、している □ できるけどしていない ■ できない □ 無回答

(11) 預貯金の出し入れをしているか

自分で預貯金の出し入れをしているかたずねたところ、「できるし、している」と「できるけどしていない」を合計した《できる》は97.1%、「できない」は2.5%となっています。

性別にみると、男性は女性に比べて「できるけどしていない」が高く、女性は「できるし、している」が高くなっています。年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「できるし、している」は低下する傾向にあります。

図表 4-44 預貯金の出し入れをしているか



(12) 手段的自立度（IADL）が低下している高齢者

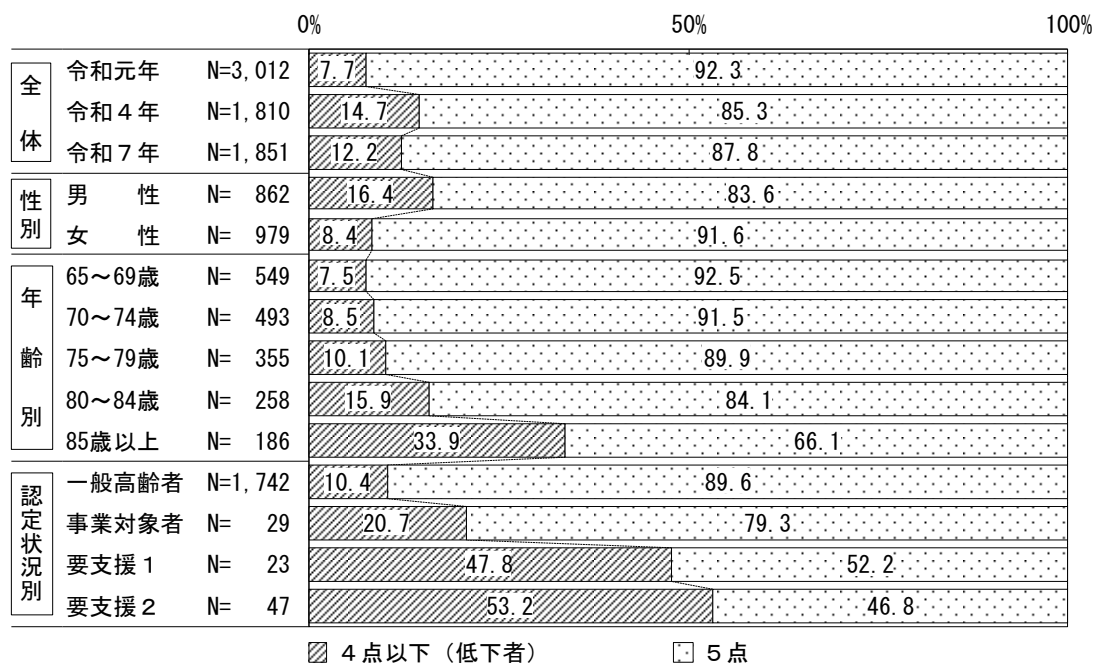
(7)～(11)の5つの設問は、IADLの低下を問う設問です。「できるし、している」または「できるけどしていない」と回答した場合を1点として、5点満点で評価し、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」と評価します。ここでは4点以下を低下者としています。

設 問	選 択 肢
(7) バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
(8) 自分で食品・日用品の買物をしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
(9) 自分で食事の用意をしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
(10) 自分で請求書の支払いをしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
(11) 自分で預貯金の出し入れをしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

(注) 表中の網掛けは、加点する選択肢を表しています。

IADLが低下している高齢者は12.2%です。性別では男性が女性に比べて8ポイント高く、年齢別では年齢が高くなるにしたがい上昇し、特に85歳以上では33.9%となっています。また、認定状況別では要支援1・2で約50%となっています。

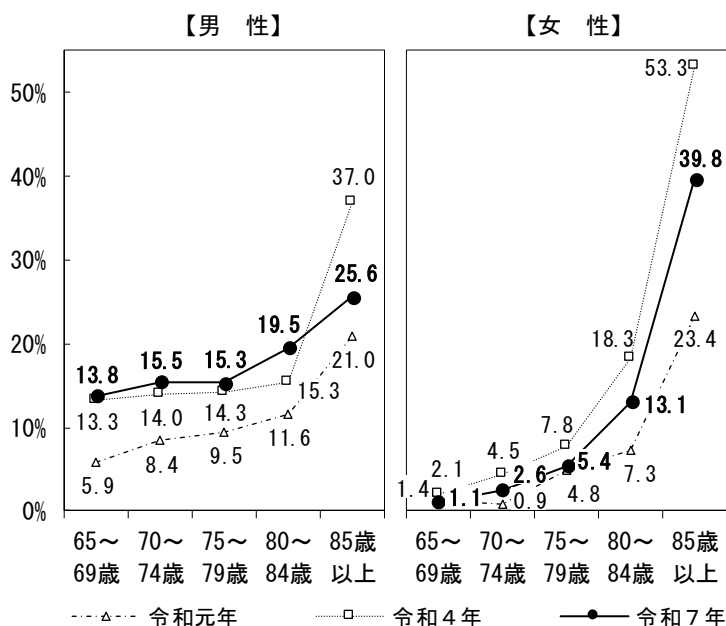
図表4-45 手段的自立度（IADL）が低下している高齢者



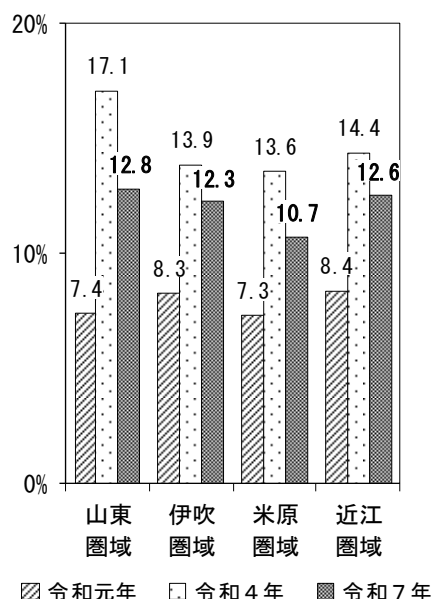
性・年齢別にみると、男性は80歳以上で年齢が高くなるにしたがい上昇し、女性は85歳以上で急激に高くなっています。圏域別にみると、米原圏域は10.7%と低くなっていますが、そのほかの圏域では12%台となっており大きな開きはありません。

図表4-46 手段的自立度（IADL）が低下している高齢者（性・年齢別、圏域別）

①性・年齢別



②圏域別



5 地域での活動.....

(1) 会・グループ等の参加状況

会・グループ等の地域活動の状況を見ると、《参加している》は「⑦町内会・自治会」が52.1%と最も高く、次いで「⑧町内の祭りや行事」が50.5%、「⑨収入のある仕事」が37.0%、「②スポーツ関係のグループやクラブ」が25.6%などの順となっています。

その頻度についてみると、「週4回以上」「週2～3回」「週1回」「月1～3回」を合計した《月1回以上》は、「⑨収入のある仕事」が32.8%と最も高く、次いで「②スポーツ関係のグループやクラブ」が21.2%、「③趣味関係のグループ」が17.0%、「①ボランティアのグループ」が14.1%などの順となっています。

図表4-47 会・グループ等の参加状況

単位：%

区 分 (N=1,889)	《参加している》							参加していない	無回答
	計	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	【再掲】月1回以上		
①ボランティアのグループ	24.2	0.6	1.6	2.7	9.2	10.1	14.1	63.6	12.1
②スポーツ関係のグループやクラブ	25.6	1.6	6.9	6.5	6.2	4.4	21.2	63.1	11.3
③趣味関係のグループ	23.7	0.7	2.6	4.0	9.7	6.7	17.0	64.4	11.8
④学習・教養サークル	10.6	0.4	0.4	1.3	4.0	4.5	6.1	76.0	13.4
⑤介護予防のための通いの場	12.2	0.3	1.0	3.1	4.0	3.8	8.4	75.6	12.2
⑥老人クラブ	20.9	0.1	0.5	0.7	4.4	15.2	5.7	67.1	12.1
⑦町内会・自治会	52.1	0.8	0.6	1.5	8.3	40.9	11.2	35.6	12.3
⑧町内の祭りや行事	50.5	0.2	0.3	0.8	3.8	45.4	5.1	37.5	12.0
⑨収入のある仕事	37.0	17.3	10.1	2.5	2.9	4.2	32.8	52.6	10.5
⑩シルバー人材センターの仕事	8.6	1.0	3.3	1.2	1.5	1.6	7.0	79.2	12.2

①ボランティアのグループ

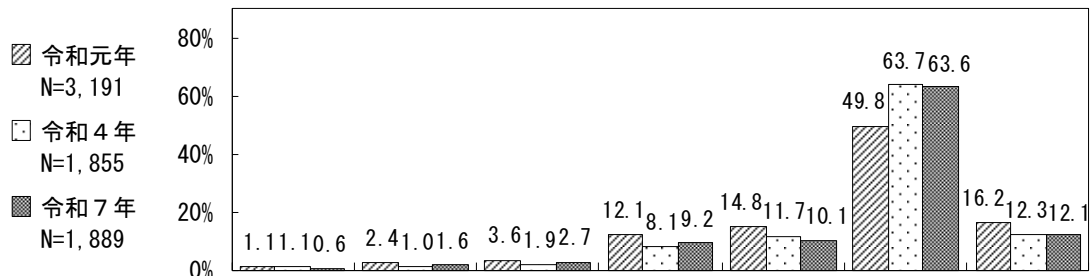
ボランティアのグループの参加状況を見ると、《参加している》は24.2%となっており、令和4年の調査結果とほぼ同様となっています。

参加頻度は「年に数回」が高くなっています。

《参加している》は、性別では男性、年齢別では70～74歳、圏域別では近江圏域が高くなっています。また、世帯類型別では1人暮らしが低くなっています。

図表4-48 会・グループ等の参加状況（①ボランティアのグループ）

単位：Nは人、他は%



区分	N	《参加している》	《参加している》					参加していない	無回答	
			週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回			
全体	令和元年	3,191	34.0	1.1	2.4	3.6	12.1	14.8	49.8	16.2
	令和4年	1,855	23.8	1.1	1.0	1.9	8.1	11.7	63.7	12.3
	令和7年	1,889	24.2	0.6	1.6	2.7	9.2	10.1	63.6	12.1
性別	男性	874	26.6	1.1	1.8	2.3	10.1	11.3	64.0	9.4
	女性	1,005	22.3	0.2	1.5	3.0	8.6	9.0	63.2	14.6
年齢別	65～69歳	555	24.5	0.5	1.1	2.3	10.1	10.5	69.0	6.5
	70～74歳	499	30.6	0.6	1.8	3.2	12.0	13.0	60.7	8.6
	75～79歳	362	25.7	1.1	2.8	3.3	8.0	10.5	60.5	13.8
	80～84歳	266	18.9	0.8	1.1	2.3	7.9	6.8	61.3	19.9
	85歳以上	197	12.2	-	1.5	1.5	4.1	5.1	64.0	23.9
世帯類型別	1人暮らし	295	16.3	0.7	3.1	1.0	6.1	5.4	67.5	16.3
	夫婦のみ	802	26.5	0.5	1.6	3.2	9.5	11.7	62.3	11.1
	二世帯	437	25.2	0.9	1.1	3.9	8.5	10.8	62.5	12.4
	その他	335	25.1	0.6	1.2	1.5	12.5	9.3	65.4	9.6
認定状況別	一般高齢者	1,773	25.1	0.7	1.7	2.8	9.6	10.3	62.8	12.0
	事業対象者	31	9.6	-	3.2	-	3.2	3.2	67.7	22.6
	要支援1	26	7.6	-	-	-	3.8	3.8	69.2	23.1
	要支援2	49	10.2	-	-	-	2.0	8.2	83.7	6.1
圏域別	山東圏域	478	22.4	0.6	1.3	1.7	9.0	9.8	64.9	12.8
	伊吹圏域	479	20.9	1.5	0.4	2.3	9.2	7.5	64.5	14.6
	米原圏域	448	22.8	-	2.2	3.6	7.4	9.6	65.4	11.8
	近江圏域	474	31.0	0.4	2.7	3.2	11.4	13.3	59.5	9.5

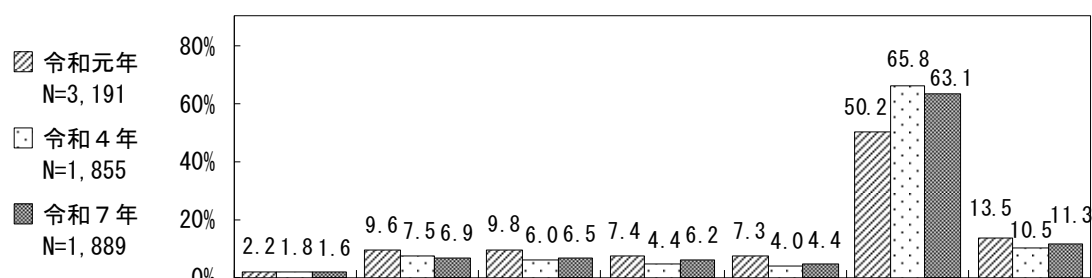
②スポーツ関係のグループやクラブ

スポーツ関係のグループやクラブの参加状況を見ると、《参加している》は25.6%となっており、令和4年の調査結果と比べて1.9ポイント上昇しています。

参加頻度は「週2～3回」「週1回」「月1～3回」が6%台で並んでいます。

《参加している》は、性別による開きはありますが、参加頻度をみると女性は男性より《月1回以上》が4.8ポイント高くなっています。また、年齢別では年齢が高くなるにしたがい上昇するものの、75～79歳をピークに80歳以上では低下に転じています。

図表4-49 会・グループ等の参加状況（②スポーツ関係のグループやクラブ） 単位：Nは人、他は%



区分	N	《参加している》	《参加している》					参加していない	無回答	
			週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回			
全体	令和元年	3,191	36.3	2.2	9.6	9.8	7.4	7.3	50.2	13.5
	令和4年	1,855	23.7	1.8	7.5	6.0	4.4	4.0	65.8	10.5
	令和7年	1,889	25.6	1.6	6.9	6.5	6.2	4.4	63.1	11.3
性別	男性	874	25.5	1.1	5.8	4.7	7.1	6.8	65.6	8.9
	女性	1,005	25.9	2.0	7.8	8.1	5.6	2.4	60.8	13.4
年齢別	65～69歳	555	23.1	1.3	4.7	4.5	6.7	5.9	70.5	6.5
	70～74歳	499	27.6	1.0	7.0	7.6	7.4	4.6	63.9	8.4
	75～79歳	362	29.6	2.8	8.6	8.6	5.5	4.1	59.1	11.3
	80～84歳	266	25.2	1.9	8.6	6.8	5.3	2.6	57.1	17.7
	85歳以上	197	21.3	1.5	7.1	5.1	5.1	2.5	54.8	23.9
世帯類型別	1人暮らし	295	25.1	1.7	6.8	6.4	6.1	4.1	60.3	14.6
	夫婦のみ	802	25.9	1.7	8.0	5.6	6.2	4.4	64.2	9.9
	二世帯	437	28.1	1.6	7.3	8.9	7.1	3.2	60.2	11.7
	その他	335	22.8	1.2	3.9	5.7	5.7	6.3	67.5	9.9
認定状況別	一般高齢者	1,773	26.6	1.7	7.2	6.7	6.4	4.6	62.3	11.2
	事業対象者	31	6.4	-	3.2	3.2	-	-	71.0	22.6
	要支援1	26	15.3	-	-	3.8	7.7	3.8	61.5	23.1
	要支援2	49	10.2	-	2.0	4.1	4.1	-	85.7	4.1
圏域別	山東圏域	478	25.9	1.3	7.9	7.3	5.6	3.8	61.9	12.1
	伊吹圏域	479	24.1	0.8	7.1	5.0	5.6	5.6	62.2	13.6
	米原圏域	448	26.4	2.2	6.3	5.6	6.9	5.4	64.3	9.4
	近江圏域	474	26.2	2.1	6.1	8.0	7.0	3.0	63.7	10.1

③趣味関係のグループ

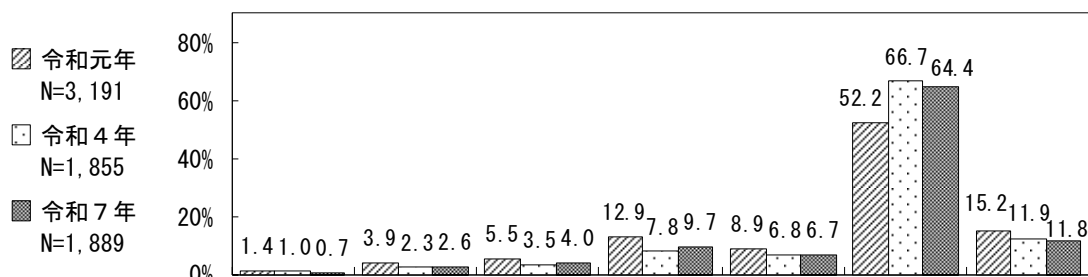
趣味関係のグループの参加状況を見ると、《参加している》は23.7%となっており、令和4年の調査結果と比べて2.3ポイント上昇しています。

参加頻度は「月1～3回」が高くなっています。

《参加している》は、性別による開きははありますが、参加頻度をみると女性は男性より《月1回以上》が3.4ポイント高くなっています。また、年齢別では85歳以上で低くなっています。

図表4-50 会・グループ等の参加状況（③趣味関係のグループ）

単位：Nは人、他は%



区分	N	《参加している》	《参加している》					参加していない	無回答	
			週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回			
全体	令和元年	3,191	32.6	1.4	3.9	5.5	12.9	8.9	52.2	15.2
	令和4年	1,855	21.4	1.0	2.3	3.5	7.8	6.8	66.7	11.9
	令和7年	1,889	23.7	0.7	2.6	4.0	9.7	6.7	64.4	11.8
性別	男性	874	24.0	0.8	1.8	3.7	9.0	8.7	66.7	9.3
	女性	1,005	23.7	0.7	3.3	4.4	10.3	5.0	62.3	14.0
年齢別	65～69歳	555	25.0	0.9	2.3	4.0	9.5	8.3	68.6	6.3
	70～74歳	499	23.8	0.6	1.2	3.6	11.0	7.4	68.3	7.8
	75～79歳	362	25.7	0.3	4.7	4.7	10.2	5.8	61.9	12.4
	80～84歳	266	24.4	1.1	2.6	5.3	8.6	6.8	54.9	20.7
	85歳以上	197	16.1	1.0	3.0	2.5	7.6	2.0	59.4	24.4
世帯類型別	1人暮らし	295	22.0	0.3	2.7	3.7	10.2	5.1	62.4	15.6
	夫婦のみ	802	25.8	1.1	2.9	3.9	11.0	6.9	63.8	10.5
	二世帯	437	23.5	0.7	2.7	5.0	8.9	6.2	63.6	12.8
	その他	335	21.6	0.3	1.8	3.3	7.8	8.4	69.3	9.3
認定状況別	一般高齢者	1,773	24.6	0.8	2.8	4.1	10.0	6.9	64.0	11.6
	事業対象者	31	16.2	-	-	9.7	6.5	-	61.3	22.6
	要支援1	26	11.5	-	-	-	3.8	7.7	61.5	26.9
	要支援2	49	12.2	-	-	2.0	6.1	4.1	81.6	6.1
圏域別	山東圏域	478	23.2	1.0	2.3	3.6	8.8	7.5	64.0	12.8
	伊吹圏域	479	23.9	1.3	1.9	4.6	9.8	6.3	62.6	13.6
	米原圏域	448	24.5	0.4	3.6	3.8	10.9	5.8	64.7	10.7
	近江圏域	474	23.8	0.2	2.7	4.2	9.5	7.2	66.0	10.1

④学習・教養サークル

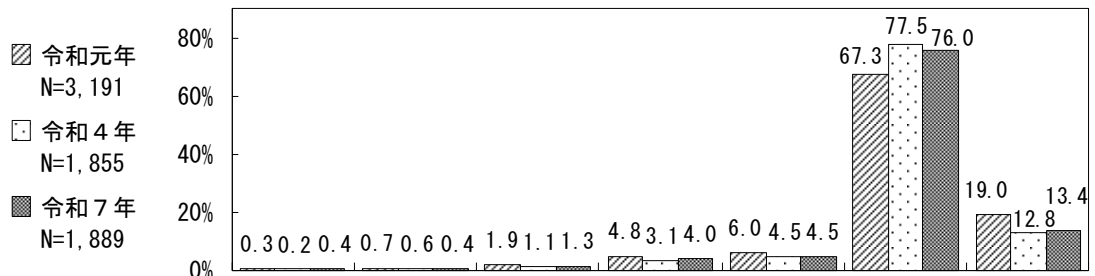
学習・教養サークルの参加状況を見ると、《参加している》は10.6%となっており、令和4年の調査結果と比べて1.1ポイント上昇しています。

参加頻度は「年に数回」「月1～3回」が比較的高くなっています。

《参加している》は、性別では女性、世帯類型別では夫婦のみが高くなっています。また、年齢別では85歳以上で低くなっています。

図表4-51 会・グループ等の参加状況（④学習・教養サークル）

単位：Nは人、他は%



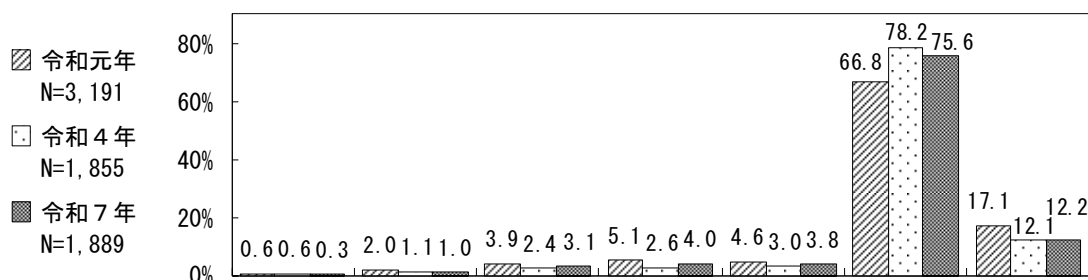
区分	N	《参加している》	《参加している》					参加していない	無回答	
			週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回			
全体	令和元年	3,191	13.7	0.3	0.7	1.9	4.8	6.0	67.3	19.0
	令和4年	1,855	9.5	0.2	0.6	1.1	3.1	4.5	77.5	12.8
	令和7年	1,889	10.6	0.4	0.4	1.3	4.0	4.5	76.0	13.4
性別	男性	874	9.4	-	0.1	1.1	3.7	4.5	79.7	10.9
	女性	1,005	11.5	0.7	0.6	1.4	4.2	4.6	72.7	15.8
年齢別	65～69歳	555	11.2	0.4	-	1.8	3.6	5.4	82.2	6.7
	70～74歳	499	11.2	0.2	0.8	1.2	4.6	4.4	79.2	9.6
	75～79歳	362	10.0	0.6	0.6	1.1	3.6	4.1	74.6	15.5
	80～84歳	266	11.0	-	-	0.4	5.3	5.3	66.9	22.2
	85歳以上	197	7.0	1.0	0.5	1.5	2.0	2.0	65.5	27.4
世帯類型別	1人暮らし	295	8.5	0.7	-	1.0	3.7	3.1	73.6	18.0
	夫婦のみ	802	12.7	0.5	0.4	1.6	4.6	5.6	75.7	11.6
	二世帯	437	10.0	0.2	0.5	0.7	4.3	4.3	74.4	15.6
	その他	335	8.4	0.3	0.6	1.5	2.4	3.6	82.1	9.6
認定状況別	一般高齢者	1,773	10.9	0.3	0.4	1.3	4.2	4.7	75.8	13.3
	事業対象者	31	3.2	-	-	3.2	-	-	74.2	22.6
	要支援1	26	7.6	3.8	-	-	-	3.8	65.4	26.9
	要支援2	49	2.0	-	-	-	-	2.0	89.8	8.2
圏域別	山東圏域	478	9.8	0.6	0.4	1.5	3.3	4.0	76.2	14.0
	伊吹圏域	479	9.4	0.2	0.4	0.8	1.9	6.1	75.6	15.0
	米原圏域	448	11.1	0.4	0.2	1.8	5.8	2.9	75.9	12.9
	近江圏域	474	11.7	0.2	0.4	1.1	4.9	5.1	76.4	12.0

⑤介護予防のための通いの場

介護予防のための通いの場の参加状況をみると、《参加している》は12.2%となっており、令和4年の調査結果と比べると2.5ポイント上昇しています。

介護予防のための通いの場とは、具体的には地域お茶の間創造事業の取組であり、内容や開催頻度は地域によってさまざまです。《参加している》は、性別では女性が高く、年齢別では年齢が高くなるにしたがい上昇するものの、85歳以上では低下に転じています。また、世帯類型別では1人暮らし、認定状況別では事業対象者が高くなっています。

図表4-52 会・グループ等の参加状況（⑤介護予防のための通いの場） 単位：Nは人、他は%



区分	N	《参加している》	《参加している》					参加していない	無回答	
			週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回			
全体	令和元年	3,191	16.2	0.6	2.0	3.9	5.1	4.6	66.8	17.1
	令和4年	1,855	9.7	0.6	1.1	2.4	2.6	3.0	78.2	12.1
	令和7年	1,889	12.2	0.3	1.0	3.1	4.0	3.8	75.6	12.2
性別	男性	874	8.8	0.3	0.2	1.8	3.4	3.1	80.7	10.4
	女性	1,005	15.2	0.3	1.7	4.3	4.5	4.4	71.0	13.8
年齢別	65～69歳	555	5.6	0.2	0.2	1.3	2.3	1.6	87.0	7.4
	70～74歳	499	11.0	0.2	0.4	1.8	4.2	4.4	80.2	8.8
	75～79歳	362	17.4	0.3	2.2	4.7	4.4	5.8	68.8	13.8
	80～84歳	266	18.8	0.8	1.5	4.5	7.1	4.9	62.0	19.2
	85歳以上	197	15.6	0.5	2.0	7.1	3.0	3.0	61.9	22.3
世帯類型別	1人暮らし	295	16.3	0.3	2.4	4.7	5.8	3.1	67.8	15.9
	夫婦のみ	802	10.9	0.2	0.6	2.9	3.2	4.0	77.6	11.5
	二世帯	437	12.4	0.7	0.9	3.7	3.2	3.9	75.1	12.6
	その他	335	12.0	-	0.9	1.8	5.4	3.9	79.4	8.7
認定状況別	一般高齢者	1,773	11.6	0.3	0.9	2.7	4.0	3.7	76.1	12.2
	事業対象者	31	29.0	3.2	-	16.1	3.2	6.5	51.6	19.4
	要支援1	26	19.2	-	-	7.7	7.7	3.8	61.5	19.2
	要支援2	49	20.4	-	6.1	8.2	2.0	4.1	75.5	4.1
圏域別	山東圏域	478	11.5	0.2	0.8	3.6	3.8	3.1	75.3	13.2
	伊吹圏域	479	10.0	0.4	0.2	2.3	4.6	2.5	75.2	14.8
	米原圏域	448	13.9	0.4	1.3	4.2	3.8	4.2	74.6	11.4
	近江圏域	474	13.5	0.2	1.7	2.5	3.8	5.3	77.0	9.5

⑥老人クラブ

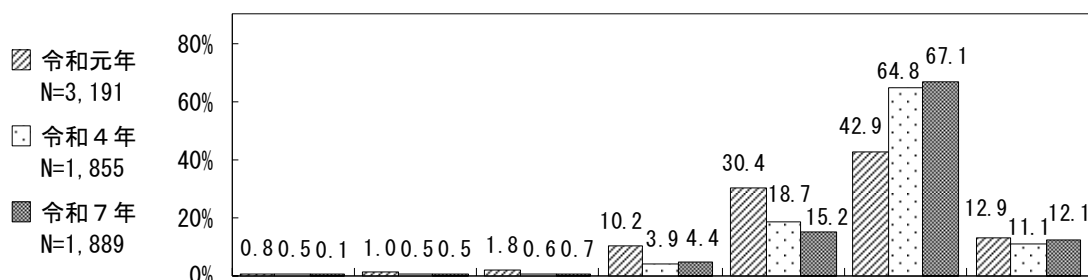
老人クラブの参加状況を見ると、《参加している》は20.9%となっています。例示した10の活動のうち、これまでの調査結果との比較で唯一割合が低下した項目です。

参加頻度は「年に数回」が高くなっています。

《参加している》は、性別では男性が女性より高く、年齢別では年齢が高くなるにしたがい上昇するものの、75～79歳をピークに80歳以上では低下に転じています。また、世帯類型別では二世帯世帯、認定状況別では要支援1が高くなっています。

図表4-53 会・グループ等の参加状況（⑥老人クラブ）

単位：Nは人、他は%



区分	N	《参加している》	参加頻度					参加していない	無回答	
			週4回以上	週2〜3回	週1回	月1〜3回	年に数回			
全体	令和元年	3,191	44.2	0.8	1.0	1.8	10.2	30.4	42.9	12.9
	令和4年	1,855	24.2	0.5	0.5	0.6	3.9	18.7	64.8	11.1
	令和7年	1,889	20.9	0.1	0.5	0.7	4.4	15.2	67.1	12.1
性別	男性	874	23.2	0.1	0.6	0.6	6.3	15.6	67.7	9.2
	女性	1,005	18.8	-	0.4	0.8	2.8	14.8	66.5	14.7
年齢別	65～69歳	555	10.0	-	0.2	0.4	2.0	7.4	82.9	7.2
	70～74歳	499	22.6	-	0.2	0.4	4.8	17.2	68.1	9.2
	75～79歳	362	30.2	0.3	0.6	1.4	8.0	19.9	57.7	12.2
	80～84歳	266	27.4	-	1.1	0.8	4.1	21.4	53.8	18.8
	85歳以上	197	20.8	-	1.0	1.0	4.1	14.7	54.8	24.4
世帯類型別	1人暮らし	295	18.4	-	0.7	1.4	3.4	12.9	65.1	16.6
	夫婦のみ	802	21.0	0.1	0.7	0.7	4.2	15.3	68.0	10.8
	二世帯	437	23.8	-	0.2	0.5	5.7	17.4	64.1	12.1
	その他	335	18.2	-	-	0.3	4.5	13.4	71.9	9.9
認定状況別	一般高齢者	1,773	21.1	0.1	0.5	0.6	4.6	15.3	67.1	11.9
	事業対象者	31	19.3	-	-	3.2	3.2	12.9	58.1	22.6
	要支援1	26	23.1	-	-	-	-	23.1	53.8	23.1
	要支援2	49	12.2	-	-	2.0	2.0	8.2	79.6	8.2
圏域別	山東圏域	478	19.0	-	0.4	0.2	3.8	14.6	68.4	12.6
	伊吹圏域	479	20.4	0.2	0.2	0.4	2.7	16.9	65.3	14.2
	米原圏域	448	21.8	-	0.2	0.7	5.1	15.8	65.6	12.5
	近江圏域	474	22.0	-	1.1	1.5	6.1	13.3	68.8	9.3

⑦町内会・自治会

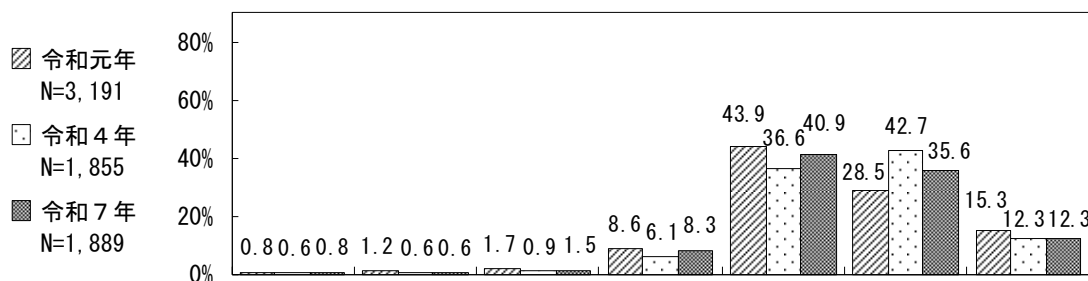
町内会・自治会の参加状況を見ると、《参加している》は52.1%となっており、例示した10の活動の中では最も高くなっています。令和4年の調査結果と比べて7.3ポイント上昇しています。

参加頻度は「年に数回」が高くなっています。

《参加している》は、性別では男性が女性より18.7ポイントと大幅に高くなっています。また、年齢別では65～69歳が最も高く、年齢が高くなるにしたがい低下しています。世帯類型別では1人暮らしが低くなっており、圏域別では近江圏域が高く、米原圏域が低くなっています。

図表4-54 会・グループ等の参加状況（⑦町内会・自治会）

単位：Nは人、他は%



区分	N	《参加している》	参加頻度					参加していない	無回答	
			週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回			
全体	令和元年	3,191	56.2	0.8	1.2	1.7	8.6	43.9	28.5	15.3
	令和4年	1,855	44.8	0.6	0.6	0.9	6.1	36.6	42.7	12.3
	令和7年	1,889	52.1	0.8	0.6	1.5	8.3	40.9	35.6	12.3
性別	男性	874	62.1	1.5	0.8	2.6	12.6	44.6	29.2	8.7
	女性	1,005	43.4	0.2	0.5	0.6	4.5	37.6	41.1	15.5
年齢別	65～69歳	555	63.3	0.9	1.3	2.0	11.5	47.6	29.5	7.2
	70～74歳	499	58.1	1.6	0.8	1.8	8.2	45.7	33.1	8.8
	75～79歳	362	52.2	0.3	0.3	1.1	10.2	40.3	34.8	13.0
	80～84歳	266	40.6	0.4	-	1.1	3.8	35.3	40.6	18.8
	85歳以上	197	20.8	-	-	1.0	1.5	18.3	53.3	25.9
世帯類型別	1人暮らし	295	39.6	0.7	1.7	-	6.4	30.8	42.7	17.6
	夫婦のみ	802	56.6	0.7	0.5	2.4	7.9	45.1	32.4	11.0
	二世帯	437	50.3	0.9	-	0.9	8.7	39.8	37.3	12.4
	その他	335	55.5	0.6	0.9	1.8	10.7	41.5	34.9	9.6
認定状況別	一般高齢者	1,773	54.3	0.8	0.7	1.6	8.7	42.5	33.6	12.1
	事業対象者	31	19.3	-	-	-	3.2	16.1	58.1	22.6
	要支援1	26	11.5	-	-	-	-	11.5	65.4	23.1
	要支援2	49	14.3	-	-	-	-	14.3	77.6	8.2
圏域別	山東圏域	478	53.0	1.3	0.2	1.3	8.6	41.6	34.7	12.3
	伊吹圏域	479	51.8	1.7	1.0	1.3	9.2	38.6	34.2	14.0
	米原圏域	448	46.6	-	0.4	1.6	6.9	37.7	40.0	13.4
	近江圏域	474	56.7	0.2	0.8	2.1	8.2	45.4	33.5	9.7

⑧町内の祭りや行事

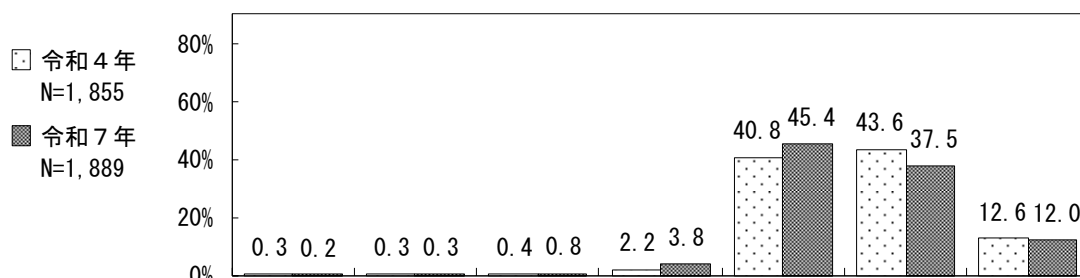
町内の祭りや行事の参加状況をみると、「参加している」は50.5%となっており、例示した10の活動の中では「町内会・自治会」に次いで高くなっています。令和4年の調査結果と比べて6.5ポイント上昇しています。

参加頻度は、「年に数回」が高くなっています。

《参加している》は、性別では男性が女性より11ポイント高く、年齢別では年齢が高くなるにしたがい低下しています。また、世帯類型別では1人暮らしが低くなっています。

図表4-55 会・グループ等の参加状況（⑧町内の祭りや行事）

単位：Nは人、他は%



区分	N	《参加している》	《参加している》					年に数回	参加していない	無回答
			週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回				
全体	令和4年	1,855	44.0	0.3	0.3	0.4	2.2	40.8	43.6	12.6
	令和7年	1,889	50.5	0.2	0.3	0.8	3.8	45.4	37.5	12.0
性別	男性	874	56.4	0.5	0.5	1.3	5.8	48.3	34.4	9.3
	女性	1,005	45.4	-	0.1	0.4	2.1	42.8	40.1	14.5
年齢別	65～69歳	555	58.6	0.2	0.4	0.7	5.0	52.3	34.1	7.4
	70～74歳	499	56.1	0.4	0.4	1.0	4.4	49.9	36.5	7.4
	75～79歳	362	55.8	0.3	0.3	1.4	4.1	49.7	32.0	12.2
	80～84歳	266	36.9	-	-	0.4	1.9	34.6	42.9	20.3
	85歳以上	197	21.8	-	-	-	1.0	20.8	52.3	25.9
世帯類型別	1人暮らし	295	38.0	0.3	-	1.0	3.1	33.6	46.1	15.9
	夫婦のみ	802	53.3	0.1	0.4	1.0	4.0	47.8	36.0	10.7
	二世帯	437	53.8	0.2	-	0.7	3.7	49.2	33.4	12.8
	その他	335	51.1	0.3	0.6	0.3	3.9	46.0	39.4	9.6
認定状況別	一般高齢者	1,773	52.4	0.2	0.3	0.8	4.0	47.1	35.6	12.0
	事業対象者	31	29.0	-	-	3.2	3.2	22.6	51.6	19.4
	要支援1	26	11.5	-	-	-	-	11.5	65.4	23.1
	要支援2	49	14.3	-	-	-	-	14.3	81.6	4.1
圏域別	山東圏域	478	50.6	0.2	-	0.6	5.4	44.4	36.0	13.4
	伊吹圏域	479	49.6	0.6	1.0	1.0	2.5	44.5	37.6	12.7
	米原圏域	448	48.6	-	-	0.7	3.3	44.6	39.5	11.8
	近江圏域	474	52.7	-	-	0.8	4.0	47.9	36.9	10.3

⑨収入のある仕事

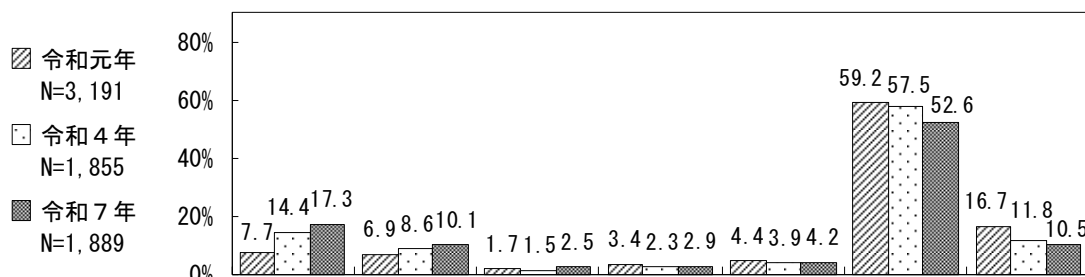
収入のある仕事をしているのは、全体では37.0%で、令和元年以降上昇を続けています。男性は44.8%、女性は30.3%です。

参加頻度は、男女ともに「週4回以上」が高くなっています。

年齢別では年齢が高くなるにしたがい低下し、世帯類型別では1人暮らしが低くなっています。また、圏域別では伊吹圏域が高くなっています。

図表4-56 会・グループ等の参加状況（⑨収入のある仕事）

単位：Nは人、他は%



区分	N	《参加している》	参加頻度					参加していない	無回答	
			週4回以上	週2〜3回	週1回	月1〜3回	年に数回			
全体	令和元年	3,191	24.1	7.7	6.9	1.7	3.4	4.4	59.2	16.7
	令和4年	1,855	30.7	14.4	8.6	1.5	2.3	3.9	57.5	11.8
	令和7年	1,889	37.0	17.3	10.1	2.5	2.9	4.2	52.6	10.5
性別	男性	874	44.8	21.5	10.2	2.5	3.8	6.8	47.7	7.6
	女性	1,005	30.3	13.7	10.0	2.6	2.1	1.9	56.5	13.1
年齢別	65〜69歳	555	56.4	31.9	16.2	1.8	2.5	4.0	39.6	4.0
	70〜74歳	499	44.2	19.4	12.4	4.0	4.2	4.2	49.1	6.6
	75〜79歳	362	30.4	10.5	7.2	3.3	3.9	5.5	57.5	12.2
	80〜84歳	266	15.8	4.1	4.5	1.5	1.9	3.8	66.5	17.7
	85歳以上	197	5.0	1.5	-	1.0	-	2.5	68.5	26.4
世帯類型別	1人暮らし	295	28.8	12.9	9.8	1.7	2.7	1.7	56.9	14.2
	夫婦のみ	802	38.7	18.1	10.1	3.4	2.4	4.7	51.9	9.5
	二世帯	437	35.5	17.2	8.9	2.3	3.0	4.1	53.8	10.8
	その他	335	42.7	20.0	11.9	1.5	4.2	5.1	49.3	8.1
認定状況別	一般高齢者	1,773	39.0	18.3	10.7	2.7	3.0	4.3	50.8	10.3
	事業対象者	31	6.4	3.2	-	-	-	3.2	71.0	22.6
	要支援1	26	11.4	3.8	-	3.8	-	3.8	69.2	19.2
	要支援2	49	2.0	-	2.0	-	-	-	91.8	6.1
圏域別	山東圏域	478	35.9	16.1	8.6	3.1	2.9	5.2	52.3	11.7
	伊吹圏域	479	40.9	20.0	11.1	2.5	2.9	4.4	46.3	12.7
	米原圏域	448	34.1	15.6	10.3	2.0	2.2	4.0	57.1	8.7
	近江圏域	474	36.9	17.5	10.5	2.5	3.4	3.0	54.2	8.9

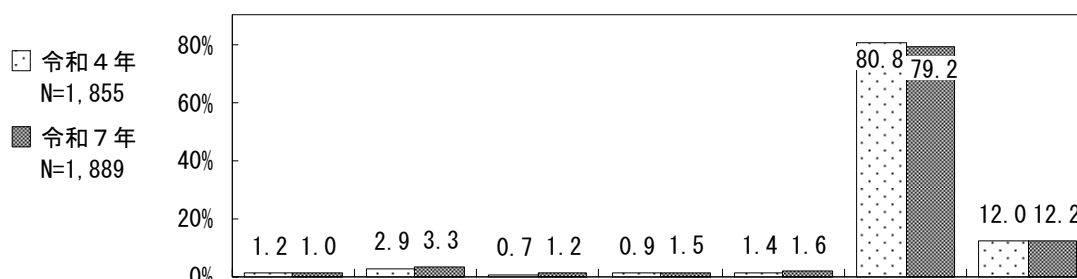
⑩シルバー人材センターの仕事

シルバー人材センターの仕事をしているのは、全体では8.6%で、令和4年の調査結果と比べて1.5ポイント上昇しています。男性は10.7%、女性は7.0%です。

参加頻度は、男女とも「週2～3回」が比較的高くなっています。

年齢別では70～74歳および75～79歳が10%台の比較的高い割合となっています。また、世帯類型別では1人暮らしが比較的低く、圏域別では米原圏域が比較的高くなっています。

図表4-57 会・グループ等の参加状況（⑩シルバー人材センターの仕事） 単位：Nは人、他は%



区分	N	《参加している》	参加頻度					参加していない	無回答	
			週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回			
全体	令和4年	1,855	7.1	1.2	2.9	0.7	0.9	1.4	80.8	12.0
	令和7年	1,889	8.6	1.0	3.3	1.2	1.5	1.6	79.2	12.2
性別	男性	874	10.7	1.3	3.7	1.5	2.1	2.1	80.2	9.3
	女性	1,005	7.0	0.7	3.0	1.0	1.0	1.3	78.2	14.8
年齢別	65～69歳	555	7.6	0.9	3.1	0.2	1.6	1.8	85.0	7.4
	70～74歳	499	12.8	2.2	4.8	2.0	1.8	2.0	79.2	8.0
	75～79歳	362	10.1	0.6	3.9	2.5	1.4	1.7	77.1	13.0
	80～84歳	266	5.6	-	2.6	0.8	1.1	1.1	75.2	19.2
	85歳以上	197	2.5	-	-	0.5	1.0	1.0	71.6	25.9
世帯類型別	1人暮らし	295	7.4	1.0	2.0	1.0	1.4	2.0	76.3	16.3
	夫婦のみ	802	9.1	1.2	3.6	1.4	1.0	1.9	79.8	11.1
	二世帯	437	8.3	0.2	3.7	1.6	2.1	0.7	79.4	12.4
	その他	335	9.0	1.2	3.3	0.6	2.1	1.8	81.5	9.6
認定状況別	一般高齢者	1,773	9.1	1.0	3.5	1.3	1.6	1.7	78.8	12.1
	事業対象者	31	3.2	-	-	-	-	3.2	74.2	22.6
	要支援1	26	0.0	-	-	-	-	-	76.9	23.1
	要支援2	49	0.0	-	-	-	-	-	93.9	6.1
圏域別	山東圏域	478	9.4	1.0	2.5	1.7	1.9	2.3	77.6	13.0
	伊吹圏域	479	7.7	1.3	3.5	0.8	1.3	0.8	77.7	14.6
	米原圏域	448	10.2	1.1	4.9	1.6	1.3	1.3	79.0	10.7
	近江圏域	474	7.1	0.4	2.3	0.8	1.5	2.1	82.3	10.5

(2) 地域づくりの推進に参加してみたいか

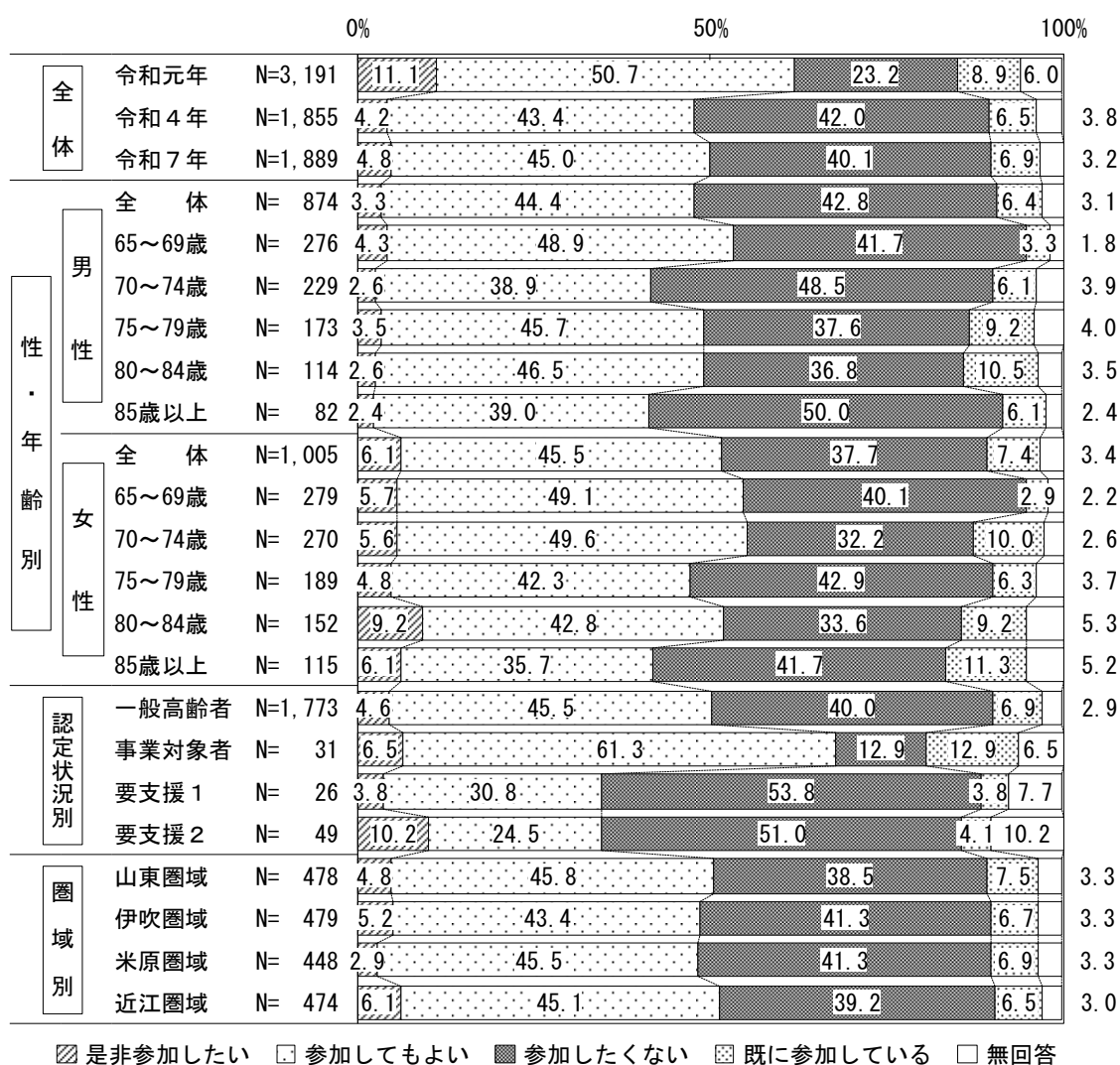
①参加者として参加してみたいか

「地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか」という設問に対しては、「参加してもよい」が45.0%となっており、これに「是非参加したい」(4.8%)と「既に参加している」(6.9%)を加えた《参加意向》は56.7%です。令和4年の調査結果に比べ、《参加意向》は2.6ポイント上昇しています。

性・年齢別にみると、《参加意向》は女性が男性に比べ4.9ポイント高くなっています。また、男性は75～79歳および80～84歳が60%程度と高くなっている一方、女性は70～74歳および80～84歳で60%を超えています。

認定状況別にみると、事業対象者は《参加意向》が80.7%を占めています。

図表4-58 地域づくりの推進に参加してみたいか（参加者として）



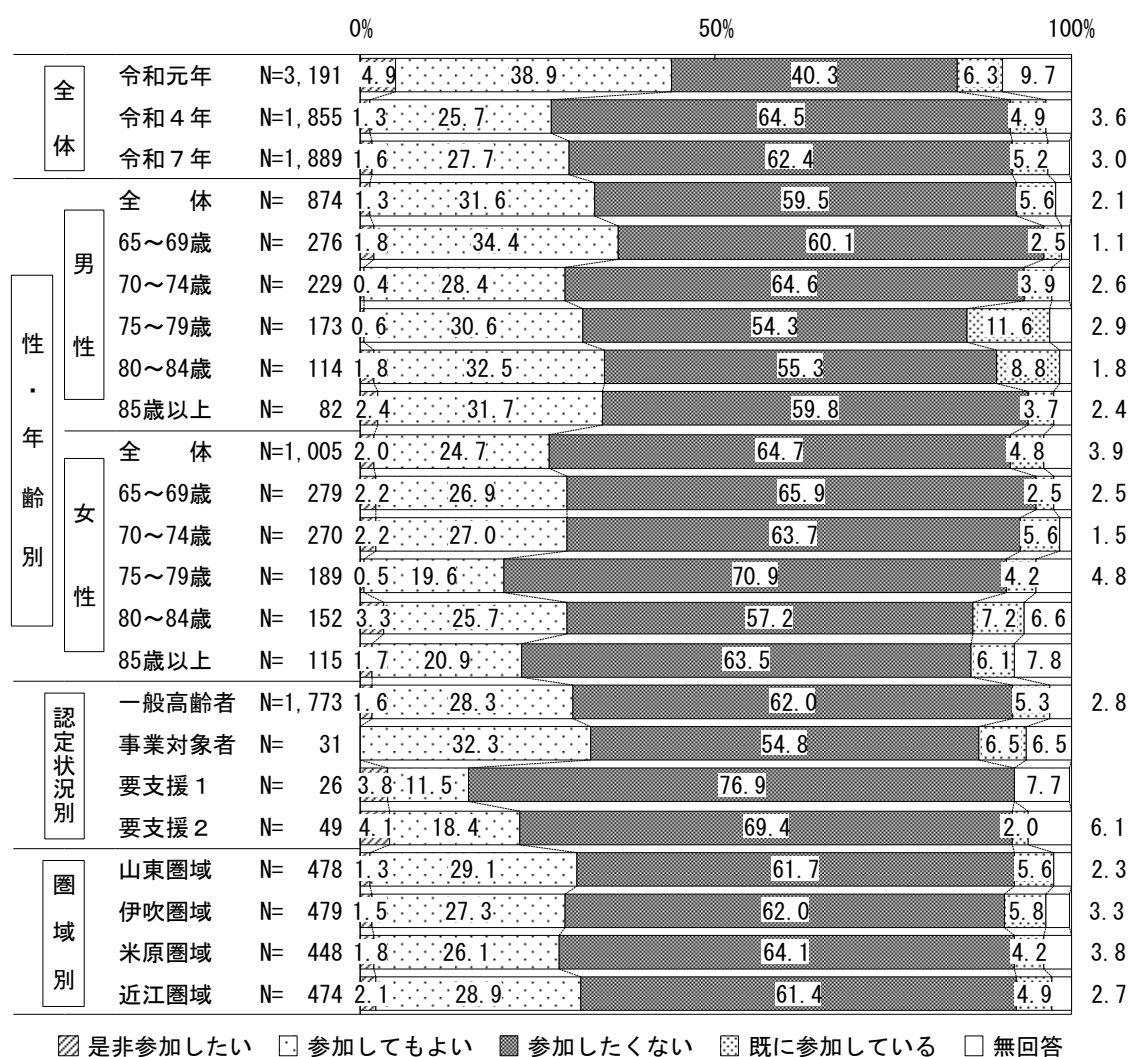
②企画・運営（お世話役）として参加してみたいか

「地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか」という設問に対しては、「是非参加したい」は1.6%、「参加してもよい」は27.7%となっており、これらに「既に参加している」（5.2%）を加えた《参加意向》は34.5%となっています。令和4年の調査結果に比べ、《参加意向》は2.6ポイント上昇しています。

性・年齢別にみると、《参加意向》は男性が女性に比べ7ポイント高くなっています。また、男性は75～79歳および80～84歳、女性は80～84歳で高くなっています。

認定状況別にみると、事業対象者は《参加意向》が38.8%と比較的高くなっています。

図表4-59 地域づくりの推進に参加してみたいか（お世話役として）



■ 是非参加したい □ 参加してもよい ■ 参加したくない ▨ 既に参加している □ 無回答

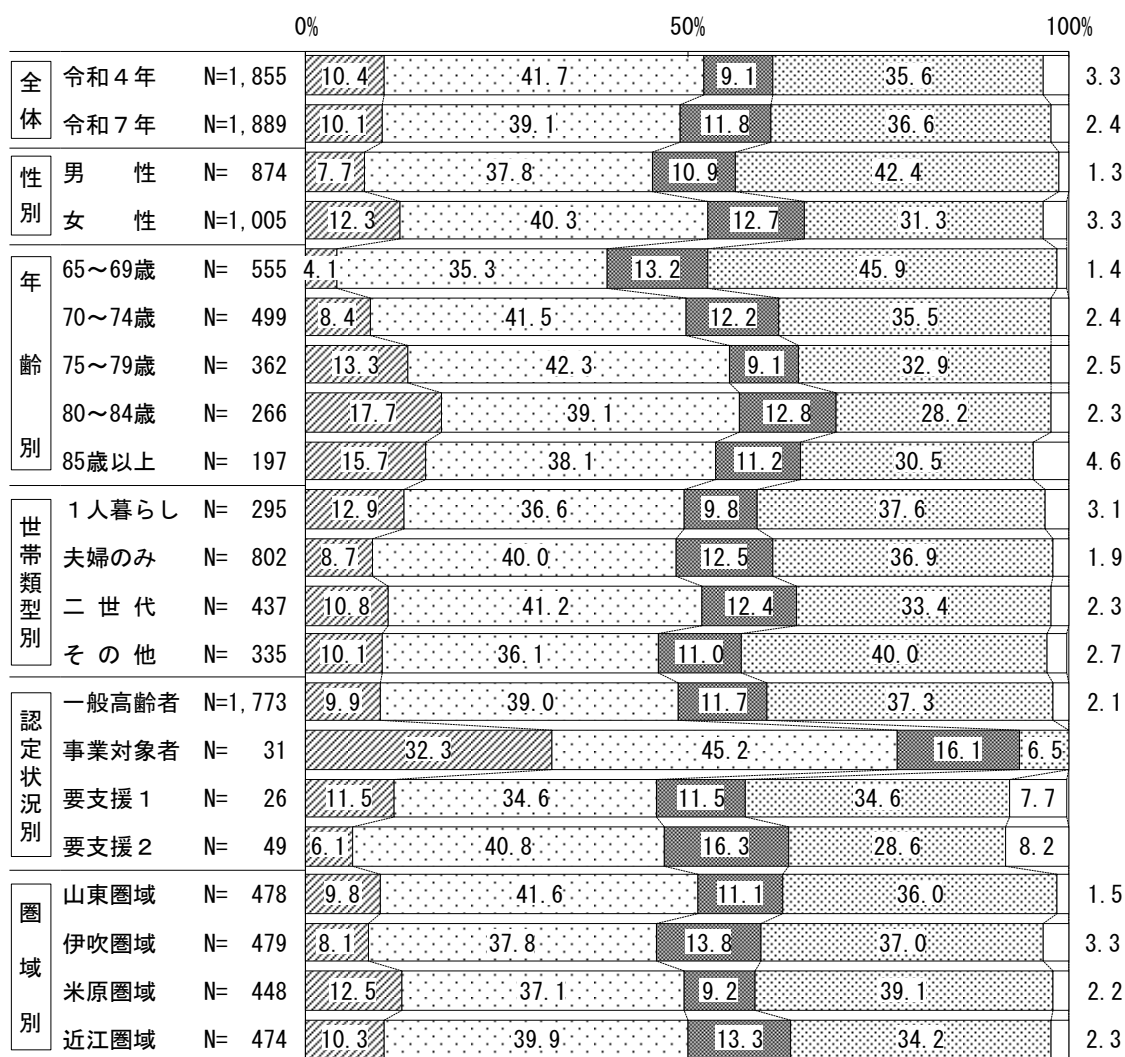
(3) 地域お茶の間創造事業の認知度と参加意向

「地域お茶の間創造事業」の認知度および参加意向をたずねたところ、「参加している」(10.1%)と「知っているが、参加していない」(39.1%)を合計した《認知度》は49.2%、「参加している」と「知らないが、参加してみたい」(11.8%)を合計した《参加意向》は21.9%です。令和4年の調査結果と比べて「知っているが、参加していない」が2.6ポイント低下し、「知らないが、参加してみたい」が2.7ポイント上昇しています。

《認知度》は、性別では女性が男性より7.1ポイント高く、年齢別では75～79歳まで年齢が高くなるにしたがい上昇し、75歳以上では50%以上を占めています。

《参加意向》は、性別では女性が男性より6.4ポイント高く、年齢別では年齢が高くなるにしたがい上昇する傾向にあります。

図表4-60 地域お茶の間創造事業の認知度と参加意向



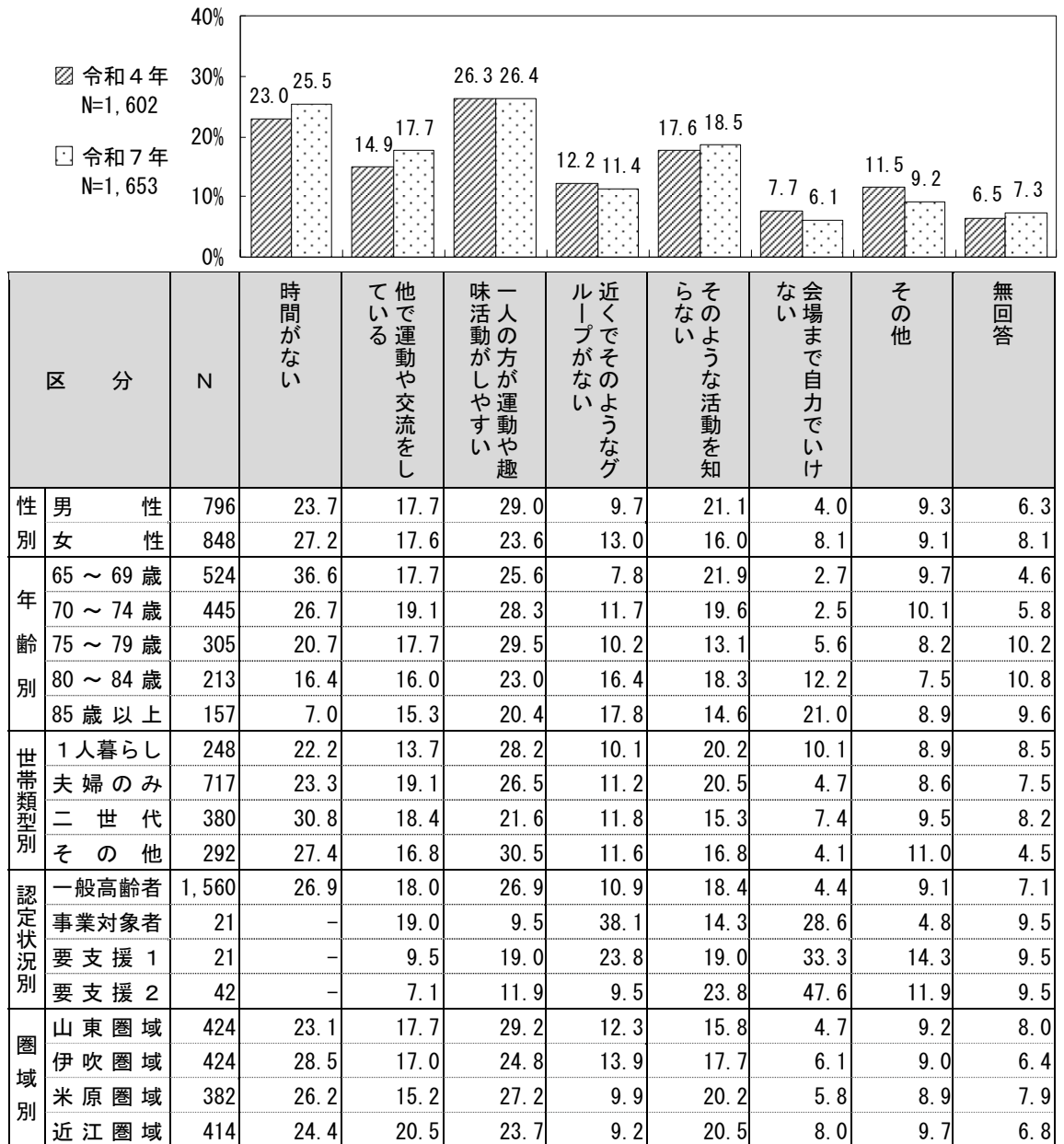
- 参加している
- ▨ 知っているが、参加していない
- 知らないが、参加してみたい
- ▨ 知らないし、参加してみたいとは思わない
- 無回答

(4) 地域お茶の間創造事業に参加していない理由

地域お茶の間創造事業に参加していない人にその理由をたずねたところ、「一人の方が運動や趣味活動がしやすい」が26.4%と最も高く、次いで「時間がない」が25.5%、「そのような活動を知らない」が18.5%などの順となっています。

性別にみると、男性は女性より「一人の方が運動や趣味活動がしやすい」「そのような活動を知らない」が高く、女性は男性より「時間がない」「近くでそのようなグループがない」「会場まで自力で行けない」が高くなっています。年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「会場まで自力で行けない」が上昇し、「時間がない」が低下します。世帯類型別では、一人暮らしの「会場まで自力で行けない」が他の世帯類型と比べて高くなっています。

図表 4-61 地域お茶の間創造事業に参加していない理由（複数回答） 単位：Nは人、他は%



「その他」として、図表4-62の内容が記載されていました。

図表4-62 地域お茶の間創造事業に参加していない理由（複数回答、「その他」）

<ul style="list-style-type: none"> ○持病があるため（5件） ○体調が悪いから（3件） ○2年前に大病（手術）し、現在療養中のため ○下咽喉がん手術後参加しなくなった ○視覚障がいのため ○寝たきりではないが、疾患があって一切外出ができない ○透析中であり時間が合わない ○薬は服用しているが、人の中に入ると、マスクをしていても迷惑になるから ○手術後で体力がない ○体調が悪く疲れやすいので、必要な時以外出たくない ○身体が不自由だから（5件） ○足腰が悪い（2件） ○身体が疲れやすいので、したくてもできない ○身体の具合が悪いため ○腰痛のため ○整形外科に通っている ○膝に痛みがあり ○歩けない ○畑仕事が忙しい（4件） ○リハビリをしている（2件） ○ジムでトレーニングをしてマラソン大会に参加している ○6km強 1回/日のペースで雨の日以外は実施 ○サロンにボランティア参加している ○地域のサロンに参加している ○別のところに参加している ○岐阜県のふれあいセンターでお茶や運動をしています ○家の周りの草むしり ○夫婦でドライブまたは散歩している ○自分でコーヒーは作る ○毎日、柴犬の散歩。一日一回だが一時間以上している ○他の活動等で時間が空かない ○一人の時間は自分で勝手なことをしているのが好き ○就業中のため（14件） ○自営業を続けているため（4件） ○週末も仕事にいらっているので、時間帯が合わない ○フルタイムで働いているため ○現在、パートで働いているから ○他に法人役員・団体役員や、営農法人活動の事務などで多忙 ○区長で忙しい 	<ul style="list-style-type: none"> ○他の地域の人との交流がある ○地域で気の合う友だちと週2回は会って食事会をしている ○会社で20~40代のみんなと交流しているから ○夫の介護をしているから（3件） ○要介護者がいるので参加できない（3件） ○外に出るのがおっくう。見守る人がいるので ○嫁がそのような活動をしているため、仕事以外の日は留守番が多い ○家を留守にできないため ○7人の孫の世話をしている ○娘の家族の分も夕食を作っている ○興味・関心がない（6件） ○参加したいと思わない（6件） ○参加したくない（3件） ○まだそれほどの年齢ではない（2件） ○好きではないから（2件） ○必要性を感じないから（2件） ○タイミングが合わない ○面倒くさい ○あまり外に出たくないから ○生活が大変だから時間の余裕がない ○知っているが時間がない ○人間関係（3件） ○自分の友だちという方がよい ○人に合わせるのが苦手 ○人前に出るのが苦手 ○お誘いがあれば参加しやすい ○意味のない井戸端会議が大きなストレスになる ○根掘り葉掘り家庭内のことを聞かれて広まるのが嫌 ○高齢で一人になり、次女の隣に引っ越したので馴染めない ○団地のため、交流がなく行きにくい ○地域の人と合わないから ○自分より年上の方が多く、会話内容でより老け込んでしまうため ○同年代の人がいない。高齢者の方が多いから ○参加している方のグループには入りづらい、近場がない ○運動量が合っていない ○自分のしたいことがない ○以前実施していた時は参加していたが、現在は実施しなくなった ○役員は嫌です ○同様の事業を運営しているが、登録していないだけ ○福祉会は知っている
--	---

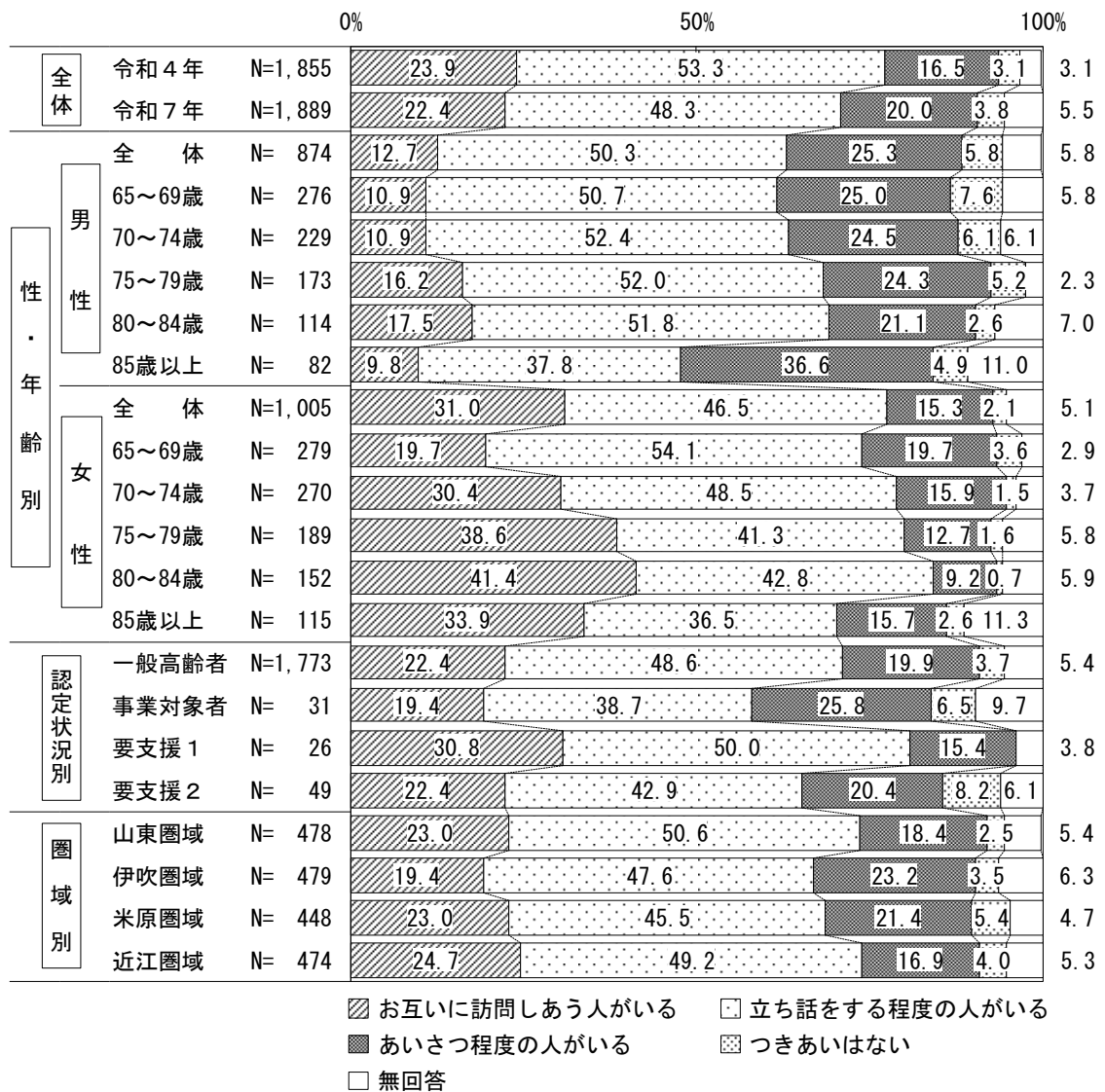
(5) 近所の人とどの程度つきあいをしているか

近所の人とのつきあいについて、「立ち話をする程度の人がいる」が48.3%と最も高く、次いで「お互いに訪問しあう人がある」が22.4%などの順となっています。令和4年の調査結果と比べて、「立ち話をする程度の人がいる」が5ポイント低下しています。

性・年齢別にみると、男女ともに「立ち話をする程度の人がいる」が最も高くなっています。女性は男性と比較して「お互いに訪問しあう人がある」が全体的に高く、男性は女性に比べて「あいさつ程度の人がある」が高くなっています。

認定状況別にみても、いずれも「立ち話をする程度の人がいる」が最も高くなっています。他に比べて事業対象者は「あいさつ程度の人がある」が高く、要支援1は「お互いに訪問しあう人がある」が高くなっています。

図表4-63 近所の人とどの程度つきあいをしているか



6 たすけあい.....

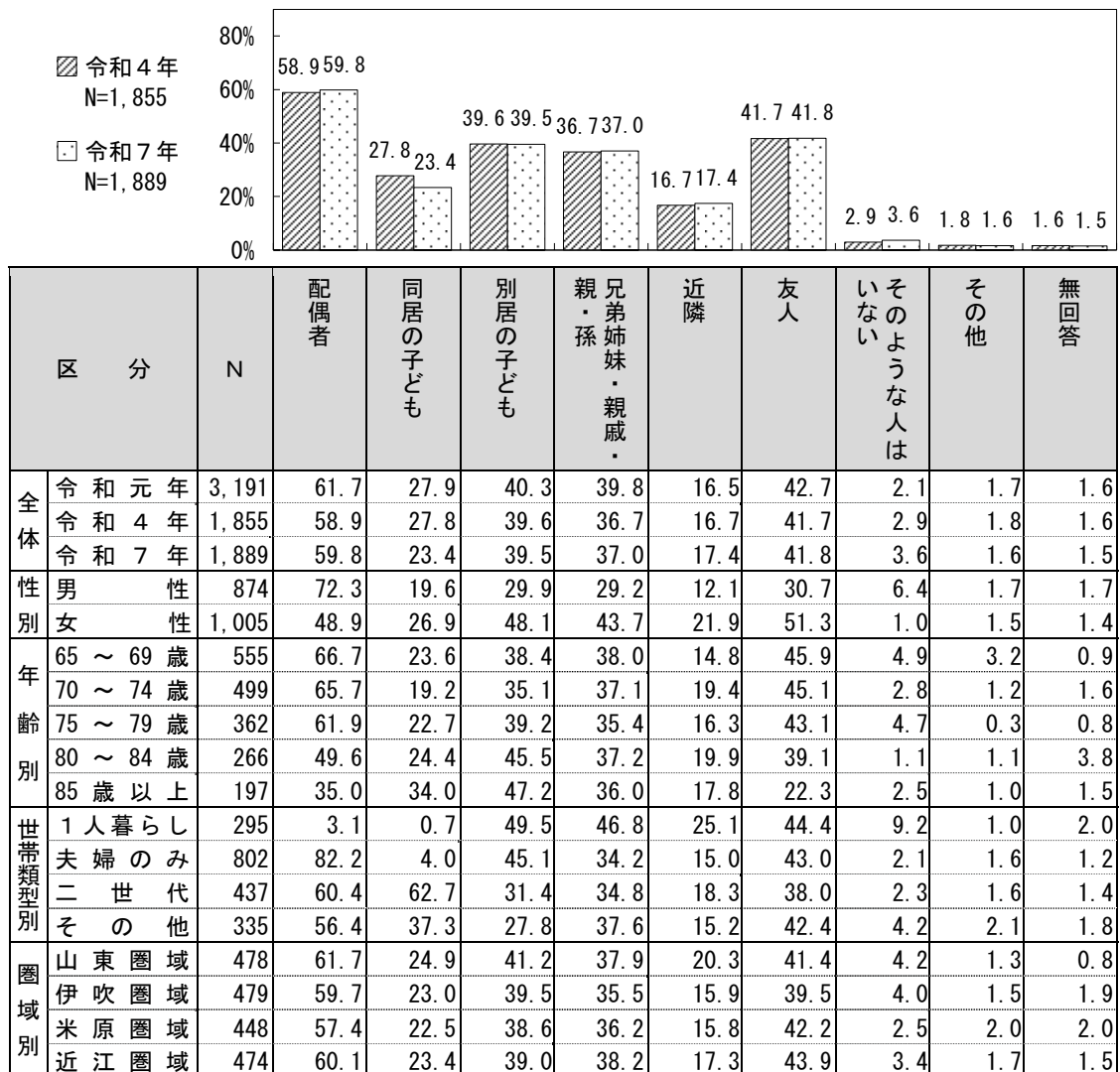
(1) 心配事や愚痴を聞いてくれる人

心配事や愚痴を聞いてくれる人をたずねたところ、「配偶者」が59.8%と最も高く、次いで「友人」が41.8%「別居の子ども」が39.5%「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が37.0%などの順となっています。

性別にみると、男性は「配偶者」が72.3%と突出しているのに対し、女性は「友人」が51.3%と最も高く、さらに「配偶者」「別居の子ども」「兄弟姉妹・親戚・親・孫」も40%台となっています。年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「配偶者」「友人」が低下し、「同居の子ども」「別居の子ども」が高くなる傾向にあります。世帯類型別にみると、夫婦のみ、その他の世帯は「配偶者」が最も高く、二世帯世帯は「同居の子ども」が最も高くなっています。1人暮らしは「別居の子ども」「兄弟姉妹・親戚・親・孫」「友人」が40%台となっています。圏域別にみると、山東圏域は「近隣」が比較的高くなっています。

図表4-64 心配事や愚痴を聞いてくれる人（複数回答）

単位：Nは人、他は%



「その他」として、図表4-65の内容が記載されていました。

図表4-65 心配事や愚痴を聞いてくれる人（複数回答、「その他」）

<input type="checkbox"/> 同僚、仕事仲間（13件）	<input type="checkbox"/> 民生委員
<input type="checkbox"/> パート仲間	<input type="checkbox"/> 地域活動組織の役員
<input type="checkbox"/> 同業者	<input type="checkbox"/> 内縁の妻
<input type="checkbox"/> ケアマネジャー	<input type="checkbox"/> 行きつけの店
<input type="checkbox"/> リハビリの職員	<input type="checkbox"/> 知っている人に尋ねることがある
<input type="checkbox"/> 趣味の会の人	<input type="checkbox"/> 信仰が同じ仲間
<input type="checkbox"/> グループの人	<input type="checkbox"/> 週に1回体操に行っています
<input type="checkbox"/> 社会福祉課の担当の方	<input type="checkbox"/> 愚痴はありません

(2) 心配事や愚痴を聞いてあげる人

心配事や愚痴を聞いてあげる人をたずねたところ、(1)と概ね同様の傾向になっています。全体では「配偶者」が57.7%と最も高く、次いで「友人」が41.1%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が35.4%、「別居の子ども」が34.5%などの順となっています。

性別にみると、男性は「配偶者」が70.4%と突出しているのに対し、女性は「友人」が51.8%と最も高く、さらに「配偶者」「兄弟姉妹・親戚・親・孫」「別居の子ども」も40%台となっています。

年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「配偶者」「友人」が低下しています。

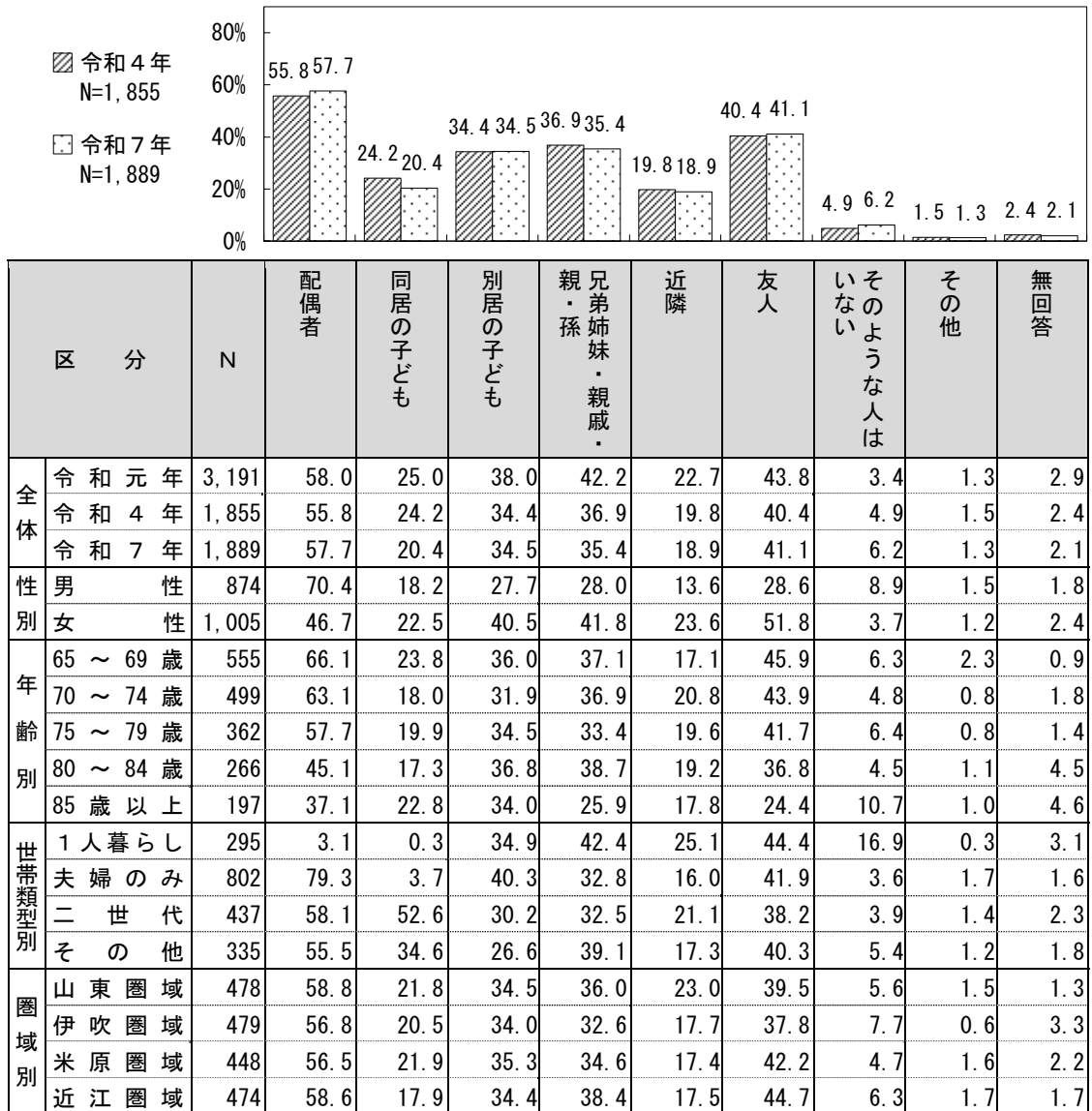
世帯類型別にみると、1人暮らしは「友人」「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が、夫婦のみ、二世帯世帯、その他の世帯は「配偶者」が高く、さらに二世帯世帯は「同居の子ども」も50%以上となっています。

圏域別にみると、山東圏域は他の圏域に比べて「近隣」が高くなっています。

「その他」として、図表4-67の内容が記載されていました。

図表 4-66 心配事や愚痴を聞いてあげる人（複数回答）

単位：Nは人、他は%



図表 4-67 心配事や愚痴を聞いてあげる人（複数回答、「その他」）

○同僚、仕事仲間（12件）	○内縁の妻
○パート仲間	○信仰が同じ仲間
○趣味の会の人	○お互いに
○ケアハウスの人	○聞く気がない
○1人暮らしの人	○民生委員のため、聞く立場にある
○地域活動組織の役員	

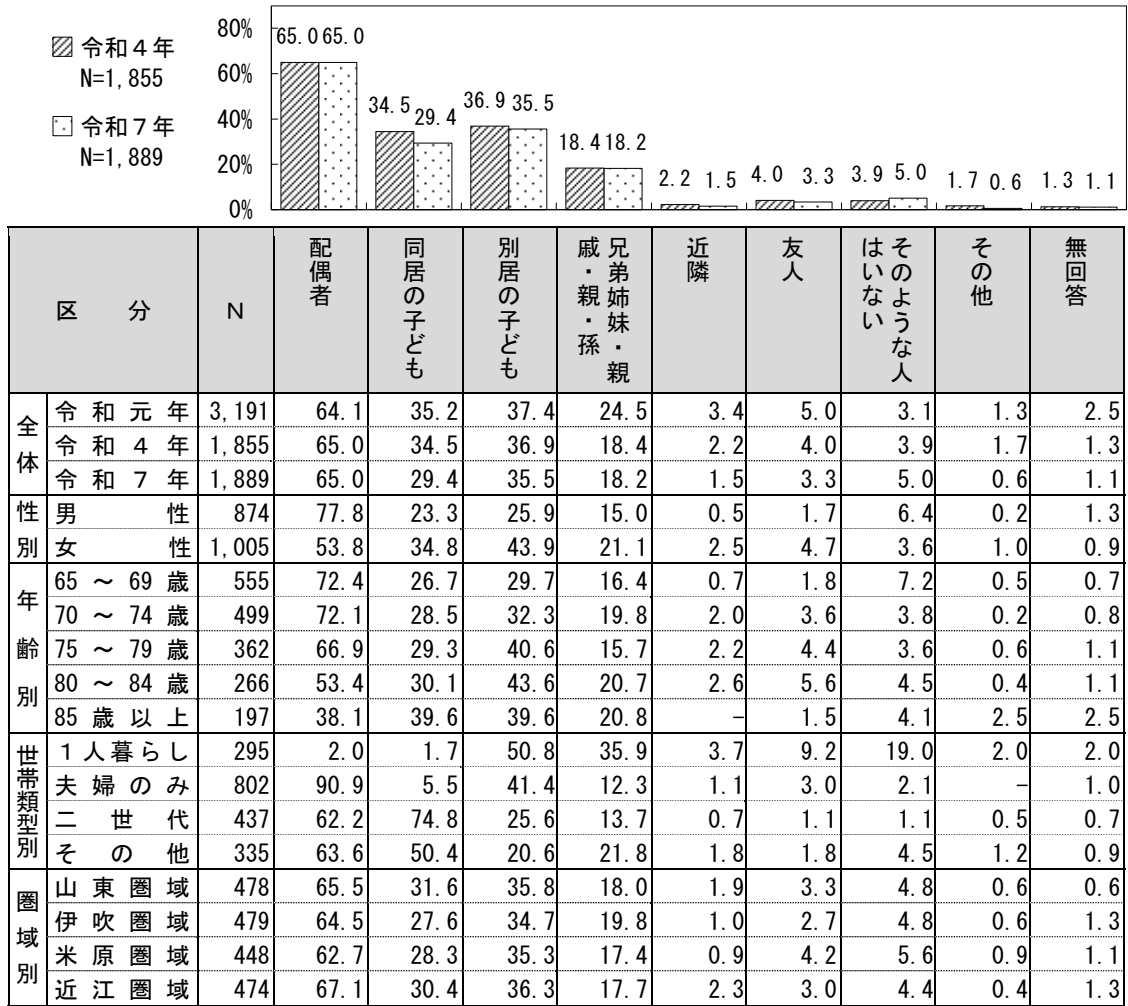
(3) 看病や世話をしてくれる人

病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人についてたずねたところ、「配偶者」が65.0%と最も高く、次いで「別居の子ども」が35.5%、「同居の子ども」が29.4%などの順となっています。

性別にみると、男性は「配偶者」が77.8%と突出しています。女性も「配偶者」が53.8%と最も高いものの、「別居の子ども」も43.9%と比較的高くなっています。年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「配偶者」が低下し、「別居の子ども」が上昇する傾向にあります。85歳以上では「別居の子ども」が低下し「同居の子ども」が上昇しています。世帯類型別にみると、1人暮らしは「別居の子ども」が、夫婦のみ、その他の世帯は「配偶者」が、二世帯世帯は「同居の子ども」が最も高くなっています。

「その他」として、図表4-69の内容が記載されていました。

図表4-68 看病や世話をしてくれる人（複数回答） 単位：Nは人、他は%



図表4-69 看病や世話をしてくれる人（複数回答、「その他」）

○内縁の妻	○わからない（3件）
○夫が世話をしてくれていたが今は入院中	○その時にならないとわからない（2件）
○施設	○今まで寝込んだことがない
○息子夫婦、孫はいるが、遠方のため誰もいない	

(4) 看病や世話をしてあげる人

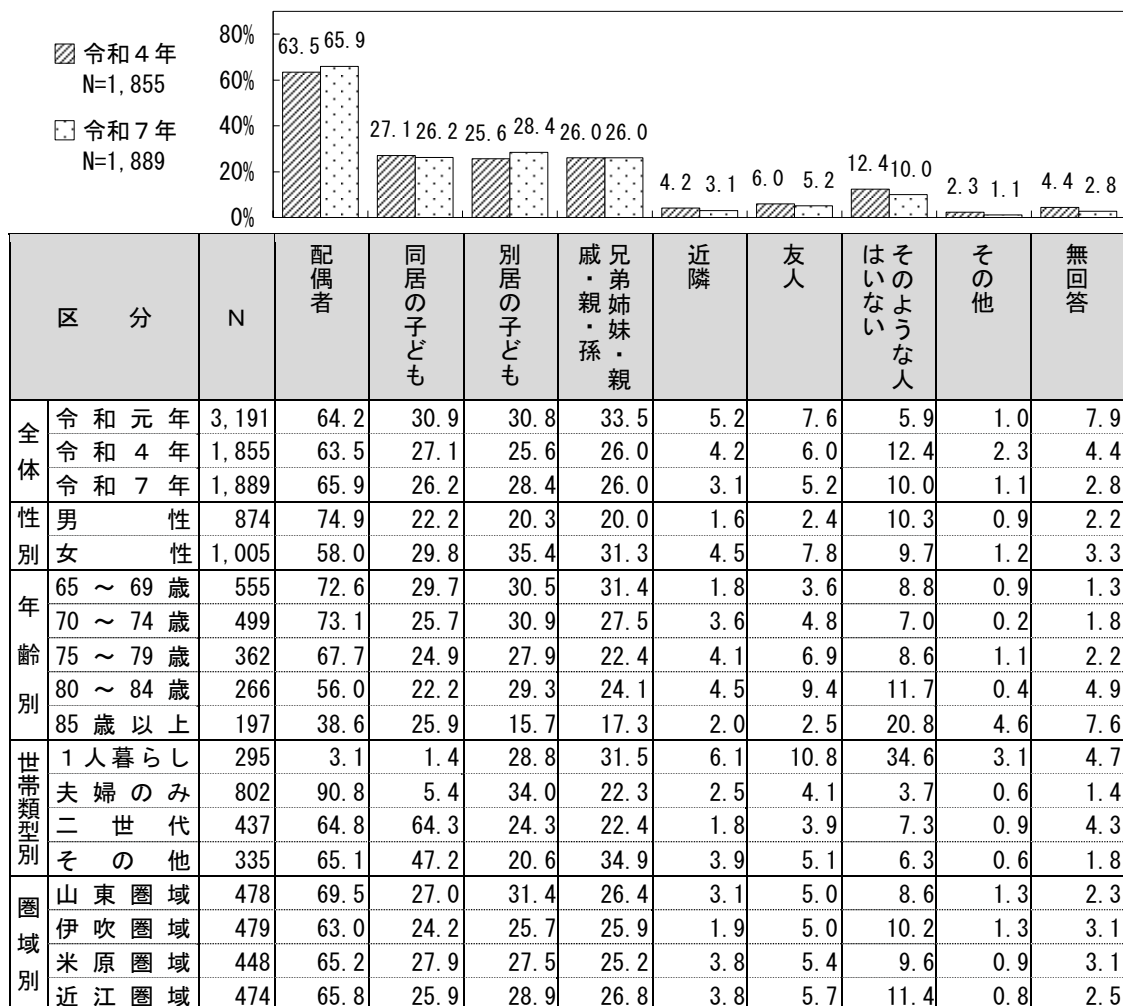
看病や世話をしてあげる人をたずねたところ、「配偶者」が65.9%と最も高く、「別居の子ども」「同居の子ども」「兄弟姉妹・親戚・親・孫」も25%を超えています。

性別にみると、男性は「配偶者」が74.9%と突出しています。女性も「配偶者」が58.0%と最も高いものの、「別居の子ども」も35.4%と比較的高くなっています。年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて「配偶者」「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が低下する傾向にあります。世帯類型別にみると、1人暮らしは「そのような人はいない」が、それ以外の世帯類型は「配偶者」が最も高くなっています。また、二世帯世帯は「同居の子ども」も高くなっています。

「その他」として、図表4-71の内容が記載されていました。

図表4-70 看病や世話をしてあげる人（複数回答）

単位：Nは人、他は%



図表4-71 看病や世話をしてあげる人（複数回答、「その他」）

○できない（5件）	○内縁の妻
○自分の身体がよくないのでできない（4件）	○今はまだいない
○高齢なのでできない（2件）	○現在はそれぞれ家族がいるので
○親	

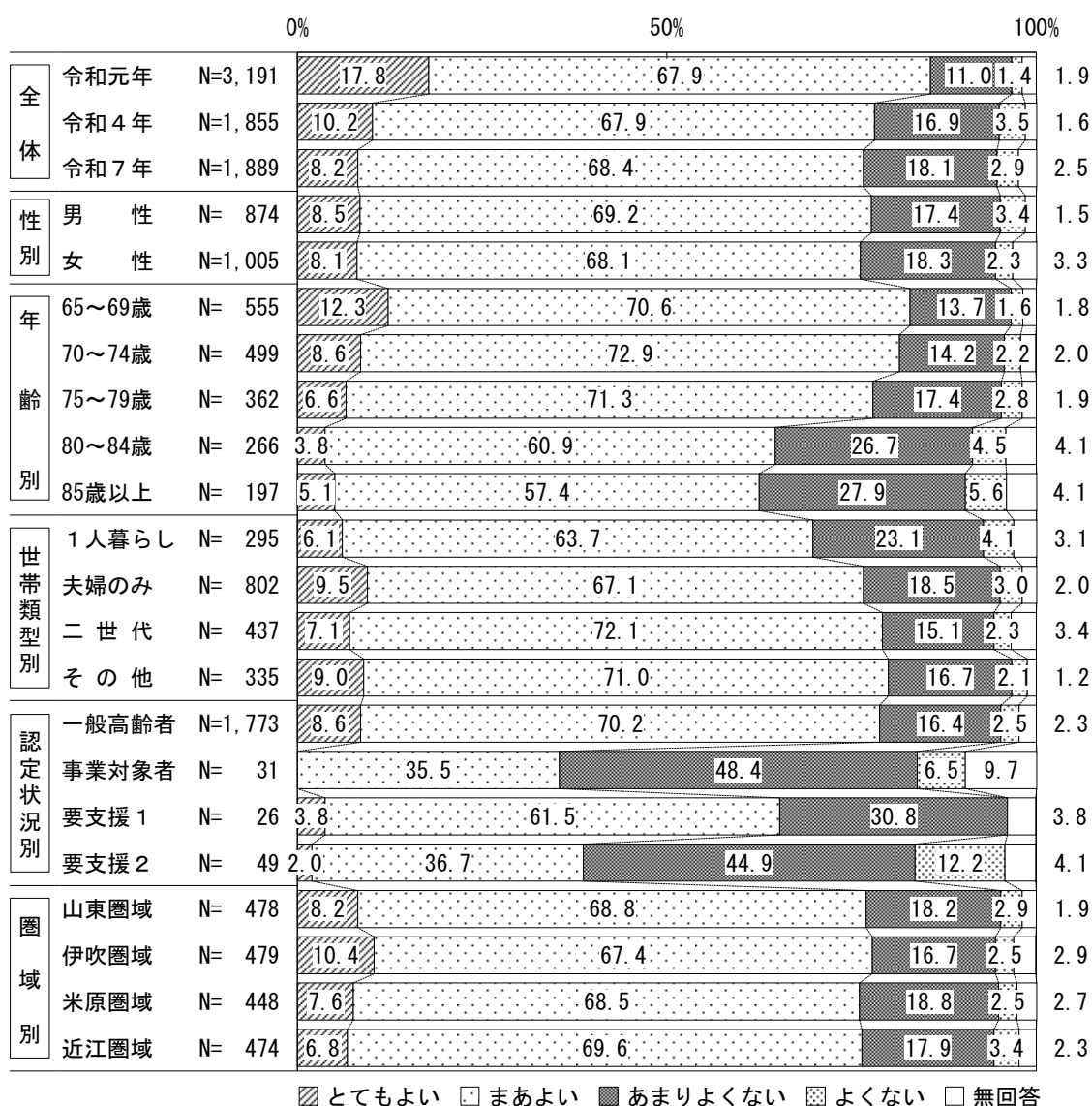
7 健康.....

(1) 健康状態

健康状態は「まあよい」と感じている人が68.4%を占めています。これに「とてもよい」(8.2%)を加えた《よい》は76.6%となり、過去の調査結果と比べると最も低くなっています。「あまりよくない」(18.1%)と「よくない」(2.9%)を合計した《よくない》は21.0%です。

《よくない》は、性別では大きな開きがなく、年齢別では年齢が高くなるにしたがい上昇しています。世帯類型別では1人暮らしが最も高く、認定状況別では事業対象者および要支援2が50%以上となっています。

図表4-72 健康状態

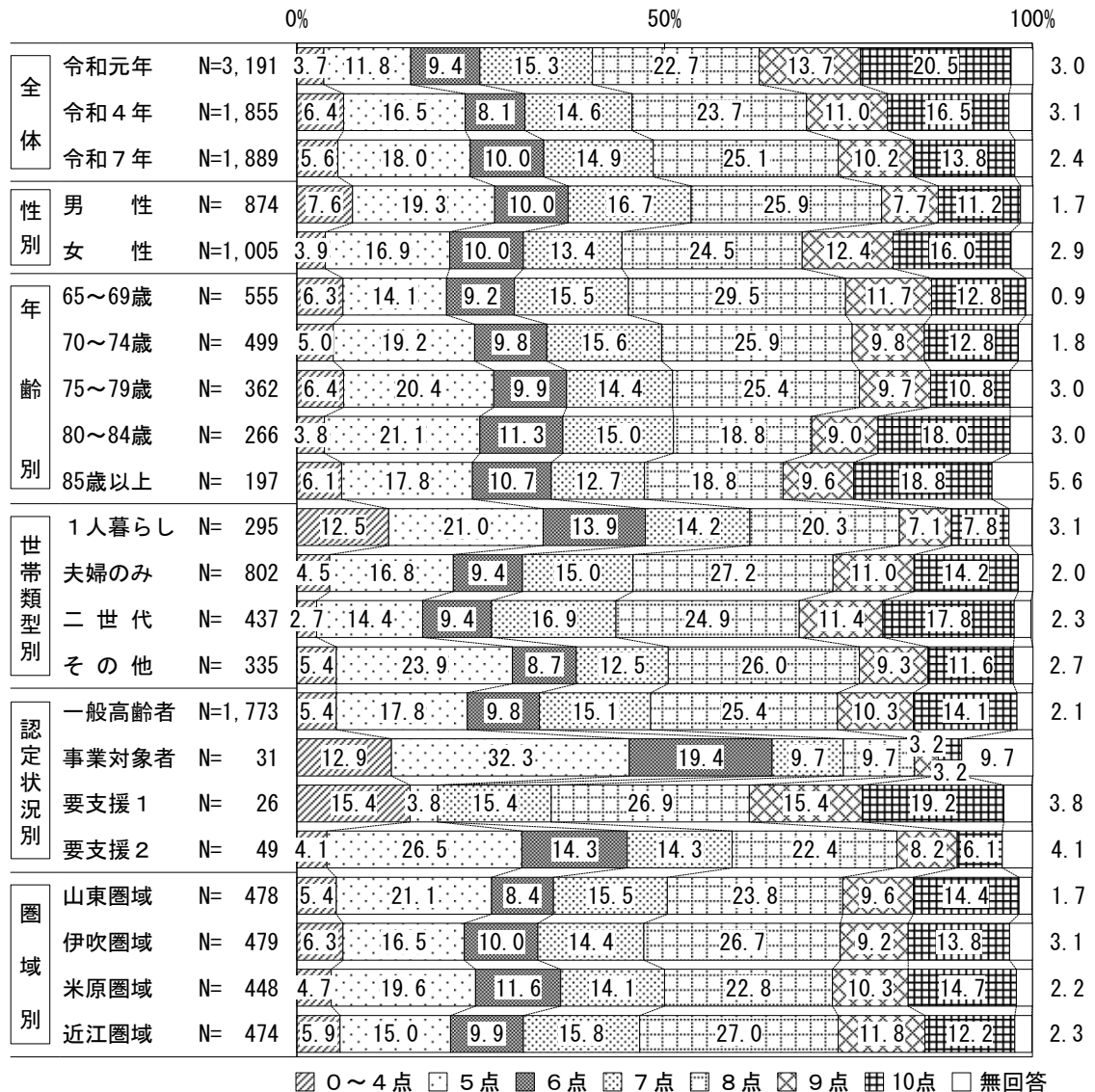


(2) 幸福感

「あなたは現在どの程度幸せですか（「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください）」という主観的な幸福感を問う設問では、「8点」が25.1%と最も高くなっています。仮に6点以上を《幸せ》とすれば、《幸せ》は74.0%となります。令和元年の調査結果と比べると7.6ポイント低く、令和4年の調査結果とほぼ同様の結果です。

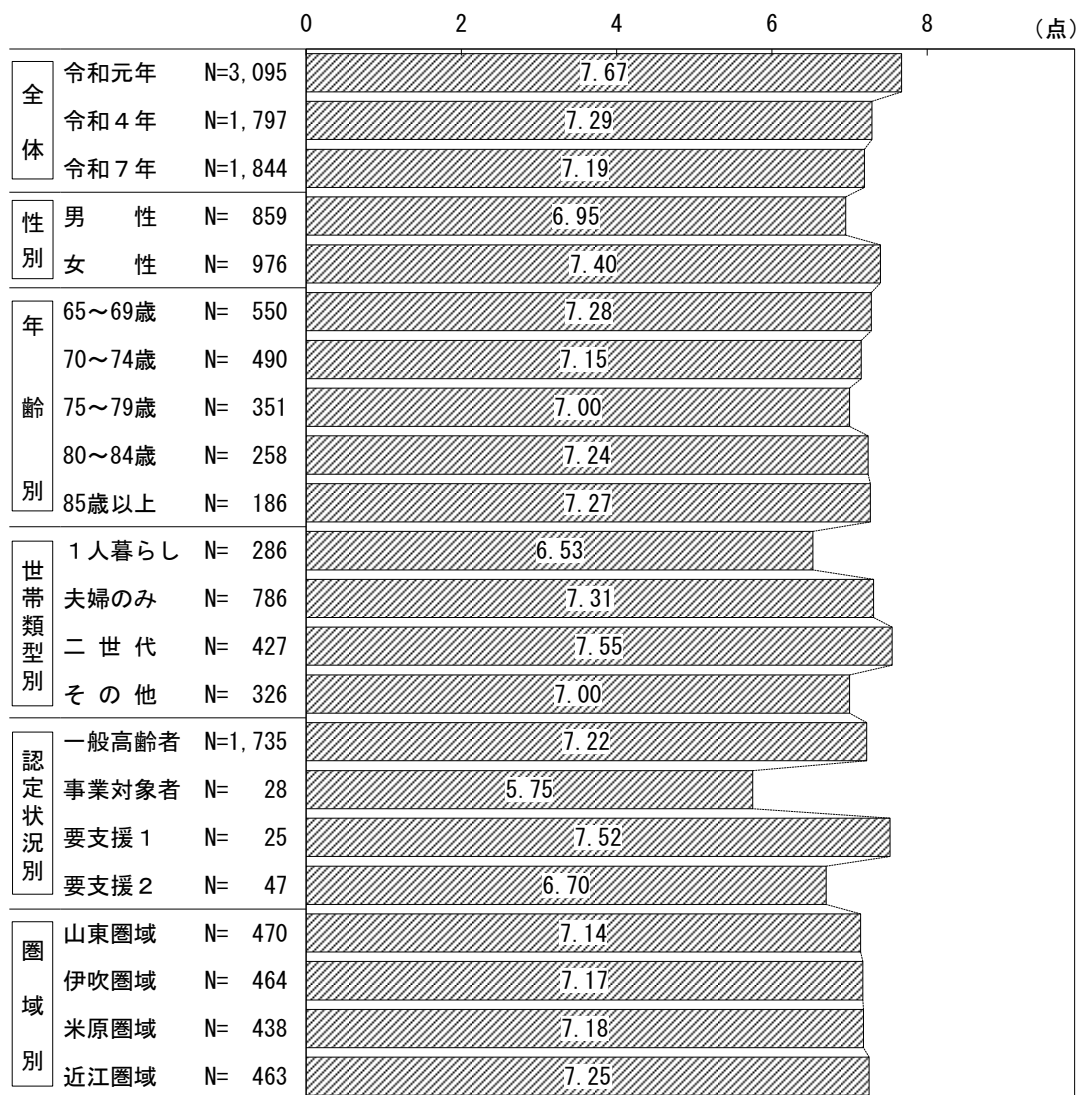
性別にみると、男性は《8点以下》が女性より高く、女性は「9点」「10点」が男性より高くなっており、《幸せ》は女性が男性より高くなっています。世帯類型別にみると、《幸せ》は二世帯世帯が最も高く、1人暮らしが最も低くなっています。認定状況別にみると、事業対象者は《幸せ》が45.2%と非常に低くなっています。

図表4-73 幸福感



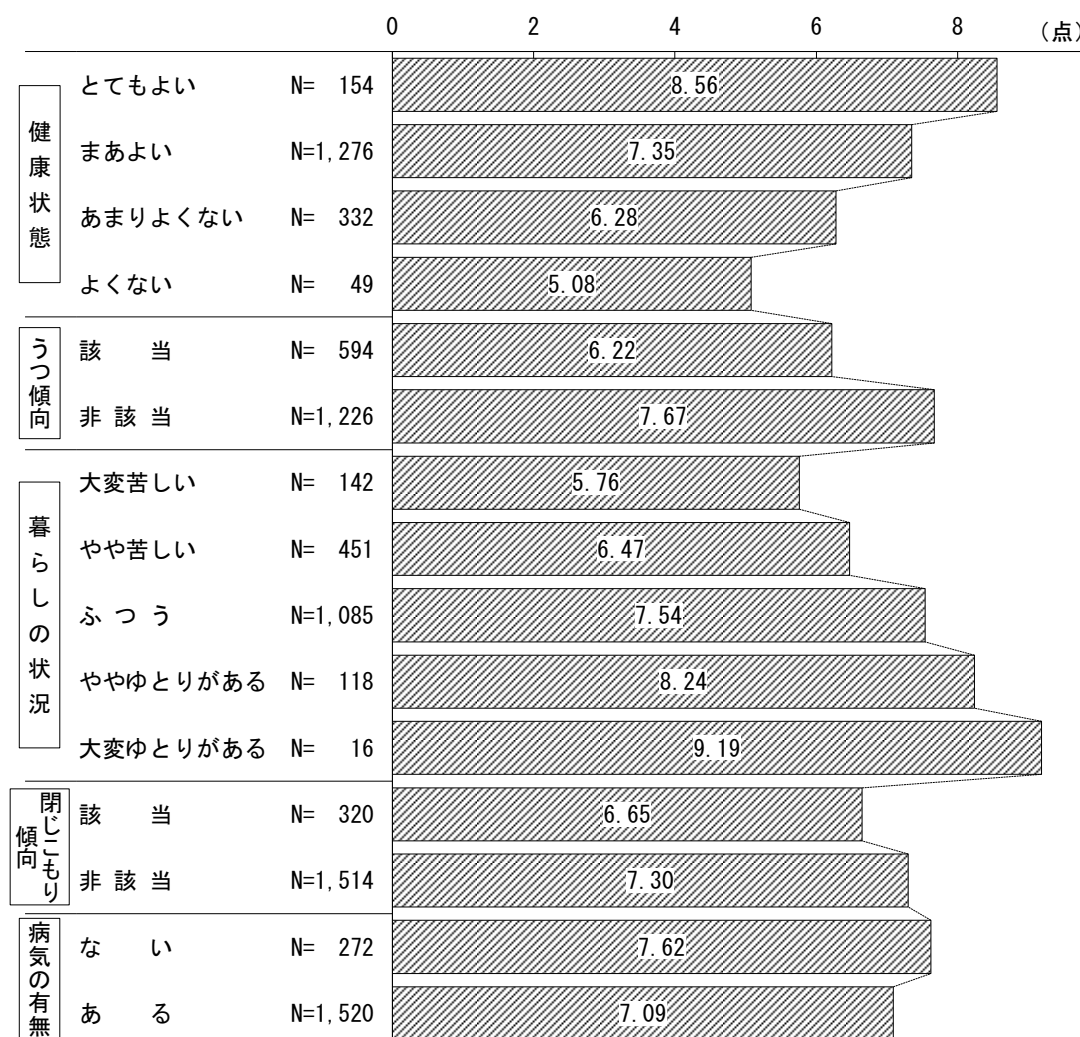
幸福感を平均点で見ると、全体では7.19点になっており、令和元年の調査結果より0.48点、令和4年の調査結果より0.1点低くなっています。性別では女性が男性より0.45点高く、年齢別では大きな開きはありません。世帯類型別の1人暮らし、認定状況別の事業対象者、要支援2は7点未満の低い点数となっています。

図表4-74 幸福感の平均点



幸福度の平均点を調査対象者の状態別にみると、健康状態、うつ傾向、暮らしの状況によって大きな開きが出ています。

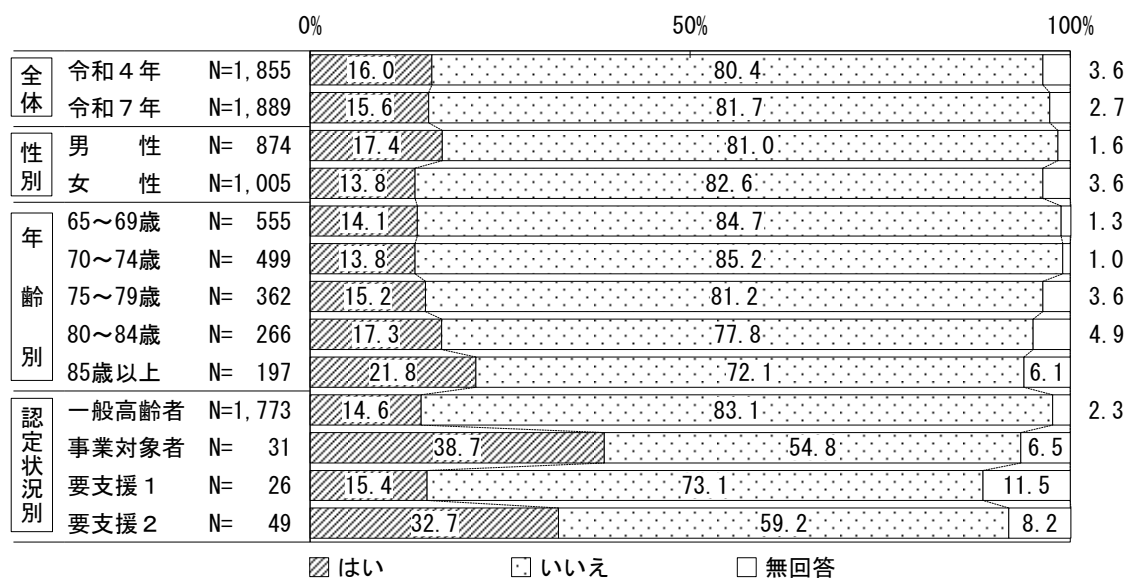
図表 4-75 幸福度の平均点（健康状態・うつ傾向・暮らしの状況・閉じこもり傾向・病気の有無別）



(3) 毎日の生活の充足感の有無

「(ここ2週間)毎日の生活の充実感がない」という設問では、「いいえ」(充実感あり)が81.7%を占めています。「はい」(充実感なし)は15.6%です。「はい」は、性別では男性が、年齢別では85歳以上が、認定状況別では事業対象者が高くなっています。

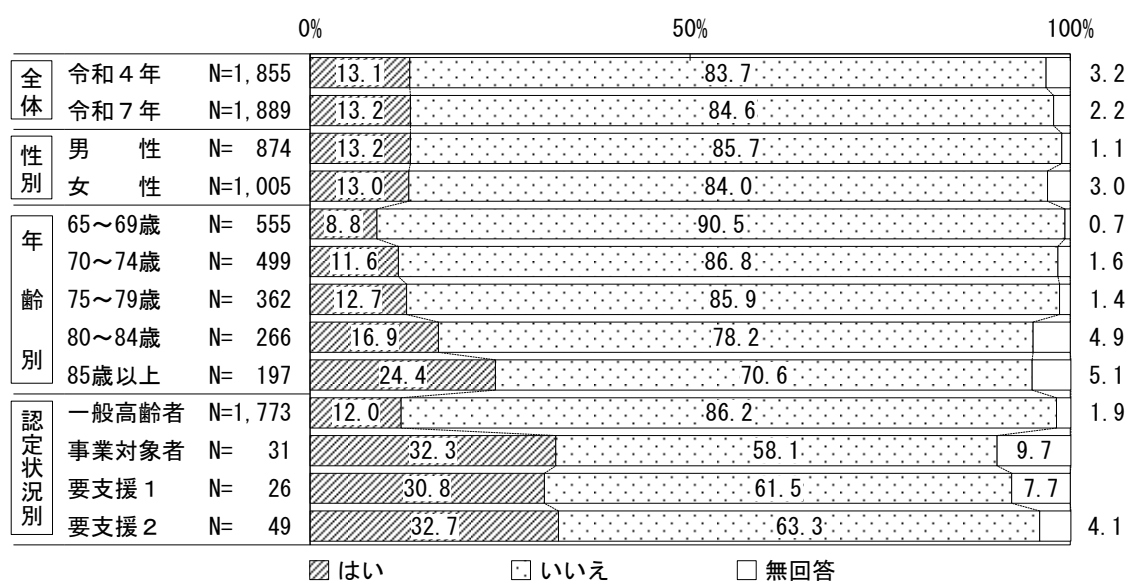
図表4-76 毎日の生活の充足感の有無



(4) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなったか

「(ここ2週間)これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった」という設問では、「いいえ」が84.6%を占めています。「はい」は13.2%です。「はい」は、年齢別では年齢が高くなるにしたがい上昇し、認定状況別では事業対象者および要支援1・2で30%以上の高い割合となっています。

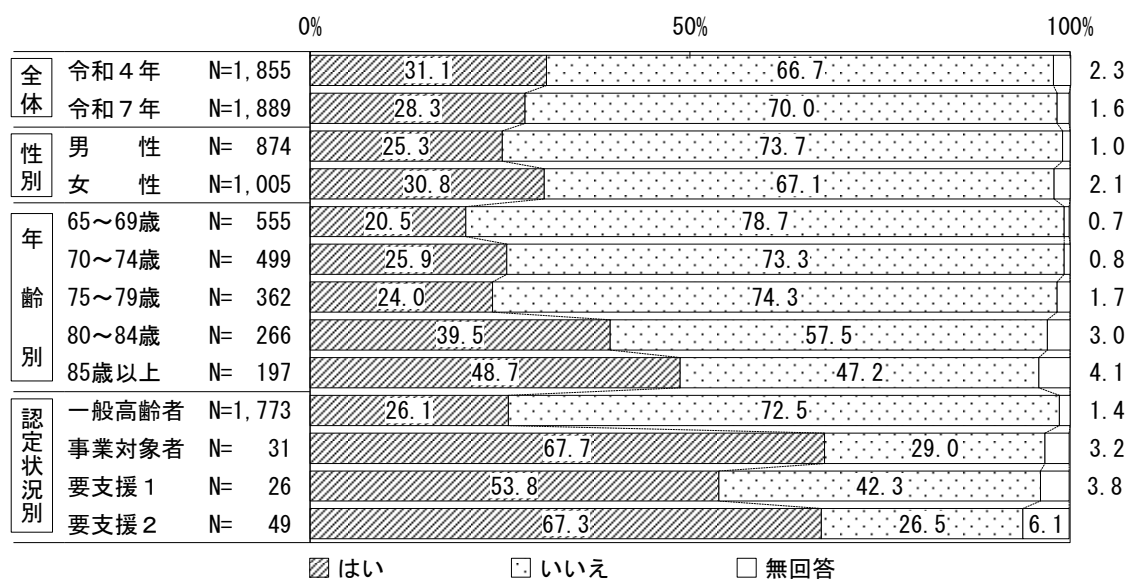
図表4-77 これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなったか



(5) 以前は楽にできていたことがおっくうに感じるか

「(ここ2週間) 以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられる」という設問では、「いいえ」が70.0%を占めています。「はい」は28.3%です。「はい」は、性別では女性が男性より高く、年齢別では年齢が高くなるにしたがい上昇傾向にあります。また、認定状況別では事業対象者および要支援2で60%を上回っています。

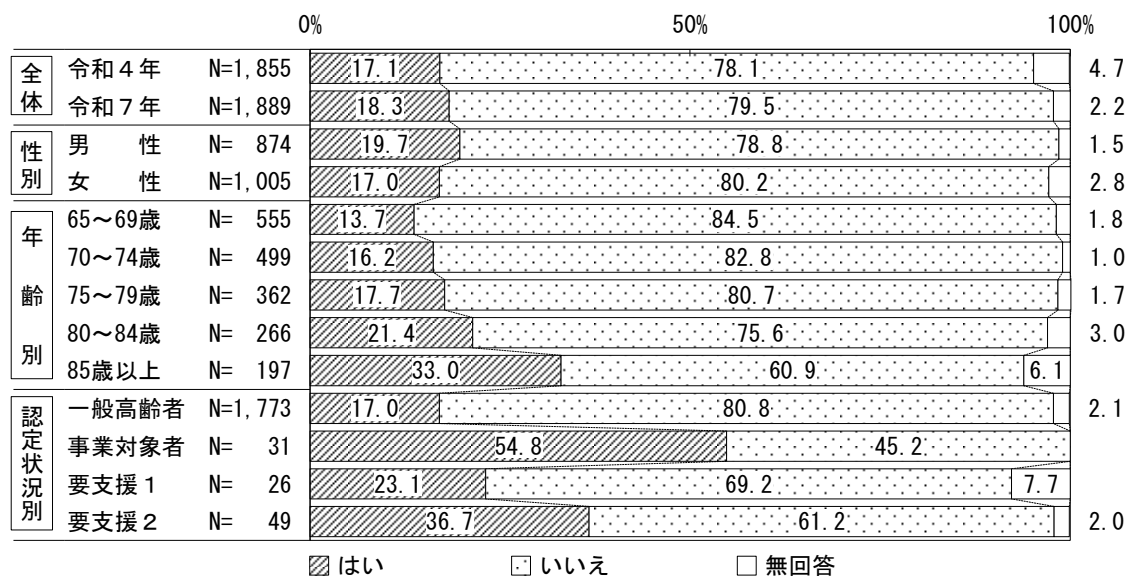
図表4-78 以前は楽にできていたことがおっくうに感じるか



(6) 自分が役に立つ人間だと思えないか

「(ここ2週間) 自分が役に立つ人間だと思えない」という設問では、「いいえ」が79.5%を占めています。「はい」は18.3%です。「はい」は、性別では男性が女性より高く、年齢別では年齢が高くなるにしたがい上昇しています。また、認定状況別では事業対象者が50%を超える高い割合となっています。

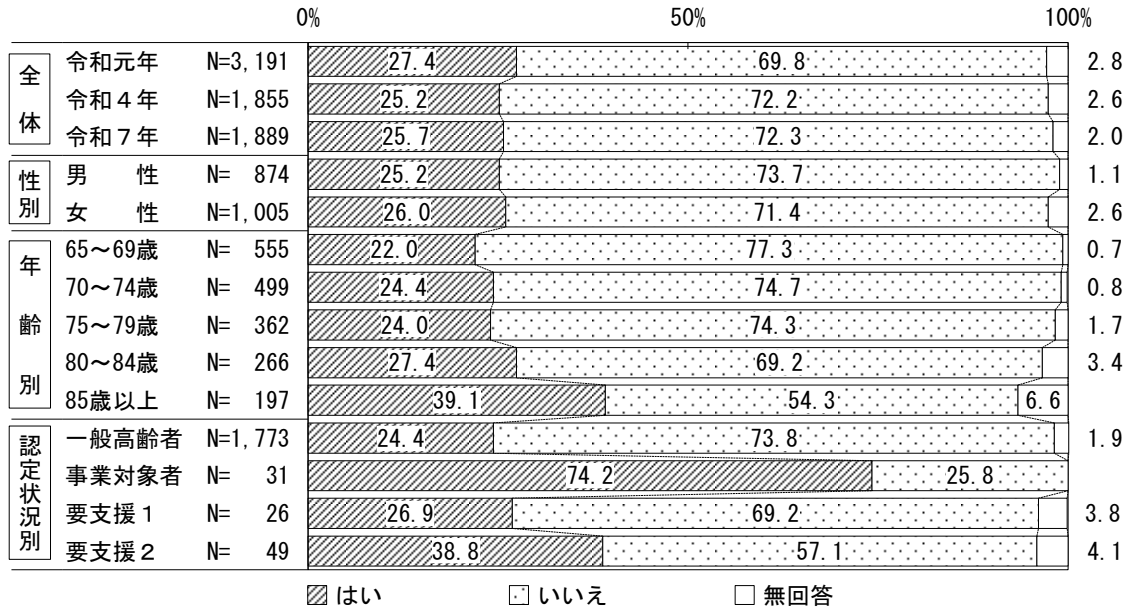
図表4-79 自分が役に立つ人間だと思えないか



(7) わけもなく疲れたような感じがするか

「(ここ2週間)わけもなく疲れたような感じがする」という設問では、「いいえ」が72.3%を占めています。「はい」は25.7%です。「はい」は、年齢別では85歳以上、認定状況別では事業対象者が高くなっています。

図表4-80 わけもなく疲れたような感じがするか

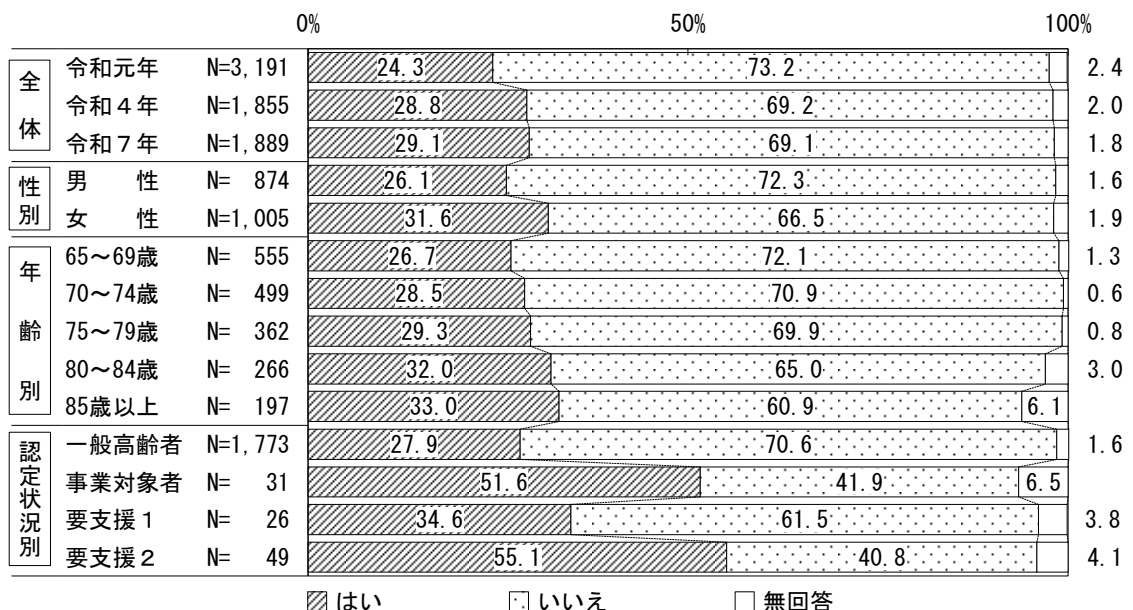


(8) 気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったか

「この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか」という設問では、「いいえ」(なかった)が69.1%を占め、「はい」(あった)は29.1%です。

「はい」は、性別では女性が男性より高く、年齢別では年齢が高くなるにしたがい緩やかに上昇しています。また、認定状況別では事業対象者および要支援2で50%を超えています。

図表4-81 気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったか



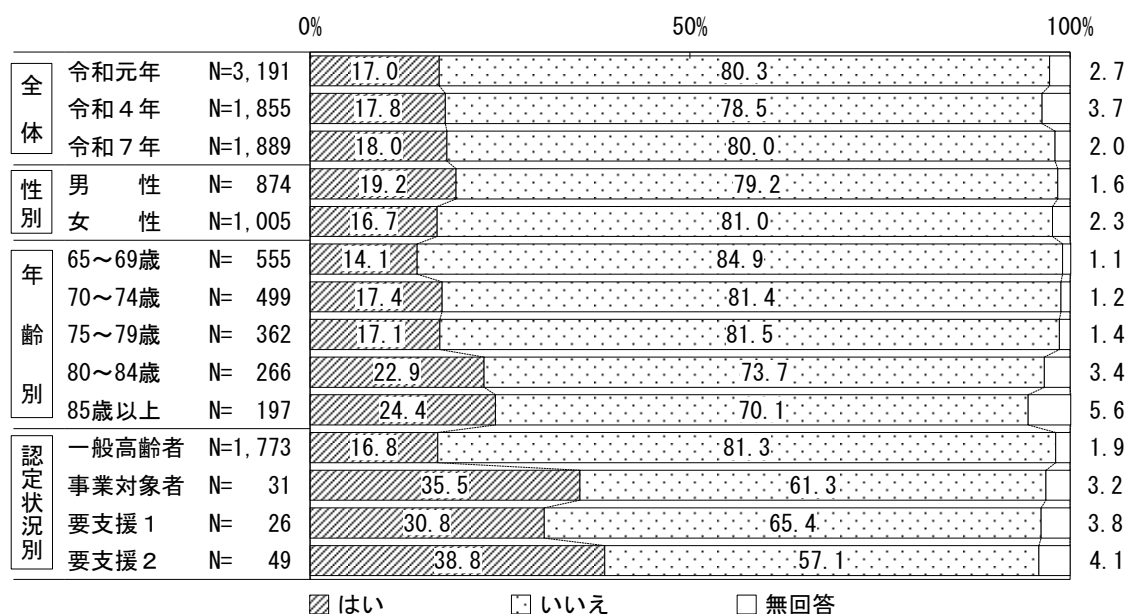
(9) 物事に興味がわかない、楽しめない感じがあったか

「この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか」という設問では、「いいえ」(なかった) が80.0%を占めています。

「はい」(あった) は18.0%です。

「はい」は、性別では男性が女性よりやや高く、年齢別では年齢が高くなるにしたがい上昇傾向にあります。また、認定状況別では事業対象者および要支援1・2で30%以上の高い割合となっています。

図表4-82 物事に興味がわかない、楽しめない感じがあったか

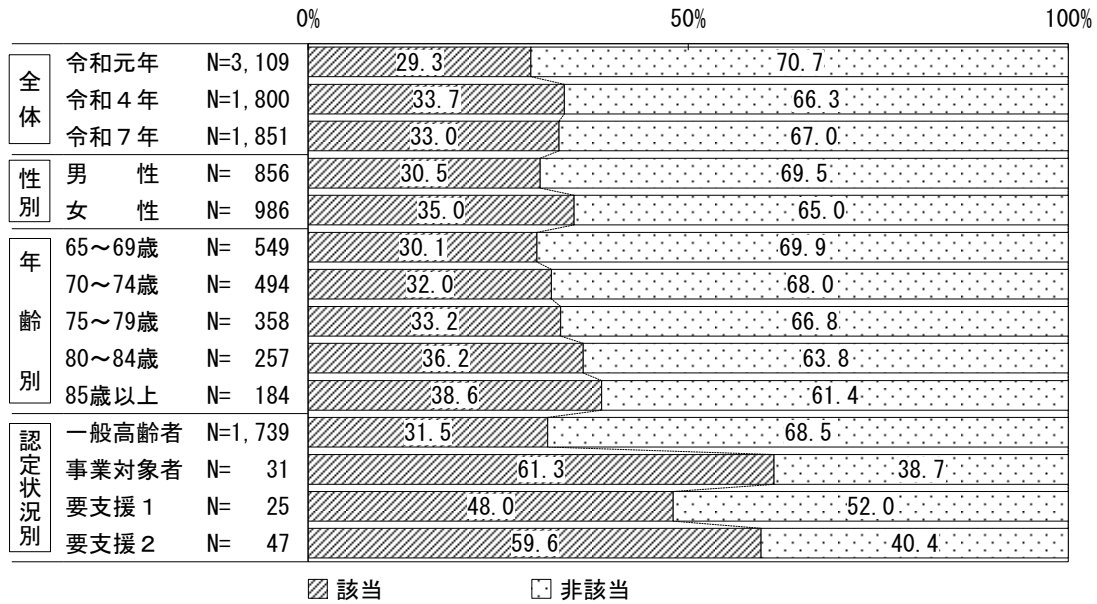


(10) うつ傾向の高齢者

(8)、(9)はうつ傾向を問う設問です。(8)、(9)でいずれか1つでも「はい」と回答した場合には、うつ傾向の高齢者となります。

該当者は33.0%となっています。性別では女性が男性より高く、年齢別では年齢が高くなるにしたがい上昇しています。認定状況別にみると、事業対象者および要支援2が60%程度を占めています。

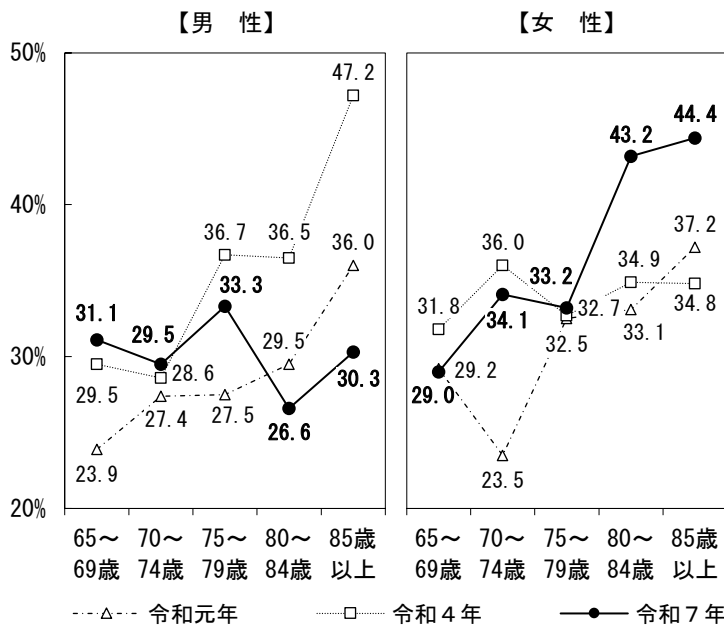
図表4-83 うつ傾向の高齢者



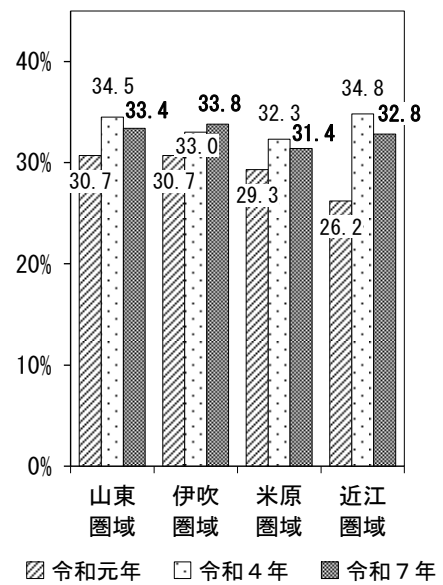
性・年齢別にみると、男性は30%前後で推移し、女性は年齢が高くなるにしたがい上昇する傾向にあります。圏域別では大きな開きはありません。

図表4-84 うつ傾向の高齢者（性・年齢別、圏域別）

①性・年齢別



②圏域別

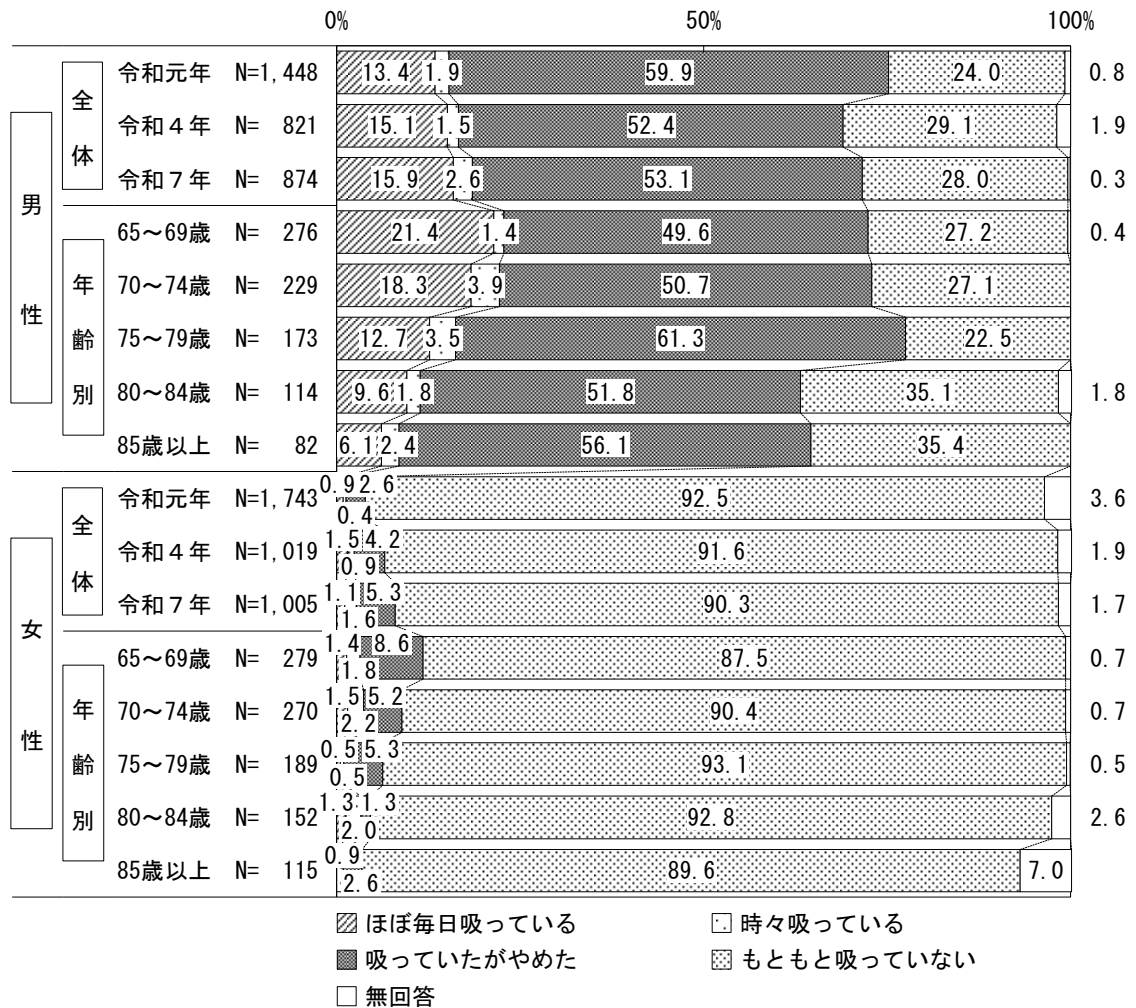


(11) 喫煙

喫煙は、男性では「吸っていたがやめた」が53.1%と高く、「ほぼ毎日吸っている」が15.9%、「時々吸っている」が2.6%です。年齢が高くなるにしたがい喫煙率は低下しています。

女性は男性に比べて喫煙率が低く、「ほぼ毎日吸っている」が1.1%、「時々吸っている」が1.6%となっています。

図表4-85 喫煙

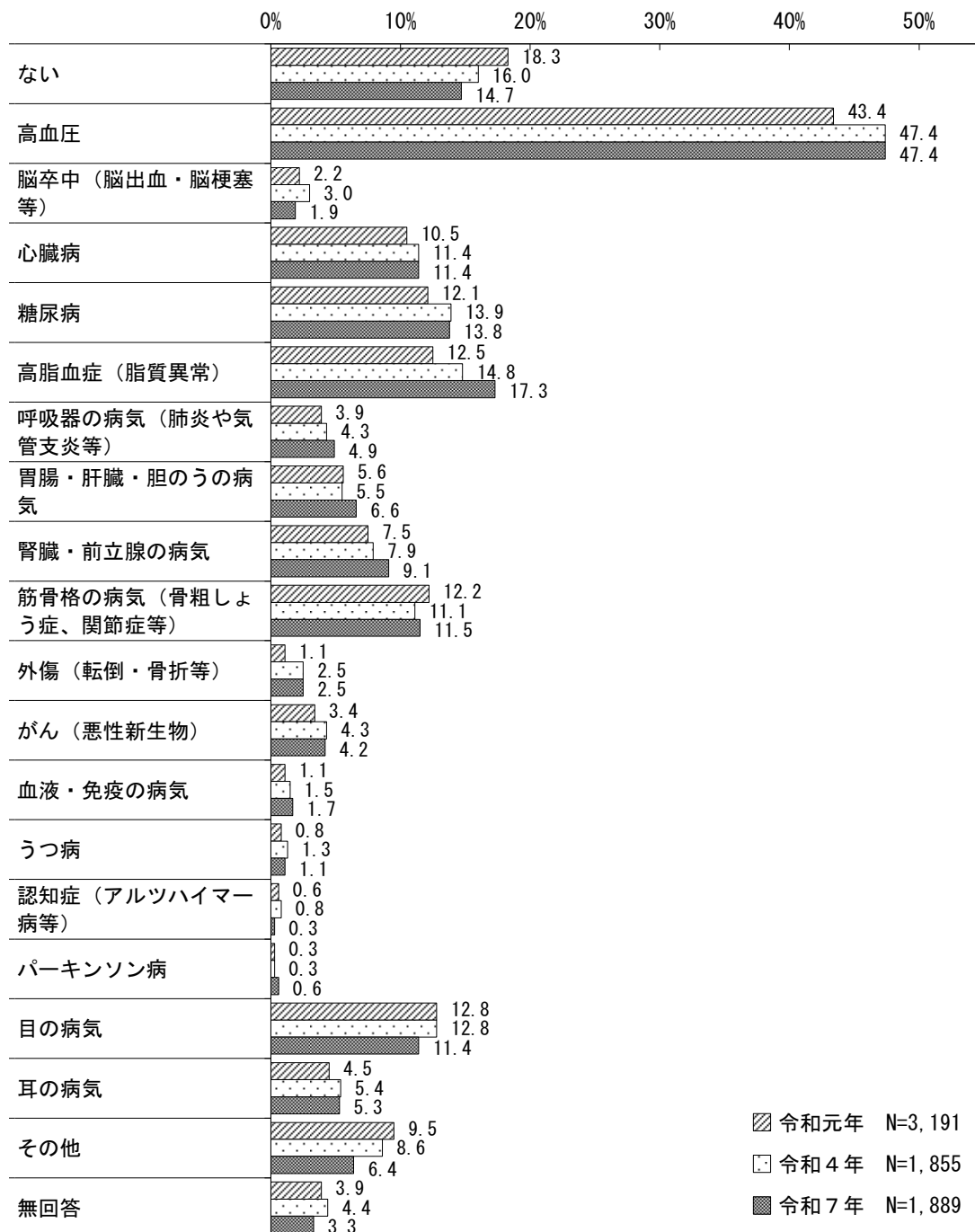


(12) 治療中または後遺症のある病気

「現在治療中、または後遺症のある病気はありますか」という設問では、「ない」(14.7%)と無回答(3.3%)の合計が18.0%となっており、これを除いた82.0%の人が何らかの病気があるということになります。

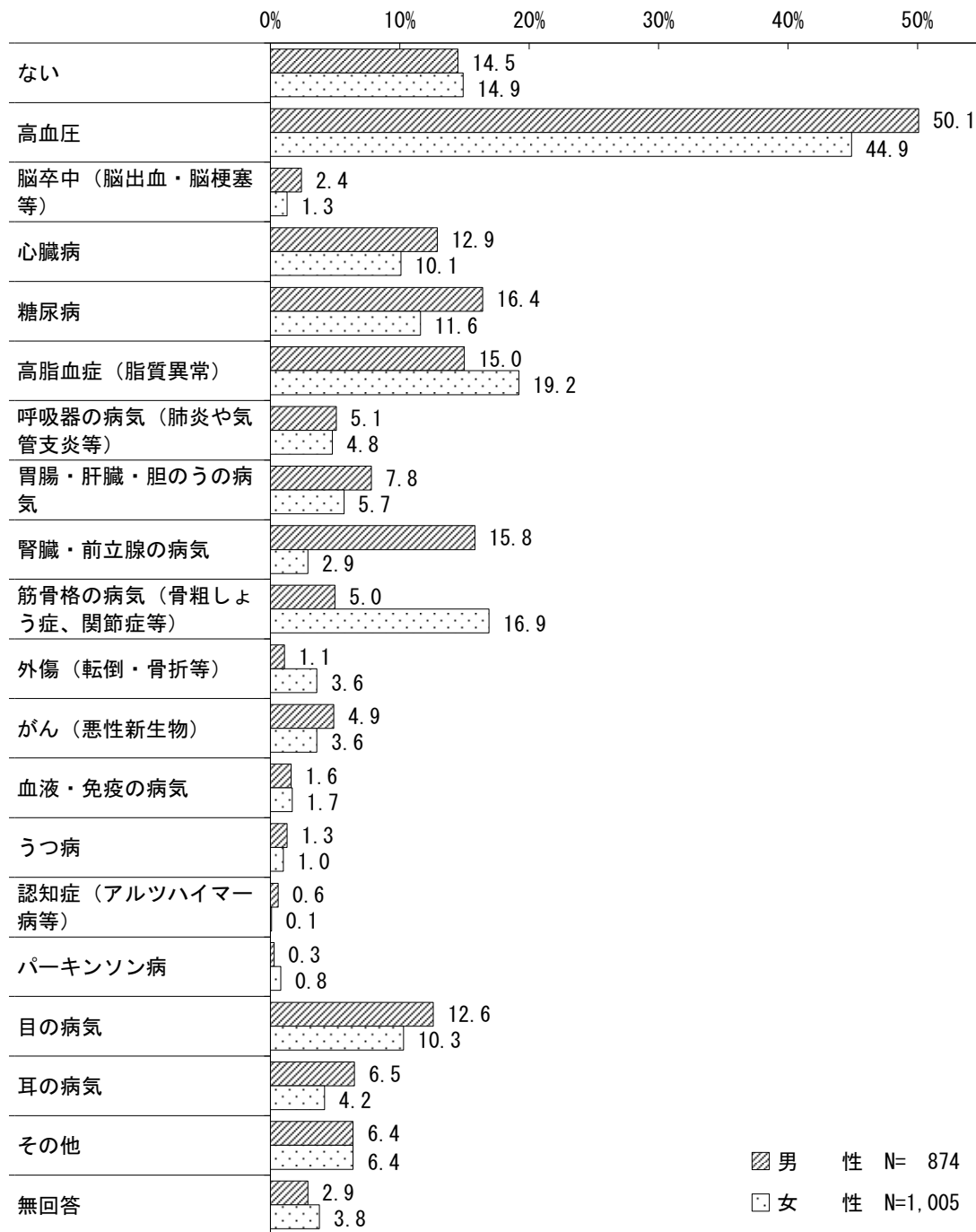
最も割合が高い病気は「高血圧」(47.4%)で、次いで「高脂血症」が17.3%、「糖尿病」が13.8%、「筋骨格の病気」が11.5%、「心臓病」および「目の病気」が11.4%などの順となっています。

図表4-86 治療中または後遺症のある病気(複数回答)



性別にみると、男女ともに「高血圧」が40%を超えており、そのほかは20%未満です。男性が女性より5ポイント以上高い病気は「高血圧」「腎臓・前立腺の病気」で、女性が男性より5ポイント以上高い病気は「筋骨格の病気」です。

図表4-87 治療中または後遺症のある病気（複数回答、性別）

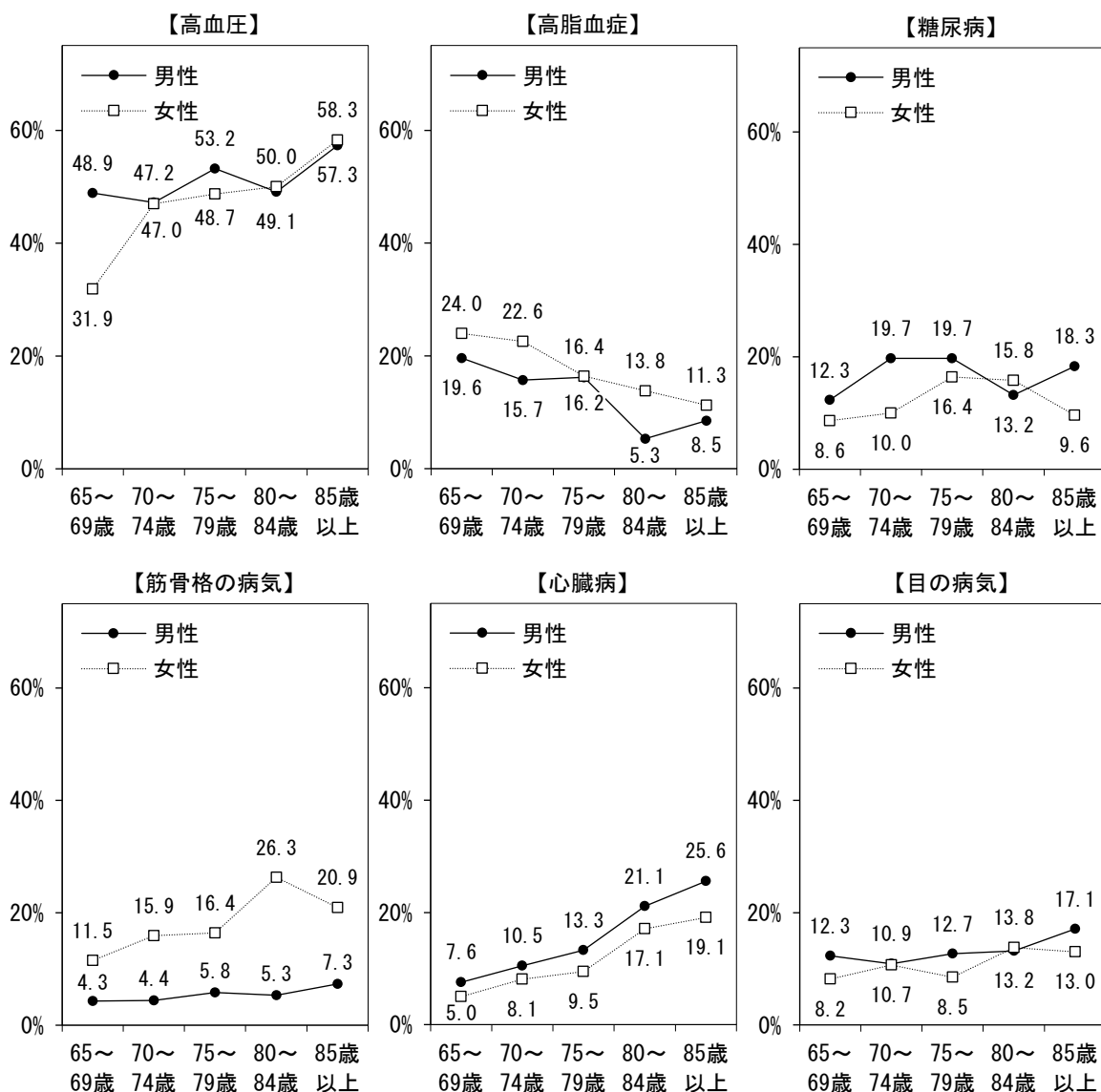


図表4-88は、割合の高い上位6つの病気について、性・年齢別にみたものです。

「高血圧」は、男性は75歳以上で50%以上を占めており、女性は70～74歳および85歳以上で上昇しています。「高脂血症」は、全般的に女性が高く、男女ともに年齢が上がるにつれて低下傾向にあります。「糖尿病」は、全般的に男性が高く、男性は70～74歳および75～79歳で、女性は75～79歳および80～84歳で高くなっています。「筋骨格の病気」は、全般的に女性が高く、男性はほぼ横ばいに推移し、女性は80～84歳が最も高くなっています。

「心臓病」は、全般的に男性が高く、男女ともに年齢が上がるにつれて上昇しています。「目の病気」は、全般的に男性が高く、男性は年齢が高くなるにしたがい緩やかに上昇する傾向にあります。

図表4-88 治療中または後遺症のある病気（複数回答、上位6疾患、性・年齢別）



「その他」として、図表4-89の内容が記載されていました。

図表4-89 治療中または後遺症のある病気（複数回答、「その他」）

○不整脈（4件）	○神経痛（2件）
○貧血（2件）	○ベーチェット病
○高尿酸血症（2件）	○筋痛症
○大動脈瘤	○頸椎損傷での後遺症で両腕の痺れ
○動脈瘤	○手の痺れ
○大動脈解離回復後の経過通院	○手術の副作用の痺れ
○脊髄梗塞	○腰痛（11件）
○甲状腺（6件）	○膝痛（3件）
○甲状腺機能低下症（2件）	○膝が少し悪い。転ばないように歩いている
○甲状腺機能亢進症	○首痛（2件）
○バセドウ病	○肩関節周囲炎
○橋本病	○肩痛のリハビリ
○甲状腺眼症	○座骨神経痛（2件）
○ギランバレー症候群の後遺症	○重症筋無力症（2件）
○全身性強皮症（膠原病）	○頸椎症（2件）
○アレルギー性鼻炎（6件）	○頸椎椎間板ヘルニア
○アレルギー性副鼻腔炎	○むち打ち症後遺症
○花粉症	○突発性脊椎側弯症
○植物アレルギー	○腰、左右の膝変形性関節症
○日光アレルギー	○6年前に後縦靭帯骨化症の手術をして、経過診察中
○湿疹（2件）	○上肢、手指の痛みが強い
○皮膚病（2件）	○肩こり、首・腕の痛みがあり整形に通っていますが、だいぶよくなってきました
○水疱性類天疱瘡	○子どもの時に事故で右足切断。義足の中で皮がむける
○帯状疱疹	○足の重だるさ、痛さのためリハビリ
○帯状疱疹の後遺症	○捻挫の後遺症
○アトピー	○歩行困難。力が出ない
○じんましん	○整形外科（2件）
○乳がんの経過通院	○歯科治療（7件）
○心房細動（2件）	○虫垂腫瘍
○循環器内科	○双極性障がい（2件）
○慢性膵炎（2件）	○心身症
○膵臓	○心療内科
○コロナにかかり、筋力が落ち体力が衰えた	○ストレスによるアレルギー
○褐色細胞腫	○不眠症（2件）
○尿路結石	○睡眠時無呼吸症候群
○結石	○コロナのワクチンの後遺症（2件）
○膀胱炎	○放射線治療による後遺症
○頻尿	○3か月ごとに歯科定期検診
○便秘	○今、治療中はありませんが、この頃耳が遠くなりました
○残尿で泌尿器科に3ヵ月通院しています	○口内炎
○大腸ポリープの切除手術	
○消化器内科	
○メニエール病	
○外耳道腫瘍	
○耳鼻科	

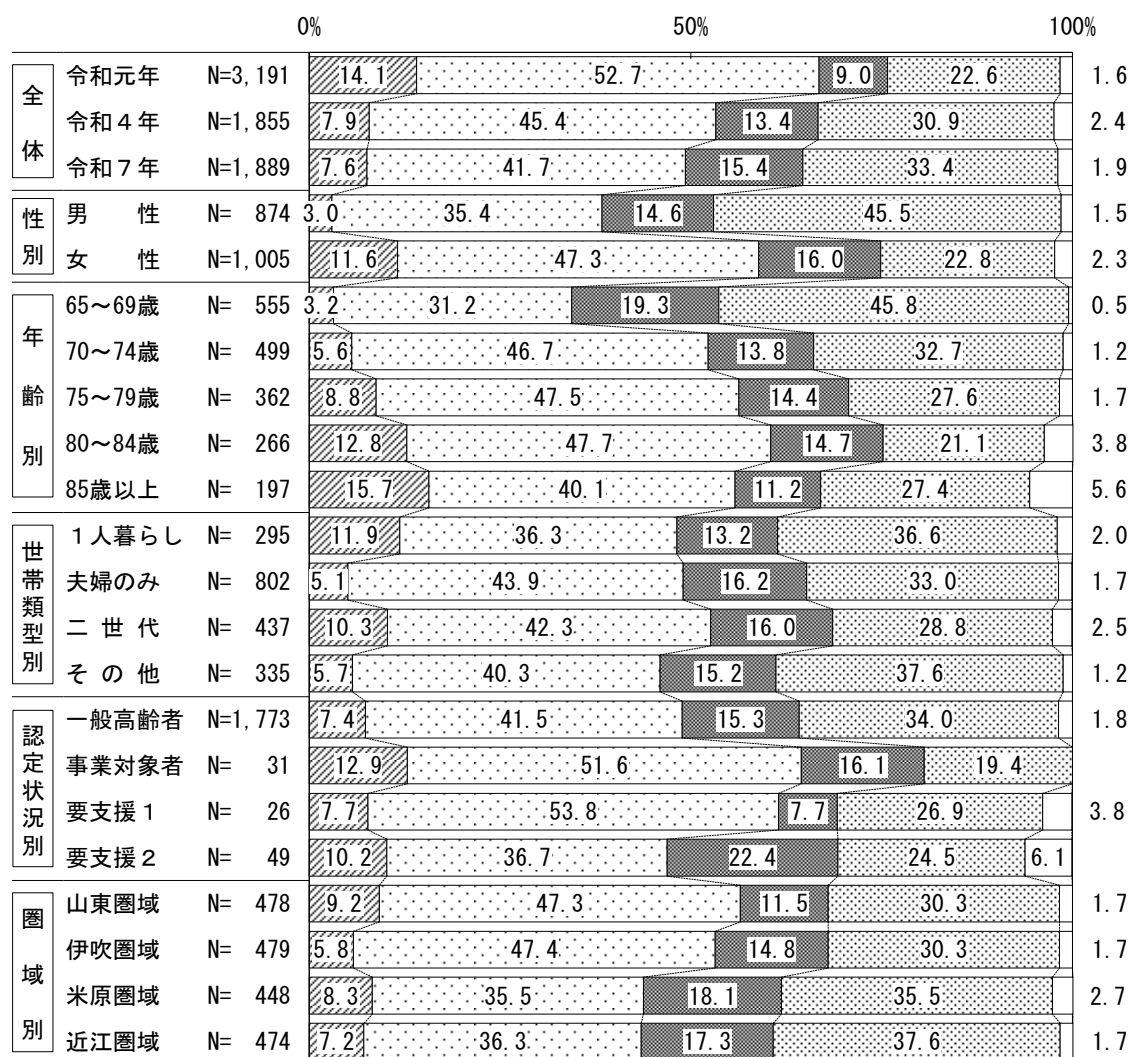
8 市の介護予防活動.....

(1) まいばら体操の認知度と実施意向

「市では、伊吹山テレビやDVD配布にて介護予防体操「まいばら体操」の啓発を実施していますが、「まいばら体操」をご存知ですか。または、体操をしたことはありますか」という設問では、「知っているが、実施していない」が41.7%と最も高く、これに「定期的実施している」(7.6%)を加えた《認知度》は49.3%です。「定期的実施している」と「知らないが、実施してみたい」(15.4%)を合計した《実施意向》は23.0%となっています。令和4年の調査結果と比べると、《認知度》が低下し、《実施意向》が上昇しています。

《実施意向》を属性別にみると、性別では女性、年齢別では80～84歳、世帯類型別では二世帯世帯、認定状況別では要支援2、圏域別では米原圏域で高くなっています。

図表4-90 まいばら体操の認知度と実施意向



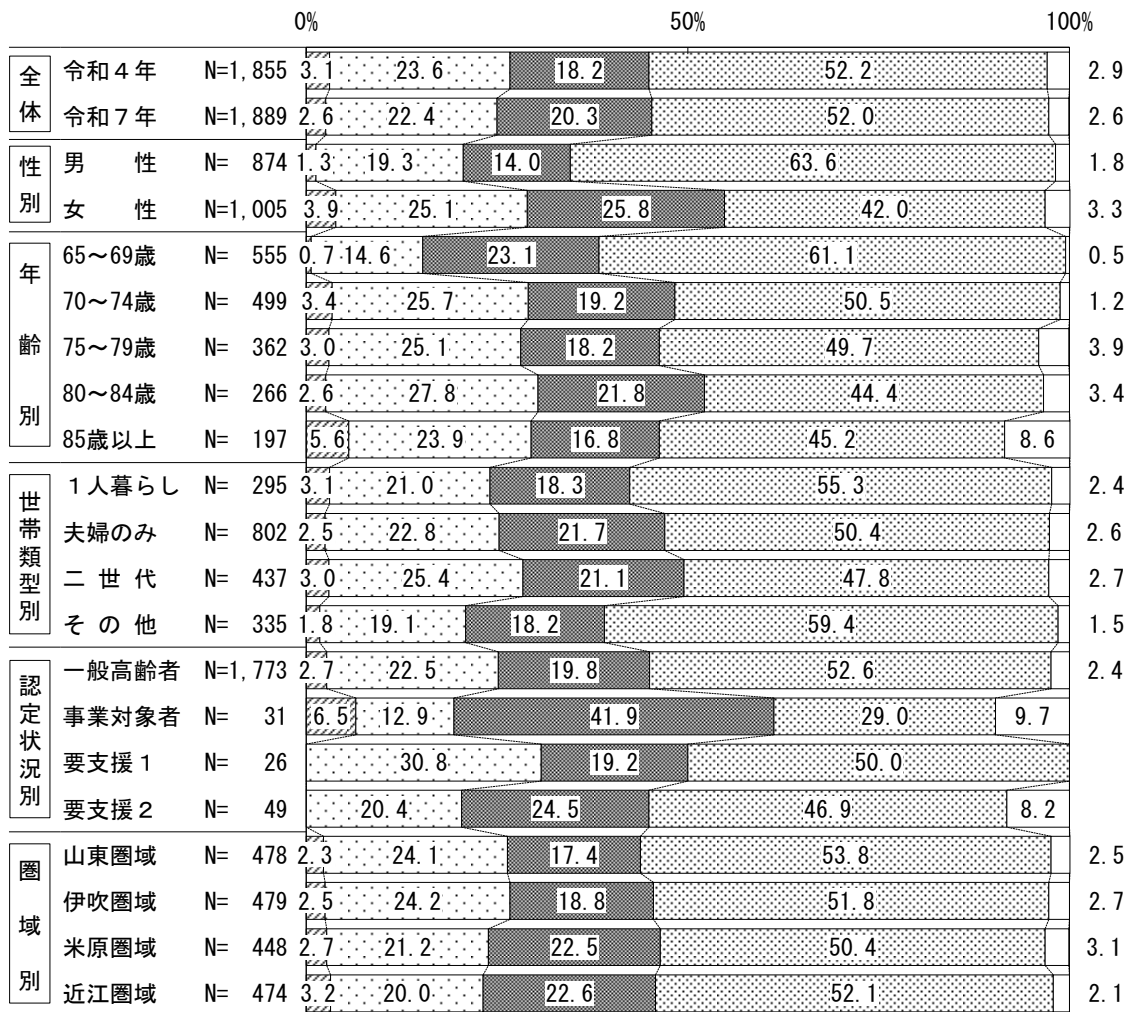
- ▨ 定期的実施している
- ▤ 知っているが、実施していない
- 知らないが、実施してみたい
- ▤ 知らないし、実施してみたいとは思わない
- 無回答

(2) なわとび体操の認知度と実施意向

「市では、出前講座等にて椅子に座ってできる「なわとび体操」の啓発を実施していますが、「なわとび体操」をご存じですか。または、体操をしたことはありますか」という設問では、「知らないし、実施してみたいとは思わない」が52.0%を占めています。「定期的に実施している」(2.6%)と「知っているが、実施していない」(22.4%)を合計した《認知度》は25.0%、「定期的に実施している」と「知らないが、実施してみたい」(20.3%)を合計した《実施意向》は22.9%です。令和4年の調査結果と比べると、(1)と同様に《認知度》が低下し、《実施意向》が上昇しています。

《実施意向》を属性別にみると、性別では女性、年齢別では65～69歳および80～84歳、世帯類型別では夫婦のみおよび二世帯世帯、認定状況別では事業対象者、圏域別では米原圏域および近江圏域で高くなっています。

図表4-91 なわとび体操の認知度と実施意向



- ▨ 定期的に実施している
- ▩ 知っているが、実施していない
- 知らないが、実施してみたい
- ▤ 知らないし、実施してみたいとは思わない
- 無回答

(3) 介護予防活動への助成制度の認知度と利用意向

「市では、介護予防活動を推進するため運動や趣味活動等を実施している団体に対し、施設利用料を助成する制度を設けていますが、ご存じですか」という設問では、「知らないし、利用したいとは思わない」が51.8%を占めています。「利用している」(4.1%)と「知っているが、利用していない」(21.1%)を合計した《認知度》は25.2%、「利用している」と「知らないが、利用してみたい」(19.2%)を合計した《利用意向》は23.3%です。令和4年の調査結果と比べると、《認知度》が低下し、《利用意向》はほぼ同様の結果です。

《利用意向》を属性別にみると、性別では女性、年齢別では65～69歳および80～84歳、世帯類型別では二世帯世帯、認定状況別では事業対象者、圏域別では米原圏域および近江圏域で高くなっています。

図表4-92 介護予防活動への助成制度の認知度と利用意向



9 人生の最期（看取り）

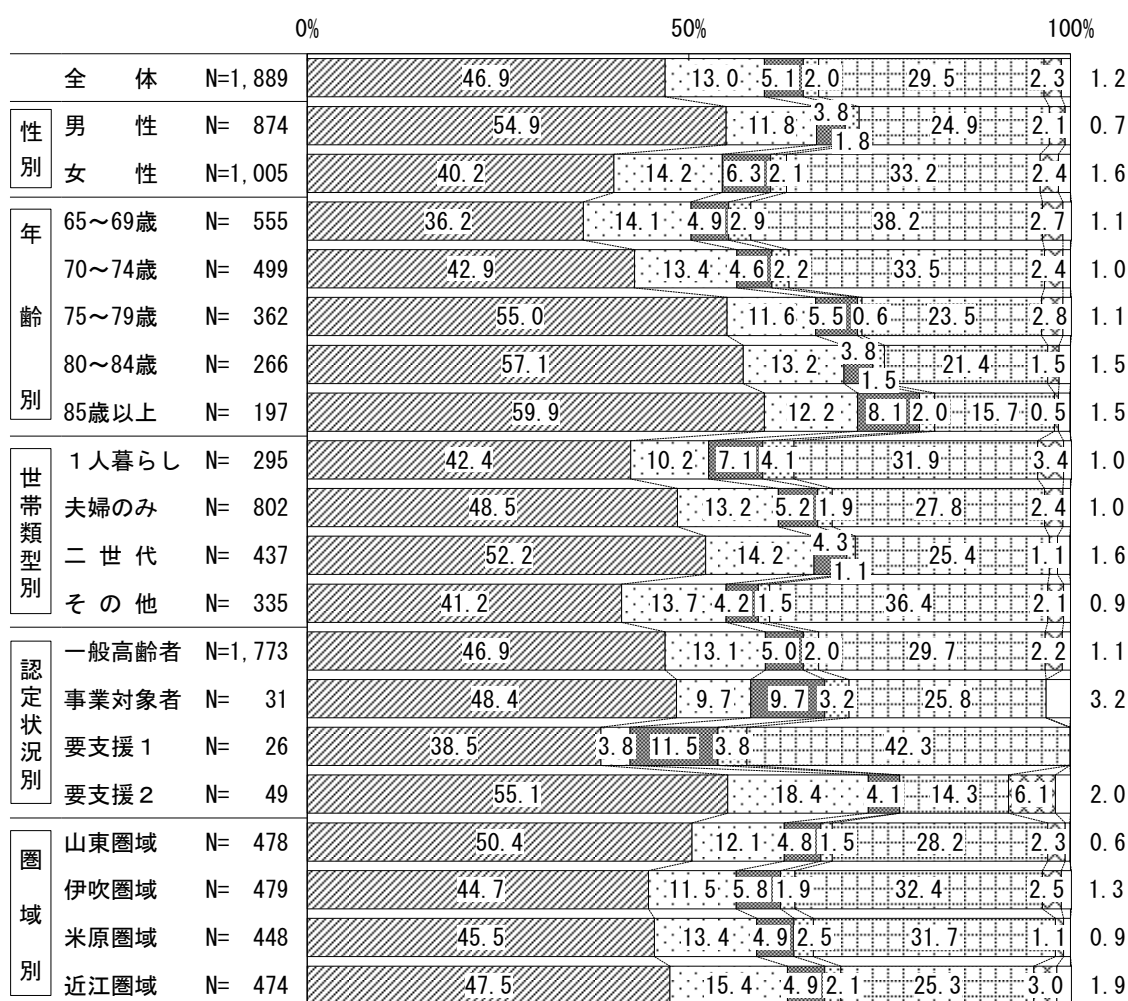
(1) 人生の最期をどこで迎えたいか

人生の最期（看取り）をどこで迎えたいかをたずねたところ、「自宅」が46.9%と最も高くなっています。「病院などの医療施設」は13.0%、「老人保健施設、特別養護老人ホームなどの介護保険施設」は5.1%、「有料老人ホーム、サービス付き高齢者住宅など」は2.0%です。

性別にみると、男性は女性に比べ「自宅」が、女性は男性に比べ「わからない」が高くなっています。

年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「自宅」が上昇しています。

図表4-93 人生の最期をどこで迎えたいか



- ▨ 自宅
- ▤ 病院などの医療施設
- 老人保健施設、特別養護老人ホームなどの介護保険施設
- ▩ 有料老人ホーム、サービス付き高齢者住宅など
- ▨ わからない
- ⊠ その他
- 無回答

「その他」として、図表4-94の内容が記載されていました。

図表4-94 人生の最期をどこで迎えたいか（「その他」）

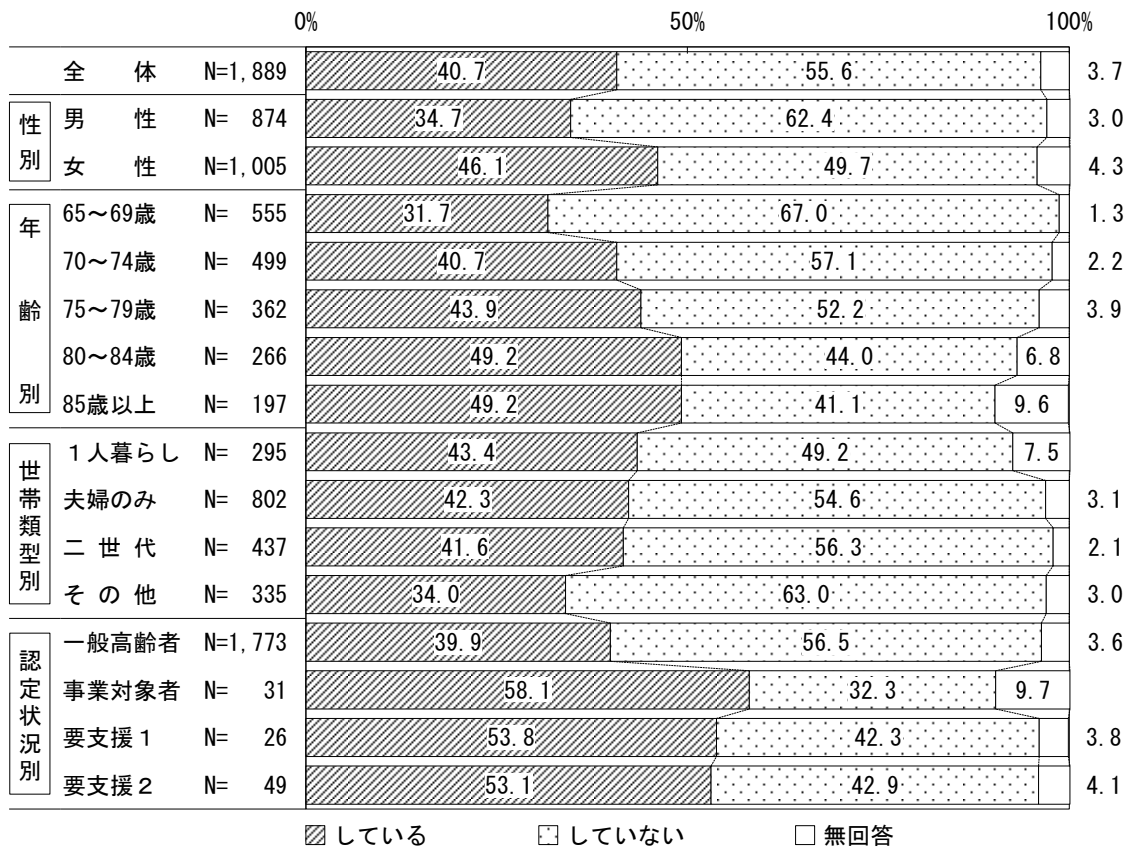
- どこでもよい（7件）
- その時の状況による（6件）
- その時の自分の状態次第（4件）
- 地震や配偶者の今後の状況により変わるため、選択できない
- 特に希望はない。その時点で適した場所
- 病気の種類による
- 考えたことがない（4件）
- まだ考えられない（2件）
- 考えたくない
- 今現在、夫婦とも大病や入院等なく、毎日過ごしているのであまり深く考えていませんでした。少し反省します
- 自宅にいて、もう駄目だと思った時は病院へ
- 病気なら病院、老衰なら自宅
- 自宅で最期を迎えたいが、家族に迷惑をかけたくはない
- 子どもたちの迷惑や負担にならない方法
- 友人
- ぼっくりと
- おまかせ
- 最期はいつ訪れるかわからないので選べない
- わからない、未定（2件）
- 1人暮らしだから、わからない
- I don't know about my future（訳：未来のことはわからない）

(2) もしもの場合に備えた話し合い

「あなたは、ご自身にもしものことがあった場合のことを考えて、日頃から大切な人や支援者と話し合っていますか」という設問では、「している」が40.7%、「していない」が55.6%となっています。

「している」を属性別にみると、性別では女性が男性に比べ11.4ポイント高く、年齢別では80歳未満では年齢が高くなるにしたがい上昇し、80歳以上では49.2%を占めています。また、世帯類型別ではその他の世帯で、認定状況別では一般高齢者で低くなっています。

図表4-95 もしもの場合に備えた話し合い

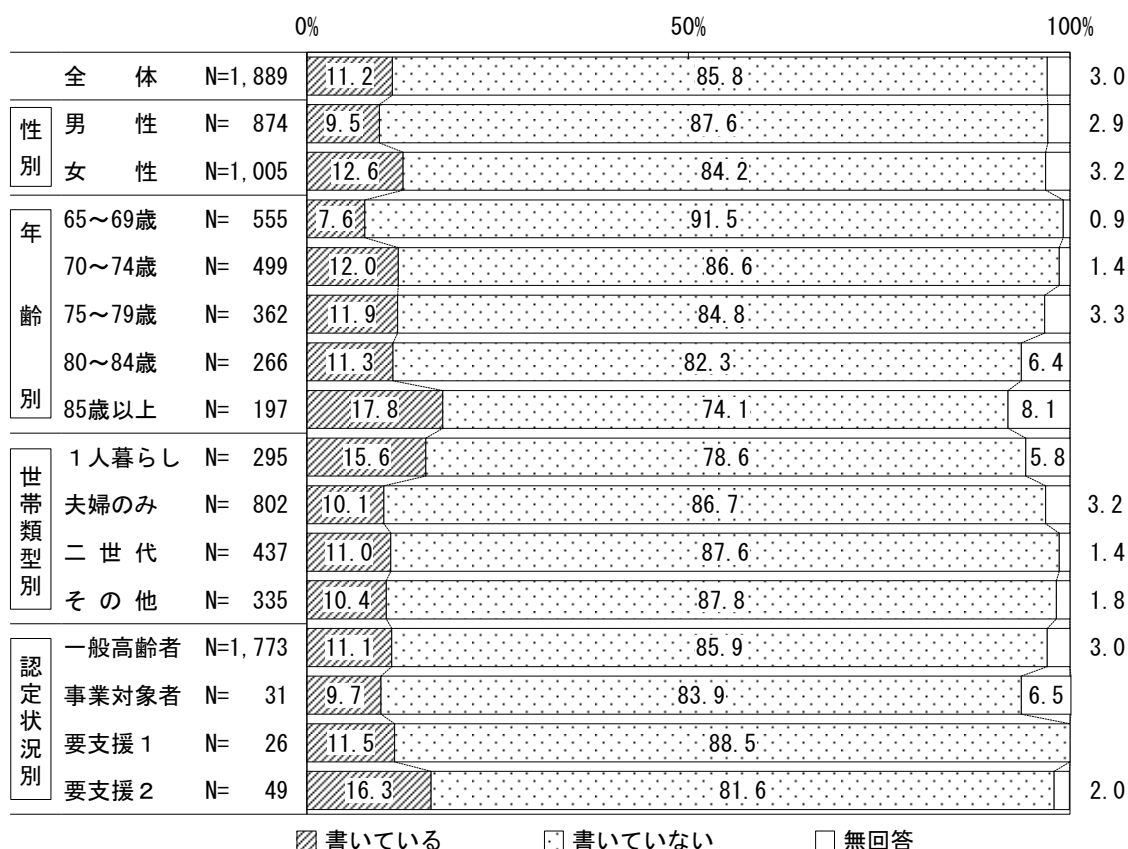


(3) もしもの場合に備えた書面の作成

「あなたは、もしものことがあった場合に備え、家族などの大切な人に伝えておきたいことを書面に残していますか」という設問では、「書いていない」が85.8%を占めており、「書いている」は11.2%です。

「書いている」を属性別にみると、性別では女性、年齢別では85歳以上、世帯類型別では1人暮らし、認定状況別では要支援2で高くなっています。

図表4-96 もしもの場合に備えた書面の作成



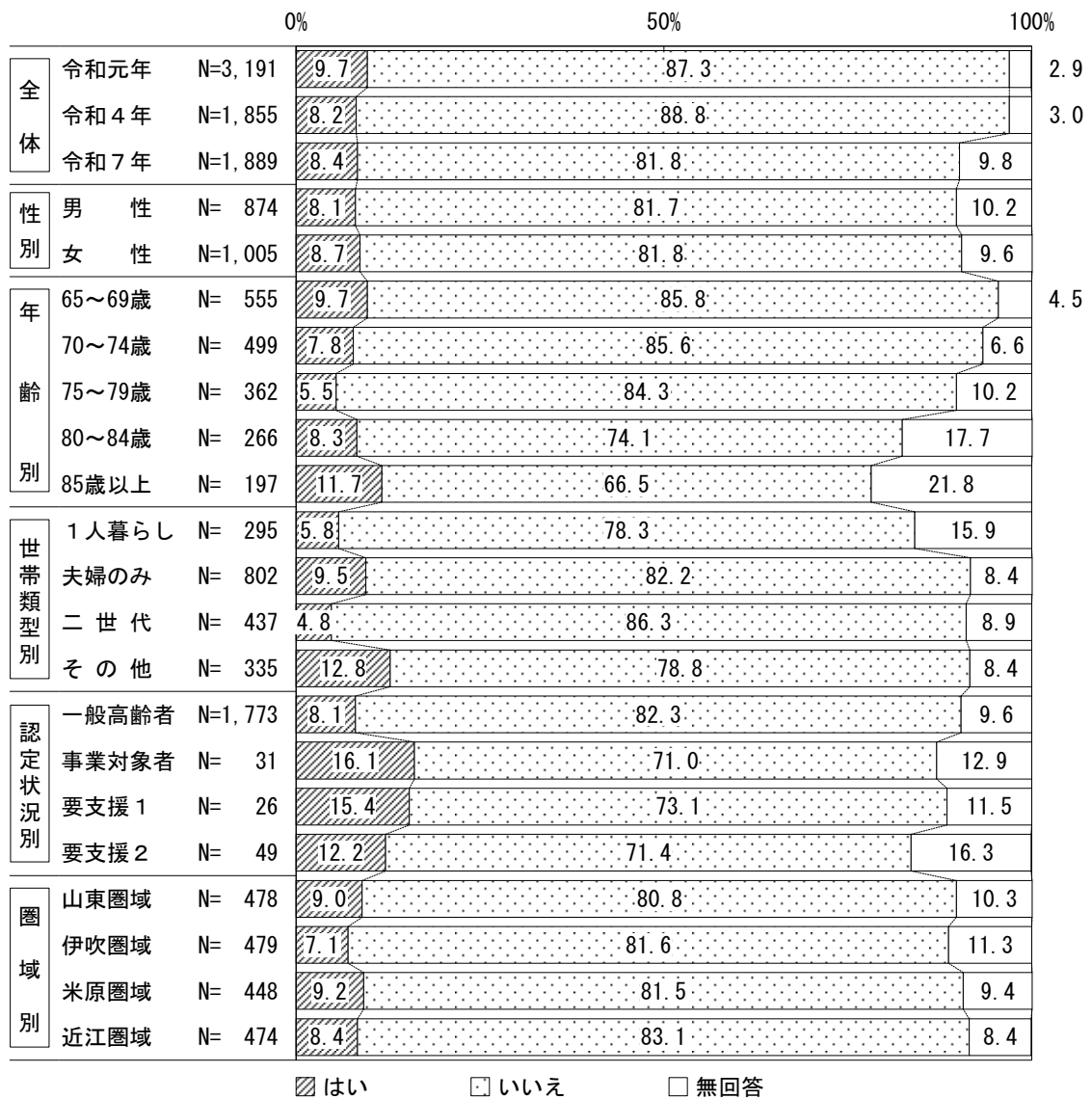
10 認知症.....

(1) 自分や家族に認知症の症状がある人がいるか

認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人がいるかたずねたところ、「はい（いる）」は8.4%です。

「はい」は、年齢別の85歳以上、世帯類型別のその他の世帯、認定状況別の事業対象者、要支援1・2で10%以上となっています。

図表4-97 自分や家族に認知症の症状がある人がいるか

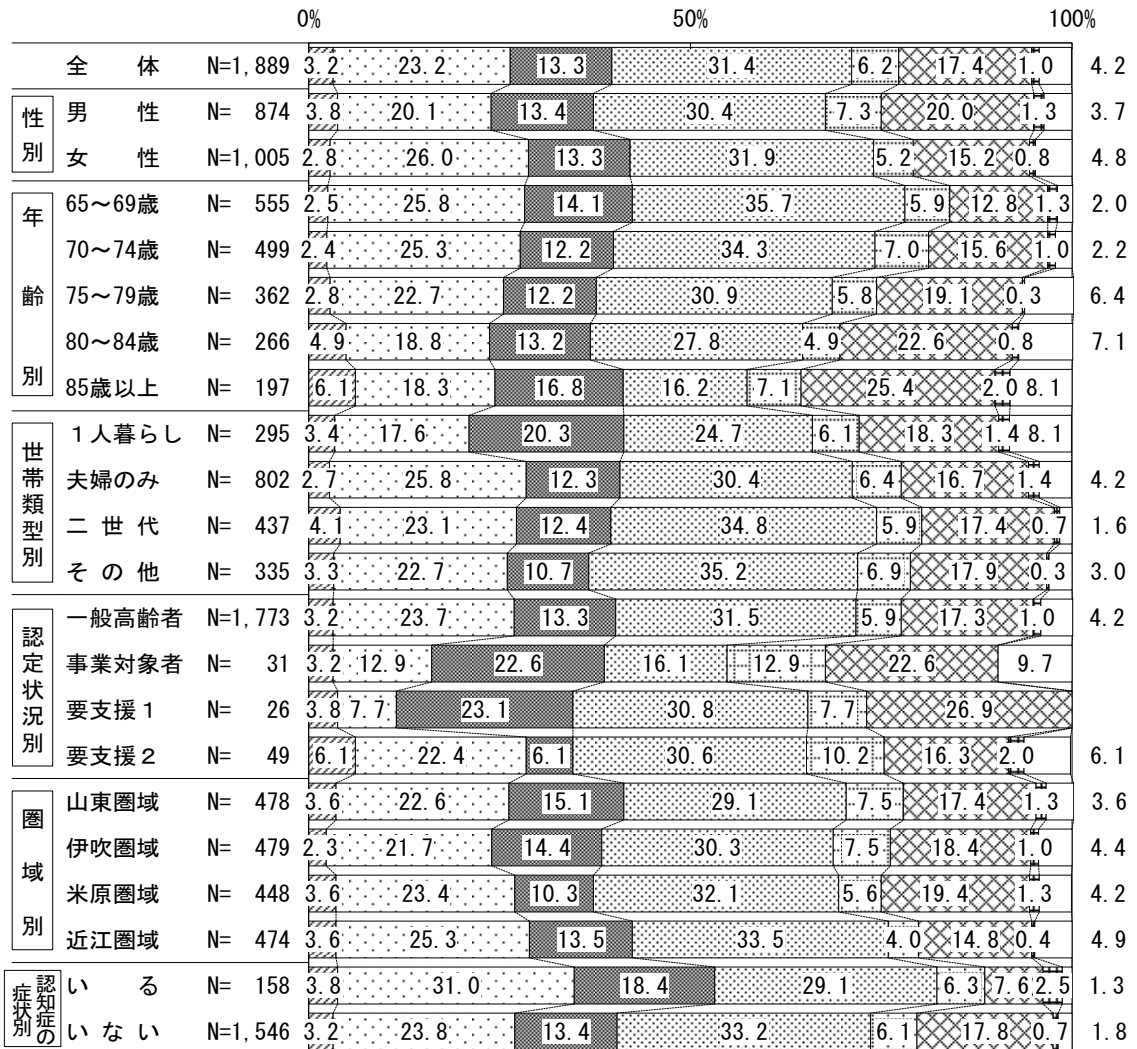


(2) 認知症のイメージ

認知症に対してどのようなイメージをもっているかたずねたところ、「認知症になると、周囲に迷惑をかけてしまうので、今までどおり生活できなくなる」が31.4%と最も高くなっています。「認知症になっても、自分の力で今までどおり生活できる」(3.2%)と「認知症になっても、色々な支援を受けながら今まで暮らしてきた地域で生活できる」(23.2%)の合計《今まで暮らしてきた地域で生活できる》は26.4%です。

自分や家族のうち認知症の症状がある人の有無別にみると、〈いる〉人は〈いない〉人と比べると《今まで暮らしてきた地域で生活できる》が7.8ポイント、「認知症になると、周囲に迷惑をかけてしまうので、介護施設に入る必要がある」が5ポイント高くなっています。

図表4-98 認知症のイメージ



- 認知症になっても、自分の力で今までどおり生活できる
- 認知症になっても、色々な支援を受けながら今まで暮らしてきた地域で生活できる
- 認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入る必要がある
- ▨ 認知症になると、周囲に迷惑をかけてしまうので、今までどおり生活できなくなる
- ▨ 認知症になると、症状が進行していき、何もできなくなってしまう
- ⊠ わからない
- ⊠ その他
- 無回答

「その他」として、図表4-99の内容が記載されていました。

図表4-99 認知症のイメージ（「その他」）

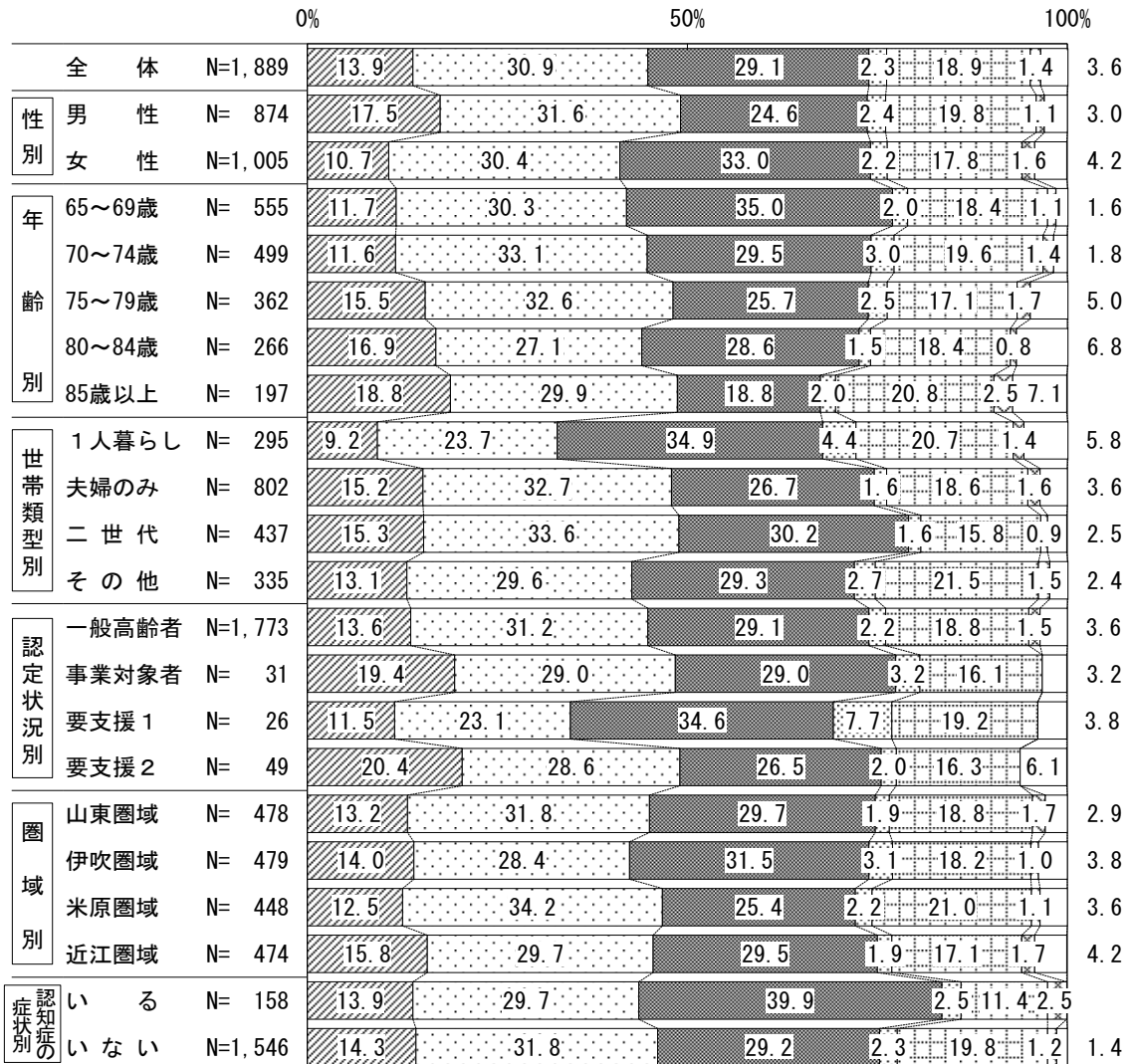
- ならないように予防に努めたい
- なりたくない
- 認知症に自分になるとは考えていない
- 困ります
- 進行を抑えることはできる。身近な人の支援が必要だと思う
- その時点で置かれた環境により変わると思う
- 症状の進行により異なる
- 認知症でも軽度の時は「認知症になっても、色々な支援を受けながら今までくらししてきた地域で生活できる」だが、進んでくると「認知症になると、周囲に迷惑をかけてしまうので、今までどおり生活できなくなる」
- 認知症の程度がわかりづらい
- 迷惑をかけたくないなので、すぐに最期を迎えたい
- 姉が10年間認知症なのでよく知っています
- 義母が認知症の入ったパーキンソン病でしたが、施設で2年程前に最期を迎えました
- 考えたことがない（3件）
- わからない
- 子ども

(3) 認知症になったらとしたらどのように暮らしたいか

もし認知症になったらとしたらどのように暮らしたいと思うかたずねたところ、「色々な支援を受けながら今まで暮らしてきた地域で生活したい」が30.9%と最も高く、「今と同じ地域で自分らしく生活していきたい」(13.9%) との合計《今まで暮らしてきた地域で生活したい》は44.8%となっています。「介護施設で必要なサポートを利用しながら暮らしたい」は29.1%です。

「介護施設で必要なサポートを利用しながら暮らしたい」は、性別の女性、年齢別の65～69歳、世帯類型別の1人暮らし、認定状況別の要支援1、自分や家族のうち認知症の症状がある人の有無別の〈いる〉人で高くなっています。

図表4-100 認知症になったらとしたらどのように暮らしたいか



- ▨ 今と同じ地域で自分らしく生活していきたい
- ▩ 色々な支援を受けながら今まで暮らしてきた地域で生活したい
- 介護施設で必要なサポートを利用しながら暮らしたい
- ▨ 誰にも迷惑をかけないよう、ひとりで暮らしていきたい
- ▩ わからない
- ▨ その他
- 無回答

「その他」として、図表４－１０１の内容が記載されていました。

図表４－１０１ 認知症になったとしたらどのように暮らしたいか（「その他」）

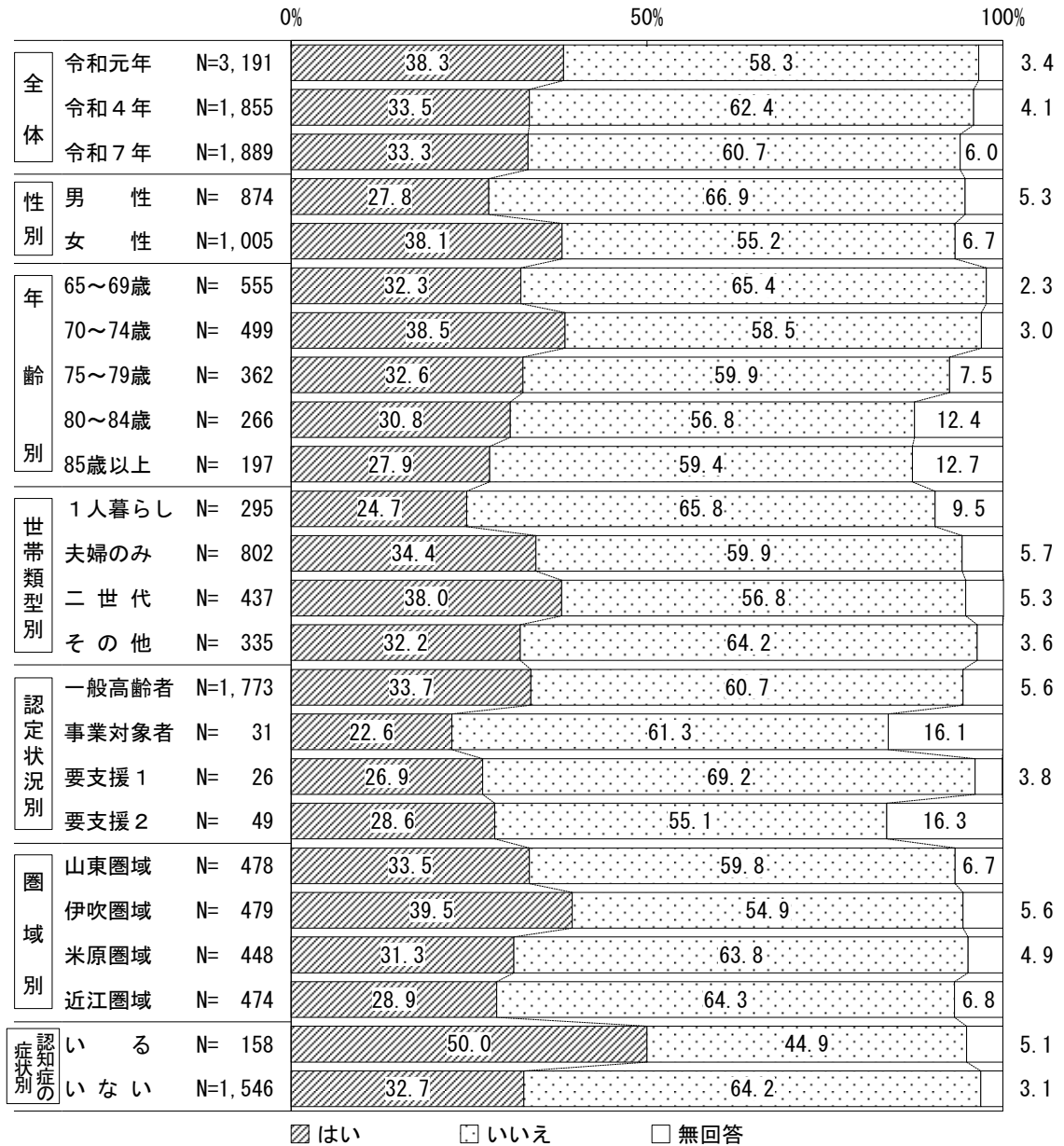
- 認知症の種類や程度による（３件）
- 認知症が軽度であれば「色々な支援を受けながら今まで暮らしてきた地域で生活したい」で暮らしたいし、家族に迷惑がかかるようであれば、家族の判断に任せたい
- 認知症の程度にもよると思うが、理想は「色々な支援を受けながら今まで暮らしてきた地域で生活したい」
- 家族に任せる
- 自分の子どもの判断に任せる
- 自分では認知症とわからないから、どうしようもない。周りの人に助けていただく
- 身内の環境次第
- できるなら家族と暮らしたい
- 他人に迷惑をかけられない
- 認知症になってもできることはしていきたい。どこでということにはこだわらない
- 主人の母を見てきましたので、気を付けて生活する努力をしています
- 認知症にならないようにみんなと話をします
- 認知症にならないように頭を使うこと
- 認知症になったら、判断や決断ができるうちに死にたい
- 自分なら死んだほうが良いと思う
- 迷惑をかけたくないので、早めに安楽死させてほしい
- 現在施設に入居中
- 考えたことがない

(4) 認知症に関する相談窓口を知っているか

認知症に関する相談窓口を知っているかたずねたところ、「はい」は33.3%となっており、令和4年の調査結果とほぼ同様の結果です。

「はい」は、世帯類型別の1人暮らし、認定状況別の事業対象者で25%以下の低い割合となっています。

図表4-102 認知症に関する相談窓口を知っているか



(5) 認知症の相談先

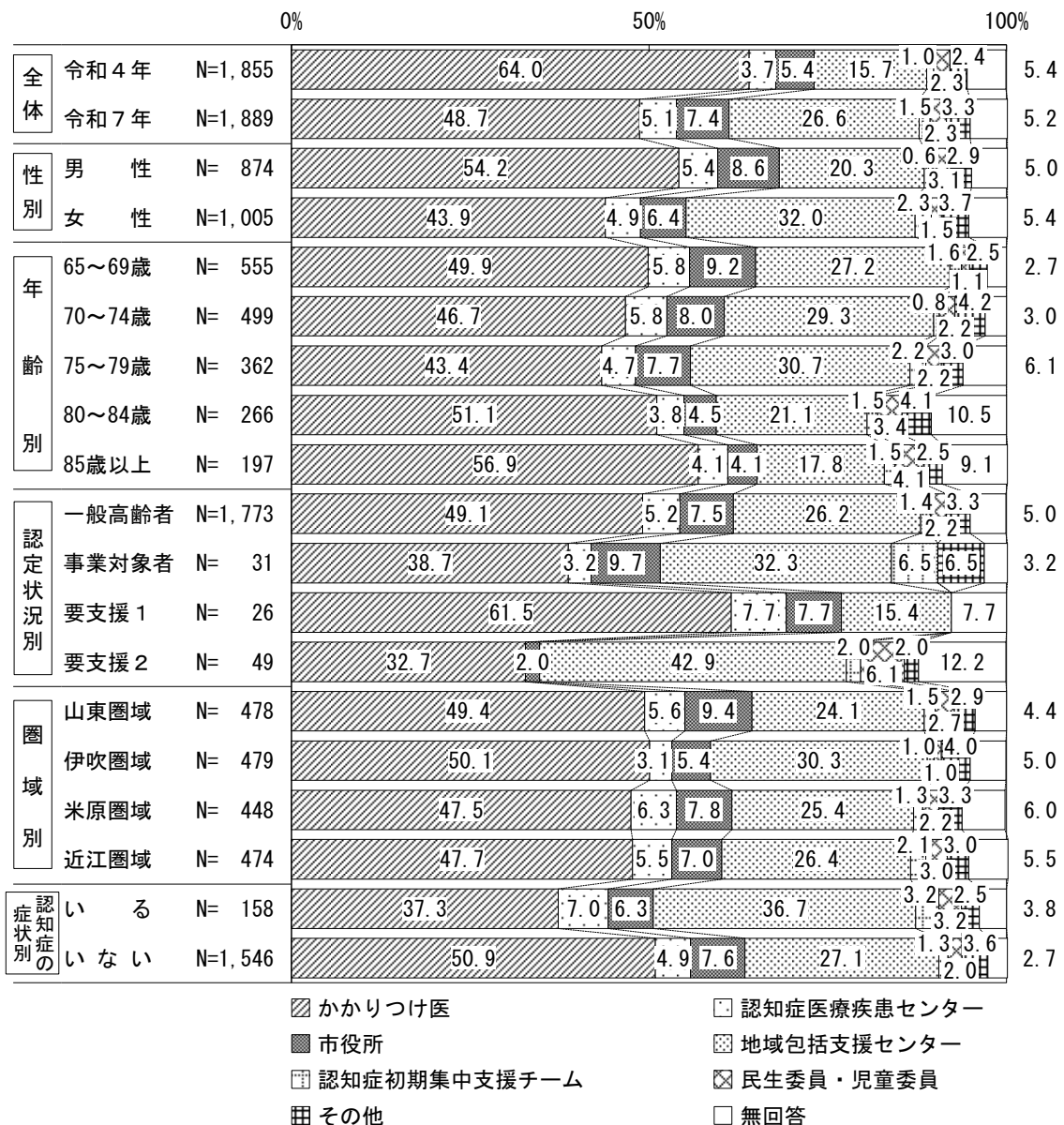
認知症の相談をどこにするかたずねたところ、「かかりつけ医」が48.7%と最も高く、次いで「地域包括支援センター」が26.6%、「市役所」が7.4%などの順となっています。令和4年の調査結果と比べると、「地域包括支援センター」が10.9ポイント上昇しています。

年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「地域包括支援センター」が上昇しますが、75～79歳をピークに80歳以上では低下に転じ、「かかりつけ医」が上昇しています。

認定状況別にみると、一般高齢者、事業対象者、要支援1は「かかりつけ医」が最も高く、特に要支援1では60%以上を占めています。要支援2は「地域包括支援センター」が高くなっています。

自分や家族のうち認知症の症状がある人の有無別にみると、〈いる〉人は〈いない〉人比べ「地域包括支援センター」が9.6ポイント高くなっています。

図表4-103 認知症の相談先



「その他」として、図表4-104の内容が記載されていました。

図表4-104 認知症の相談先（「その他」）

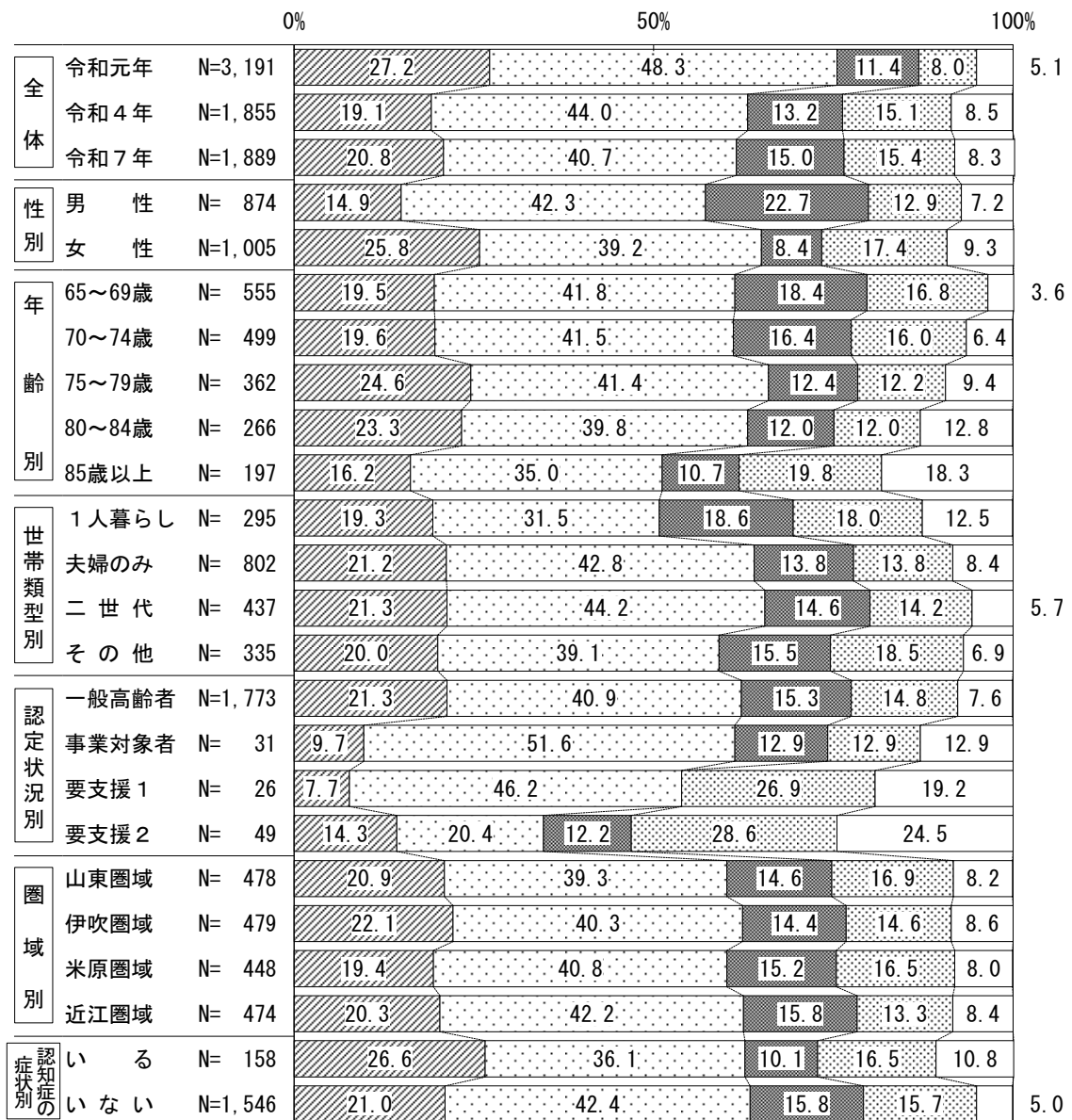
- わからない（25件）
- その時でないといけない
- 私がお聞きしたいです
- 認知症になったら相談することを知らないから、どこがよいかはわからない
- そんなことは考えない
- まだ考えたことがないです。日常プラス思考の考えです
- 子ども（8件）
- 家族（2件）
- 兄弟姉妹（2件）
- 夫
- 孫
- 親戚
- 病院
- 認知症医療疾患センター、地域包括支援センター、認知症初期集中支援チームという施設があるの
を知らなかった
- かからない

(6) 認知症の人との関わり方

「認知症の人が近所にいた場合、あなたはどう行動しますか」という設問では、「今後、勉強して力になりたい」が40.7%と最も高く、次いで「何かできることがあれば積極的に関わりたい」が20.8%などの順となっています。これらを合計した《関わりたい》は61.5%で、令和4年の調査結果と比べると1.6ポイント低下しています。

《関わりたい》は、性別の男性、年齢別の85歳以上、世帯類型別の1人暮らしおよびその他の世帯、認定状況別の要支援1・2で60%を下回っています。

図表4-105 認知症の人との関わり方



- 何かできることがあれば積極的に関わりたい
- 今後、勉強して力になりたい
- できるだけ関わりたいくない
- その他
- 無回答

「その他」として、図表4-106の内容が記載されていました。

図表4-106 認知症の人との関わり方（「その他」）

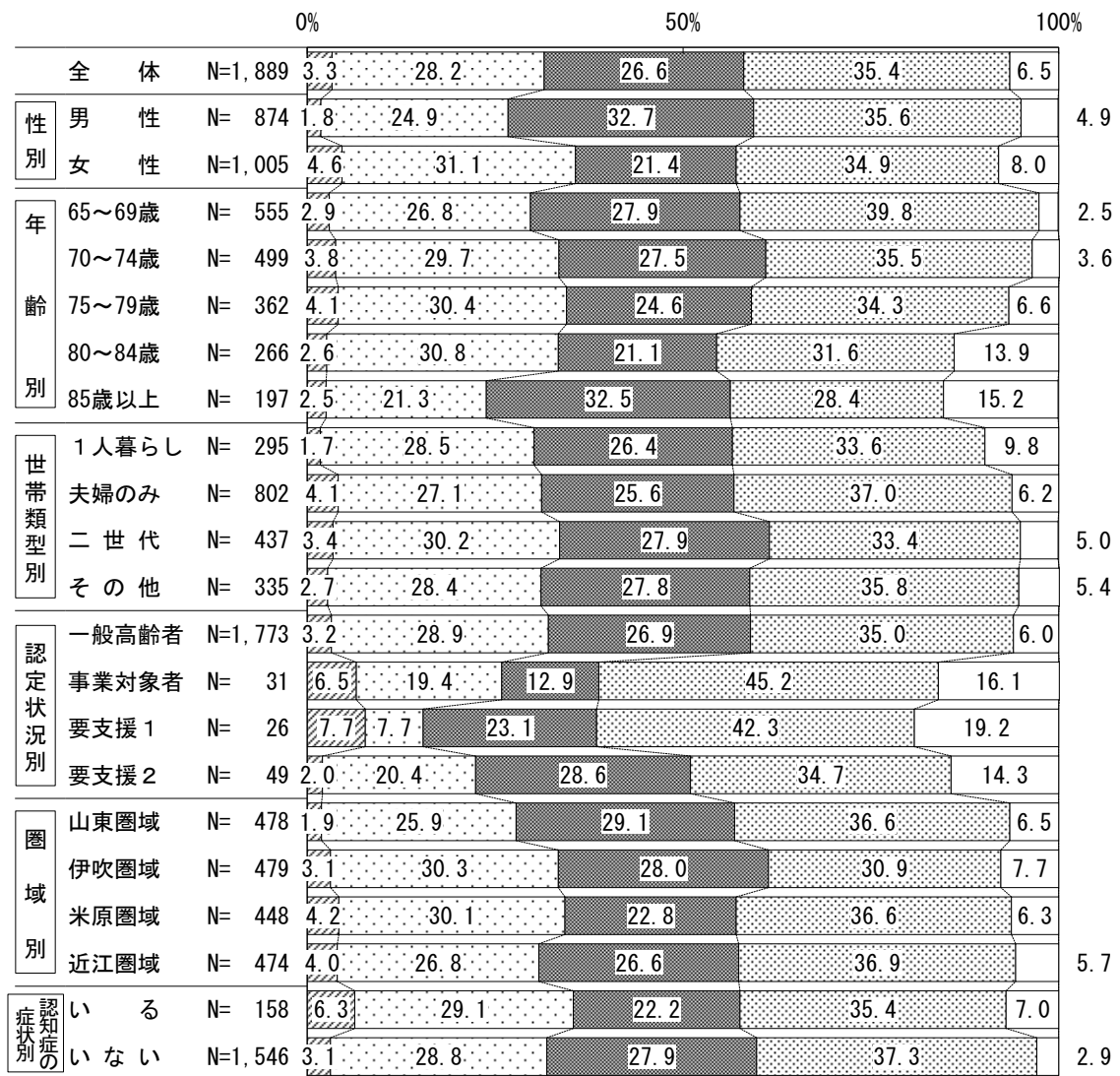
○できることがあれば関わりたい（13件）	○何ともいえない
○必要があれば関わる（6件）	○考えたことがありません
○依頼があれば助けたい（4件）	○対応方法がわからない
○何かあった時は協力する	○年を取ってわからない
○視野に入れば手伝う	○高齢のためできない（3件）
○時間があればサポートできる	○自分のことで精一杯（3件）
○積極的ではないが、助けたい	○身体が不自由なためできない（2件）
○相談があれば対応する	○関わりたいが自分に体力がない
○相談されたら、自分のできることは無理をしないで協力したい	○自分の体調では無理
○体力的に無理なくできそうなことなら力になりたい	○体力がないので関わりたくない
○できることがあれば関わりたいが、時間がない	○何かしたいと思っても、自分も障がいがあるの でわからない
○多少の協力	○関わり方がわからないので、その人がよくわか るまで関わらない
○程度により手伝えることはしたい	○学習不足
○何かできたらとは思いますが	○勝手には関われない
○協力はしたいが、反発されることもあるので	○1人では難しい
○できるだけ関わりたくないが、徘徊などで見か ければ対処はしたい	○仕事が忙しいため、なかなか関われない
○関わりたくないが、近くにいたら何とかと思う	○人の力になれることがない
○見守りたい（12件）	○何もしない
○今までどおりの付き合い（5件）	○判断が難しい
○そっとしてあげたい	○近所といえども、他人が関わることではない
○声かけをする	○人によって違うので関わりたくない
○その家族に寄り添うようにしたい	○選択肢の3つからは選べない
○その方の家族の意思を優先する	○出会ったり接する機会がないと思う
○関係機関につなぐ	○近所にいない
○地域の役員に連絡する	○すでに2人介護した
○わからない（45件）	○今暮らしているところでは認知症の方がいる ご家族がいるので、口は出さずに見守っている
○何もできない（4件）	○見守っている
○どうしたらいいかわからない（3件）	○変わりなく接している
○近所にいないのでわからない（3件）	○自分が不安になる
○その人との関係性による（2件）	○自分のことで心配かけないように心がけたい
○その方の状況、生活環境にもよると思うので何 ともいえない	○すべてにしつこく言われると疲れる
	○現在施設に入居中

(7) 認知症サポーター養成講座の受講意向

「認知症を正しく理解し、認知症の人やその家族等を温かく見守る「認知症サポーター」を養成する、認知症サポーター養成講座を受講したいと思いますか」という設問では、「認知症サポーターを知らなかった」が35.4%と最も高くなっています。「機会があれば受講したい」は28.2%、「受講したいと思わない」は26.6%、「すでに受講したことがある」は3.3%です。

「機会があれば受講したい」を属性別にみると、性別には女性が男性より高く、年齢別には70～74歳、75～79歳および80～84歳で30%程度となっています。また、世帯類型別では二世帯世帯、認定状況別では一般高齢者、圏域別では伊吹圏域および米原圏域で高くなっています。

図表4-107 認知症サポーター養成講座の受講意向



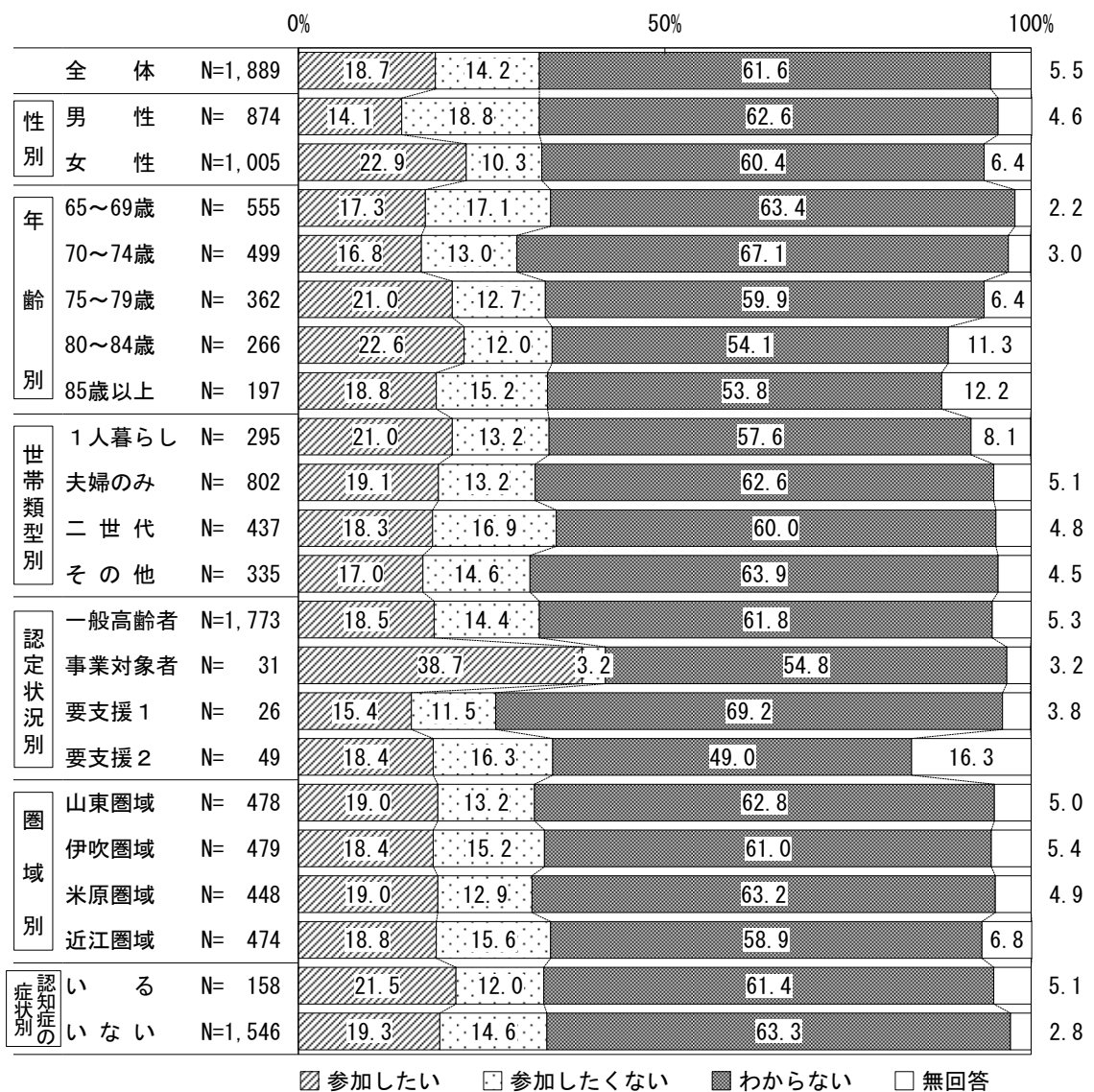
- ▨ すでに受講したことがある
- ▤ 機会があれば受講したい
- 受講したいと思わない
- ▩ 認知症サポーターを知らなかった
- 無回答

(8) 認知症の人を見守る活動の参加意向

市で検討している「認知症の人とそうではない人が一緒に趣味や得意なことをしながら、認知症の人を見守る活動」に参加したいと思うかたずねたところ、「参加したい」は18.7%となっています。

「参加したい」は、性別では女性が男性より高くなっています。また、年齢別では80～84歳、世帯類型別では1人暮らし、認定状況別では事業対象者が最も高く、特に事業対象者は38.7%の高い割合となっています。

図表4-108 認知症の人を見守る活動の参加意向

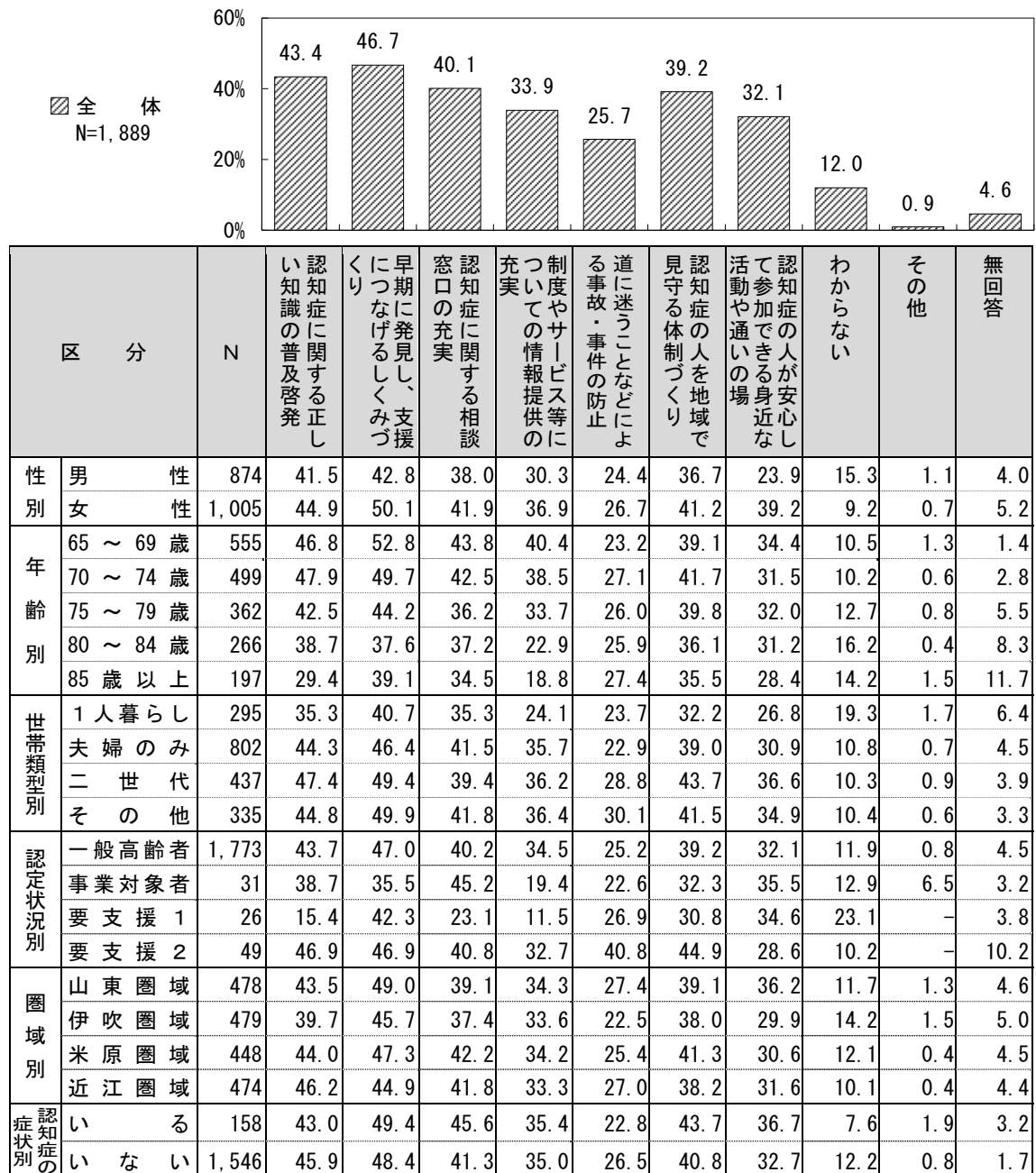


(9) 認知症の人が地域で自分らしく生活するために必要なこと

認知症の人が地域で自分らしく生活するために特に必要なことは何かたずねたところ、「早期に発見し、支援につなげるしくみづくり」が46.7%と最も高く、次いで「認知症に関する正しい知識の普及啓発」が43.4%、「認知症に関する相談窓口の充実」が40.1%、「認知症の人を地域で見守る体制づくり」が39.2%などの順となっています。

属性別にみると、年齢別の65～69歳、認定状況別の要支援1・2以外は上位4項目が高くなっています。要支援1は「認知症の人が安心して参加できる身近な活動や通いの場」が2番目に高くなっています。また、65～69歳は「制度やサービス等についての情報提供の充実」、要支援2は「道に迷うことなどによる事故・事件の防止」が40%を超えています。

図表4-109 認知症の人が地域で自分らしく生活するために必要なこと（複数回答） 単位：Nは人、他は%



「その他」として、図表4-110の内容が記載されていました。

図表4-110 認知症の人が地域で自分らしく生活するために必要なこと（複数回答、「その他」）

- 家族がいれば家族の支援、独居なら施設入所
- 経済的な支援の充実
- 症状をオープンにできる雰囲気
- 認知症になるまでに楽しい職場づくり
- 迷惑電話や農産物の無許可持ち帰りの廃止
- 認知症の程度によりそれに合った見守りをお願いします
- 家族がいれば温かく見守る
- 認知症を介護する人が休める場所。仲間づくりができ、語り合える場所があるといい
- 認知症への予防知識や初期対応の啓発、PR、教育（例：各字へ出前講座）
- 今以上の行政のフォロー
- 個人情報もあるので、相手の了解や理解が必要
- いずれ私も通る道なので、些細なことでも手を差し伸べたいです
- 本人は大腸がんを克服して、日常は免疫力を高める行動でがんばっています。よってこのようなマイナス思考のアンケートは複雑な気分となります

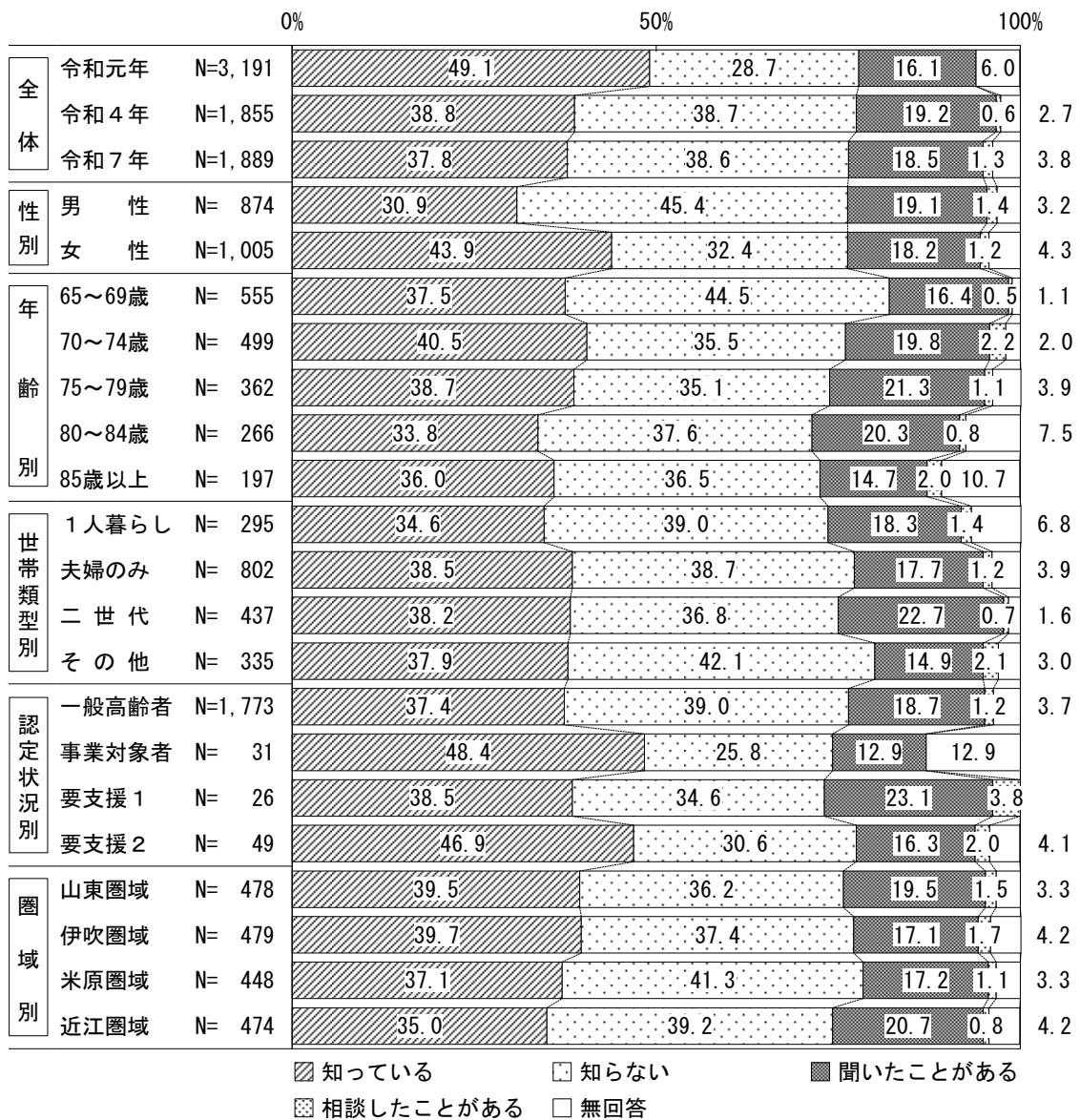
11 窓口相談.....

(1) 地域包括支援センターの認知度

地域包括支援センター（高齢者の相談窓口）を知っているかたずねたところ、「知っている」（37.8%）と「相談したことがある」（1.3%）を合計した《認知度》は39.1%です。

《認知度》は、性別の女性、認定状況別の事業対象者および要支援2で45%以上の比較的高い割合となっています。一方、「知らない」は、性別の男性、年齢別の65～69歳で45%程度と比較的高くなっています。

図表4-111 地域包括支援センターの認知度



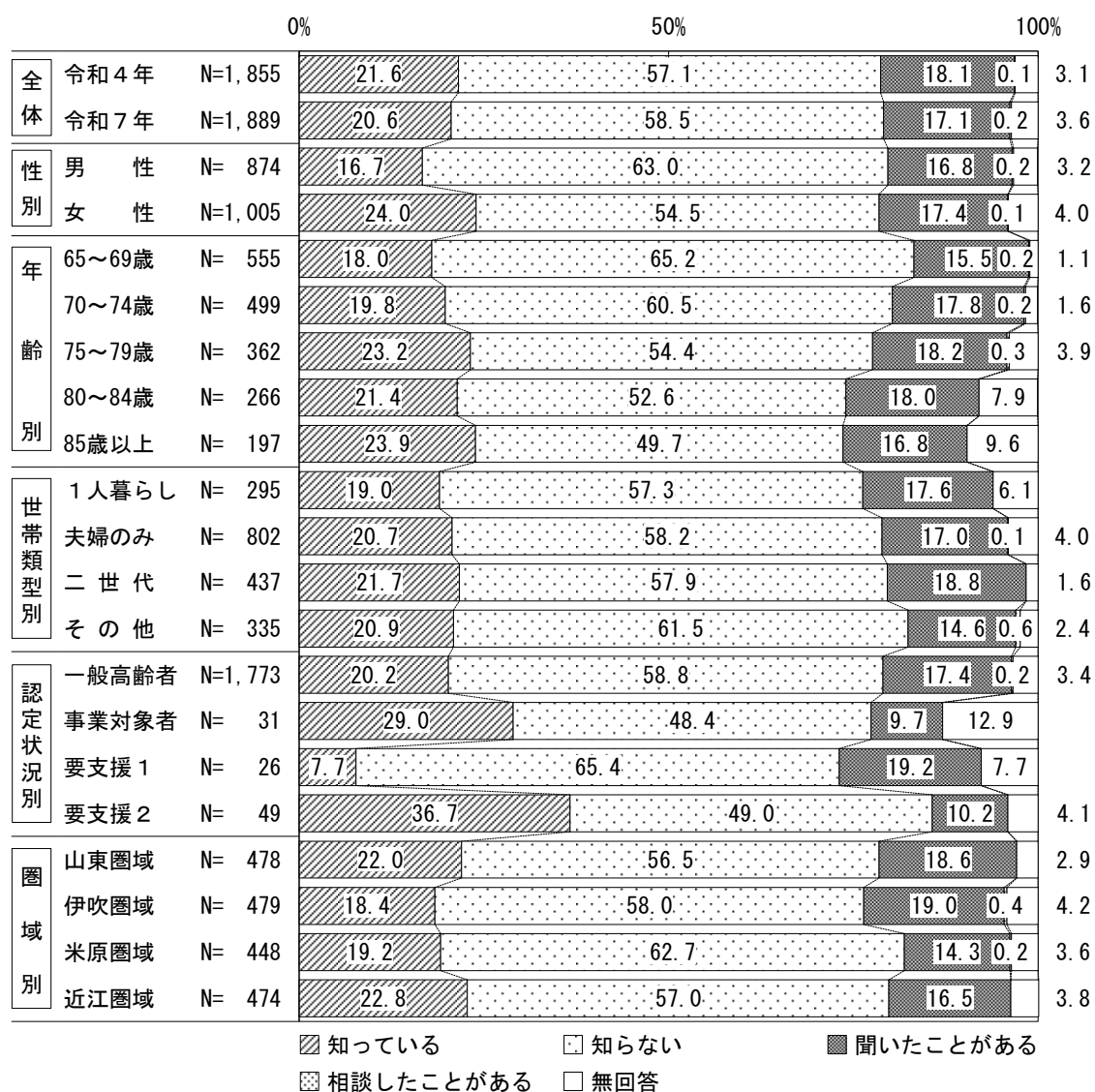
(注) 令和元年の調査では、「相談したことがある」という選択肢はありませんでした。

(2) 高齢者の虐待を地域包括支援センターに相談できることについての認知度

「高齢者の虐待を疑った場合、地域包括支援センターに相談できることを知っていますか」という設問では、「知らない」が58.5%を占めています。「知っている」(20.6%)と「相談したことがある」(0.2%)を合計した《認知度》は20.8%です。

《認知度》が高いのは認定状況別の事業対象者および要支援2で、25%を上回っています。一方、「知らない」が高いのは年齢別の65～69歳、認定状況別の要支援1で、65%を上回っています。

図表4-112 高齢者の虐待を地域包括支援センターに相談できることについての認知度



12 市の高齢者福祉事業.....

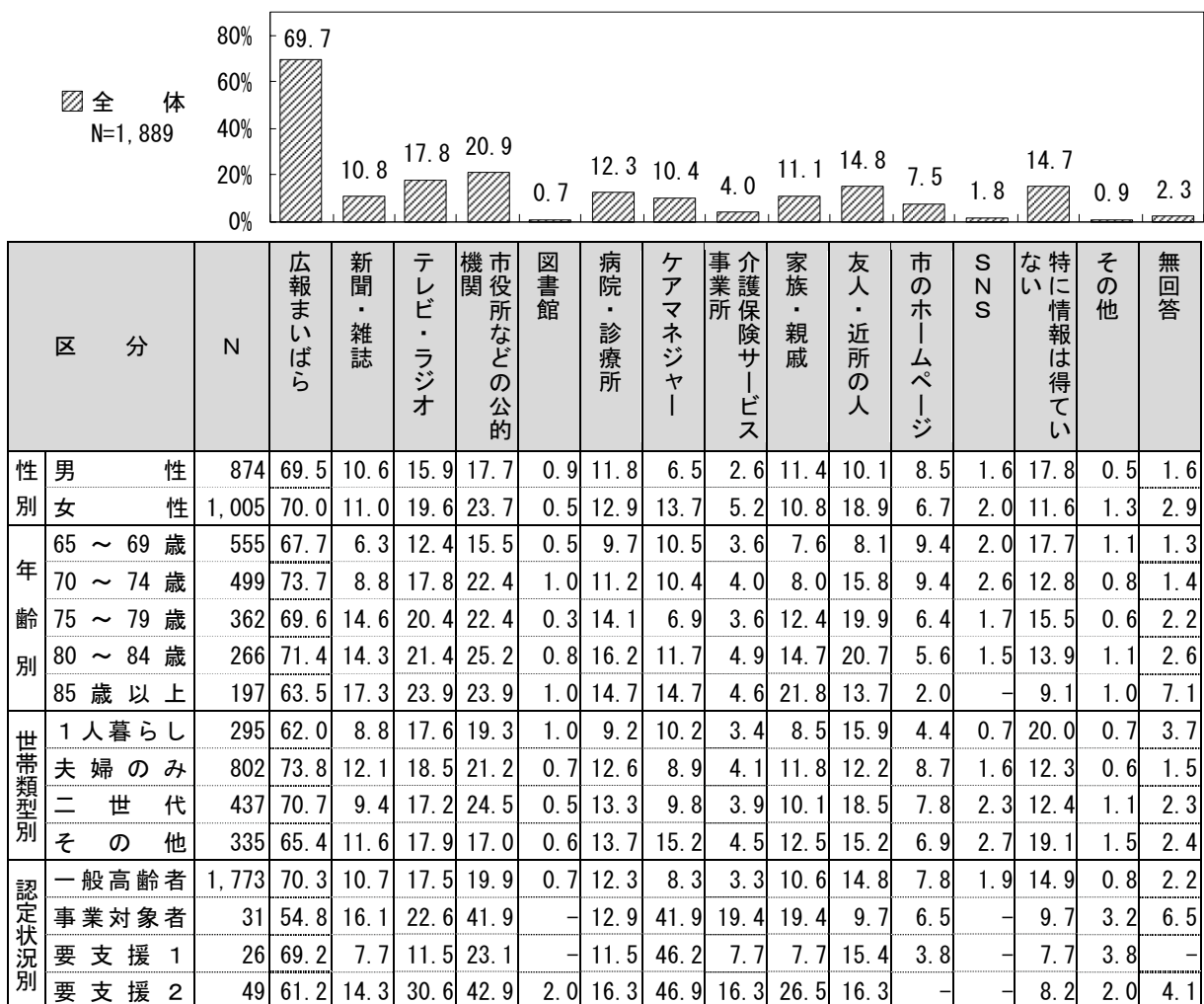
(1) 情報の取得手段

市の高齢者福祉サービスなどに関する情報を何から得ているかたずねたところ、「広報ま
いばら」が69.7%と突出して高く、次いで「市役所などの公的機関」が20.9%、「テレビ・
ラジオ」が17.8%などの順となっています。

属性別にみると、いずれも「広報まいばら」が最も高くなっていますが、認定状況別の事
業対象者、要支援1・2は「ケアマネジャー」も40%以上となっています。また、世帯類型
別の1人暮らしは「特に情報は得ていない」が20.0%の比較的高い割合となっています。

図表4-113 情報の取得手段（複数回答）

単位：Nは人、他は%



図表4-114 情報の取得手段（複数回答、「その他」）

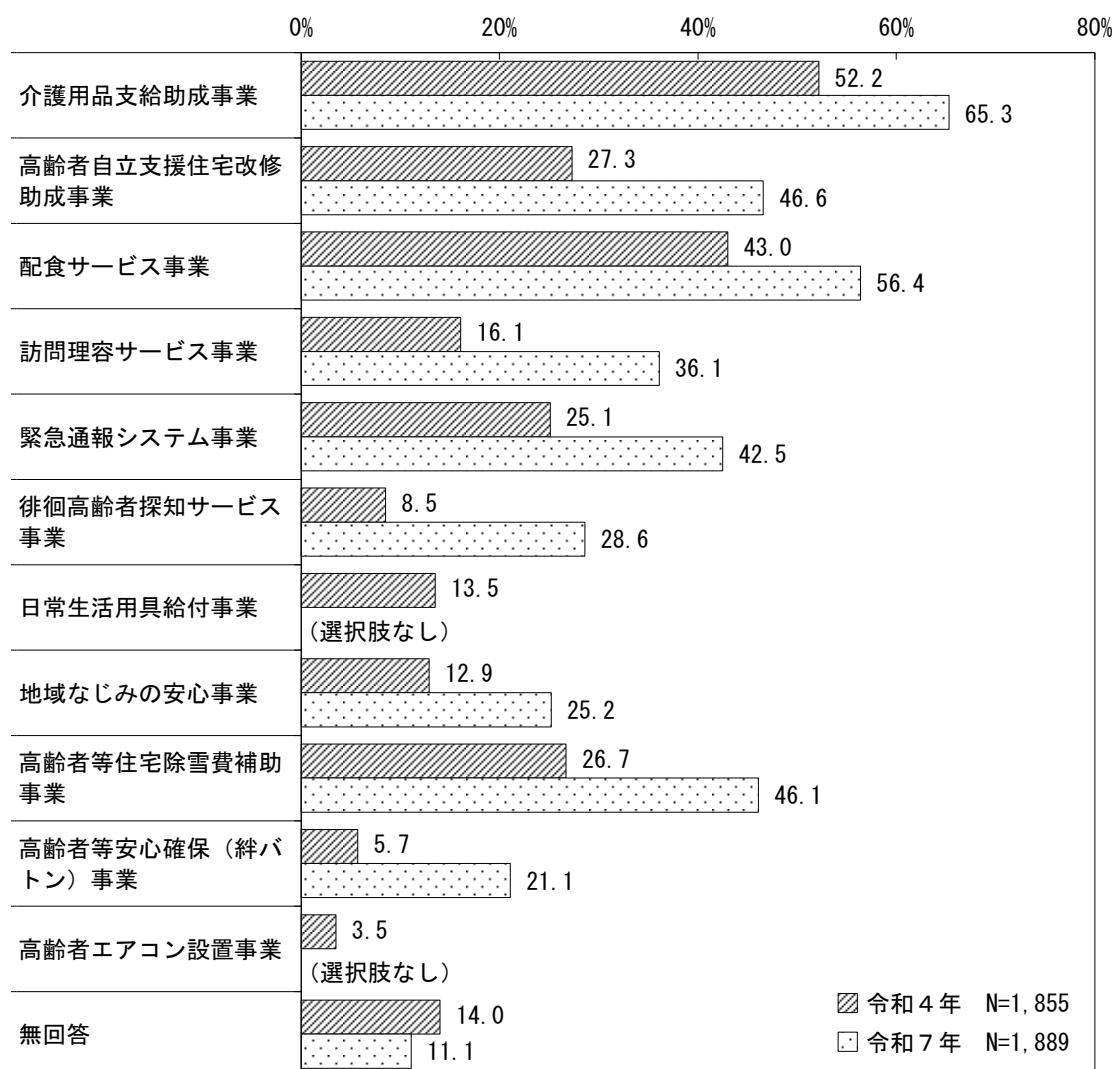
○地域お茶の間創造事業	○少し前に両親が亡くなった。その際サービスを利用して知っている
○働いている職場（介護施設）	○今回の調査により情報を得られたことがたくさんありました
○パソコン	○まだ直面していないので。知っておくべきとは思っている
○介護サービス相談員の活動をさせてもらっている、研修等で	○今のところ忙しく、情報等調べる時間がない
○民生委員児童委員の研修	○わからない
○現在参加している施設で見聞きして	
○義母の介護の時に色々学びました	

(2) 今後も必要な高齢者福祉サービス

市が実施している高齢者福祉サービスのうち、今後も必要だと思うものをたずねたところ、「介護用品支給助成事業」が65.3%と最も高く、次いで「配食サービス事業」が56.4%、「高齢者自立支援住宅改修助成事業」が46.6%、「高齢者等住宅除雪費補助事業」が46.1%、「緊急通報システム事業」が42.5%などの順となっています。

令和4年の調査結果と比べるとすべての項目で上昇していますが、これは選択できる項目数を3つまでとする制限をなくしたことによるものと考えられます。特に大きく上昇しているのは「訪問理容サービス事業」および「徘徊高齢者探知サービス事業」で、20ポイント以上高くなっています。

図表4-115 今後も必要な高齢者福祉サービス（複数回答）



属性別にみると、ほとんどの属性で上位5項目が高くなっています。そのほかでは、性別の女性、年齢別の65～69歳、認定状況別の要支援1の「訪問理容サービス事業」が40%以上の高い割合となっています。

図表4-116 今後も必要な高齢者福祉サービス（複数回答、属性別）

単位：Nは人、他は%

区 分		N	介護用品支給助成事業	高齢者自立支援住宅改修助成事業	配食サービス事業	訪問理容サービス事業	緊急通報システム事業	徘徊高齢者探知サービス事業	地域なじみの安心事業	高齢者等住宅除雪費補助事業	高齢者等安心確保（絆バトン）事業	無回答
性別	男性	874	63.8	45.5	53.0	31.2	40.6	25.4	21.9	42.2	18.3	10.5
	女性	1,005	66.5	47.4	59.3	40.0	43.7	31.0	27.8	49.4	23.1	11.6
年齢別	65～69歳	555	73.9	57.1	64.3	41.1	49.7	36.6	29.5	52.4	26.8	5.0
	70～74歳	499	66.3	48.3	61.5	37.3	44.5	29.1	24.8	48.9	20.6	8.6
	75～79歳	362	63.0	43.9	53.9	35.4	42.0	26.5	26.8	43.4	19.6	12.4
	80～84歳	266	59.4	36.5	47.4	27.8	32.7	21.1	18.8	39.5	14.7	15.8
	85歳以上	197	50.3	30.5	37.6	29.9	28.9	17.3	17.8	34.5	15.2	25.9
世帯類型別	1人暮らし	295	53.9	39.3	51.2	28.8	39.7	21.0	19.7	43.4	16.9	14.9
	夫婦のみ	802	66.7	48.1	59.9	36.9	43.9	31.0	24.8	48.6	20.7	10.0
	二世帯	437	69.3	50.1	55.4	39.1	41.2	30.9	31.6	42.6	24.5	11.2
	その他	335	67.8	46.3	55.5	37.6	44.5	27.2	23.3	48.1	21.8	9.0
認定状況別	一般高齢者	1,773	65.7	47.4	56.9	35.9	42.6	29.0	25.3	46.6	20.9	10.7
	事業対象者	31	58.1	22.6	48.4	22.6	35.5	19.4	16.1	35.5	16.1	19.4
	要支援1	26	57.7	34.6	42.3	50.0	34.6	19.2	26.9	34.6	19.2	19.2
	要支援2	49	59.2	36.7	49.0	38.8	38.8	16.3	20.4	36.7	24.5	16.3
圏域別	山東圏域	478	64.4	47.9	55.4	38.9	41.8	29.1	28.2	50.6	22.2	10.7
	伊吹圏域	479	62.4	47.0	54.7	32.4	42.4	23.4	20.7	52.0	19.2	12.9
	米原圏域	448	67.4	46.4	58.0	34.6	41.5	29.2	23.4	42.9	22.8	11.6
	近江圏域	474	66.9	44.7	57.4	37.8	43.2	32.1	27.6	38.4	19.4	9.3

(3) 現在実施していないが必要だと思う高齢者福祉サービス

現在実施していないが必要だと思う高齢者福祉サービスについてたずねた結果が図表4-117です。移動手段の確保や買い物支援に関する内容が多く記載されていました。

図表4-117 現在実施していないが必要だと思う高齢者福祉サービス

<p>【移動手段・移動支援】</p> <ul style="list-style-type: none">○買い物や通院等のための交通手段や移動支援（10件）○健常者に対する最寄りのスーパーまでの買い物支援サービス○市立病院の設立とそこに通う交通体系の充実○眼科が長浜市まで行かないとないので、送迎サービスがあるとよいと思います。市立長浜病院行き のバスはありますが、眼科等の受診で足の不自由な方が苦勞されていました○ボランティアには行きたいが、そこまで出向く足がない○まいちゃん号の利用について。自宅前で乗り降りできるように○買い物・通院等に利用するまいちゃん号の無料化○まいちゃんバスがフリー乗車になると嬉しいです○今は買い物、通院等自分で運転してできていますが、この先まいちゃん号等利用することと思いま す。文書等でお知らせはいただいておりますが、利用の方法が理解できかねています。私より年下 の近所の方が窓口まで行って聞かれたのですが理解できず、自転車で出かけておられます。そんな ことを思うと先行きが不安になります○タクシー助成券の増額（2件）○介護者が被介護者を病院等に送迎する介護タクシー等の支援事業。介護歴9年ですが、現在そうし た事業があるのかないのか情報も入ってきません○介護タクシー利用助成○自動車運転免許証を返納した後の移動支援（2件）○運転免許証返納者に対する、デマンドタクシーなどの料金助成（2件）○自動車運転免許証返納後に外出が自由にできるようにタクシー等の補助。バスは手続きがややこし く時間がかかる○車が運転できなくなった時、まいちゃん号だけでなく、100円バス等手段を考えてほしい○現在、高齢夫婦共に自動車で買い物等していますが、運転免許証を返納した場合の移動手段を考え ているところです○今は自動車が運転できるのですが、できなくなるとどうしようと不安です○認知症の場合自動車運転免許証がなくなりますが、それに代わる足がないので困っています <p>【買い物支援】</p> <ul style="list-style-type: none">○買い物支援（4件）○スーパーマーケットとの協力で、移動店舗の運営が必要ではないか○食品等宅配事業など○飲食物や消耗品の配布（有償）○灯油タンク等重量物の購入支援（自転車しか交通手段がない方）○スーパーが実施している買い物配達事業への市のPRおよび補助等による拡充 <p>【介護用品・福祉用具助成】</p> <ul style="list-style-type: none">○40歳頃から紙ばんつと尿取りパットをたくさん使いお金がかかります。少しでも助けていただけ るとありがたいです○要支援2（夫）ですが、紙おむつを使用しています。要支援からでも助成金があるとありがたいで す。よろしく願います○入院をしても、介護用品の支給助成をしてほしい○現在、夫婦で生活している。突然尿意を催して、漏らしてしまうことがある。自費でおむつを購入 して対処している

- 福祉施設と福祉器具の利用料軽減のサービスの充実に努めてほしい
- 介護保険サービスの介護用品の値段について、彦根市や長浜市より補助金額が高いと思います

【生活支援】

- 軒やひさしの積雪対策工事等の補助事業
- 月に1～2度程度、弁当の無料配布をしていただくとありがたいです。物価高で生活が大変です。高齢者等住宅除雪費補助事業では全額負担してください
- ゴミ出し
- 水かけ
- 家の周りの草取り
- 高齢になると風呂の掃除が難しくなります。障がいの認定がなくてもサービスとして安く掃除していただきたいです
- 公共交通機関、まいちゃん号やタクシーの利用はできても、院内の移動が1人でできない方や医師の話がうまく聞き取れない方がいる、理解が乏しい方への支援があればと思う
- 体づくり、介護にならないための予防的健康づくり、筋トレが必要です。そのため、普及活動が必要。シニアのため、介護予防に必要な筋トレで元気なシニアを増やす活動をしたいと考えます
- 各字へ出前講座（健康、防火、防災、防犯、認知症予防の教育）
- 生活に必要な情報機器操作のサポーター設置
- 悪質な訪問販売の相談と対応
- 自宅近くに歩いて気軽に行ける談話室があるといいと思います
- 孤独からの脱却サービス
- デイサービス等を利用したくない高齢者や認知症の方の対応の充実と見守り、家族のゆとりある生活の確保
- 他市で始まっている独居高齢者の金銭管理や入所・入院手続き援助や保証、死後事務等の包括的終活援助システム
- 単身世帯の人が倒れた時等、近隣の人に住宅の鍵を預けて確認することができる制度

【情報提供】

- 米原市等で実施している事業一覧と詳細の紹介
- 身体が不自由な後期高齢者です。苦しい思いをして市役所の窓口に出向くと「市のホームページを見て自分で調べてください」と高圧的な態度で言われます。経済的な理由でパソコンが買えない、能力的にホームページを活用できない住民もいます。ホームページを活用できない住民への平等な行政サービスのシステムを作っていただきたいと願います
- 実施されているサービスを知らせる方法がほしい
- どういう方法でサービスにつながればよいか詳しくわからない
- 訪問理容サービスは知らなかった。亡くなったが、父親の時に利用したかった
- 障害者手帳、障害年金、介護認定の手助けをするサービスや制度が必要である。普通の高齢者には、このような申請の手続き自体が困難な場合が多いから

【訪問・見守り】

- 市役所の職員の方が、各家庭を訪問して様子を見ていただきたいです
- 自分ではわからないので、家庭訪問をしていただいて認知症の程度を見ていただき、その人に合ったことをしていただきたいと思います
- 民生委員による高齢者宅、1人暮らしの高齢者宅の訪問

【介護者への支援】

- 介護激励金の復活（2件）
- 以前は、在宅介護の場合には何らかの補助がありましたが、現在はないのでしょうか
- 認知症を患った方のお世話をしているご家族の方はとても精神的に大変だと思います。身内を世話するのは当然とわかってはいますが、世話をする側の人も安心して毎日暮らすことができるようなことを何か考えてほしいです

【既存の高齢福祉サービス等】

- 別紙の「高齢者福祉サービス一覧」は初めて見ました。膝、左右の股関節を手術していて、風呂に入るのが怖いので、高齢者自立支援住宅改修助成事業でお風呂の取り付けが利用できたら嬉しいです
- 緊急通報システム事業について、以前は各家に防災米原と放送があり、様々な情報が得られました。外のスピーカーはエコー等で聞き取れません。スマホは使えません。以前のように無線受信機を付けてほしいです
- 緊急通報システム事業について、以前は各家に受信機があり、地震等の避難情報が聞けてよかった。スマホの防災アプリは使いにくい。以前の防災放送を再開してほしい
- 緊急通報システム事業について、1人で暮らしているためすぐに連絡を取れるようにしてほしい
- 緊急通報システム事業のことで、非常ボタンでの連絡方法を教えてほしいです。1人でいることが多いです。高血圧になって大変なことに気付かされました
- 徘徊老人GPS探査システム
- 高齢者等住宅除雪費補助事業だが、費用ではなく力を貸してほしい
- 冬の雪かき
- 冬場の除雪をしたくてもできない体になった場合、誰もしてくれる人がいないこともあり、困る場合がある
- 絆バトン事業はどんなことをしているのかよくわからない
- サービス一覧のすべてが必要
- 自分は大丈夫と思っていても、様々なサービスがあるとよい
- 全部必要な事業だろうと感じるが、今のところは必要としないため実感できない
- 今は自分でできているので、何があれば助かるのかわからない。今が精一杯なので、その場にならないと考えられない。その時は助けていただきたい
- 高齢者福祉サービスが市民または高齢者にどれだけ認知されているかにもよると思いますが、現在の利用状況に合わせて必要なものは継続していただければいいと思います
- 年間の実態（利用度）、実績を調査し、事業の充実、レベルアップを図ってほしい
- 高齢者が利用できるサービス（一定の要件有）の幅をもっと広げてほしい
- 訪問利用サービス事業と高齢者等安心確保（絆バトン）事業は具体的な金額がわからない。利用する人がいれば全部だと思う
- 補助事業やサービス事業はある程度必要だが、完璧を求めすぎると介護保険料がどこまでも上がってしまう。介護保険料が高い米原市としては、切りつめられるところは切りつめてほしい
- どの項目も受けたいサービスではあるが、予算が伴うものである
- 選択肢にある事業は高齢者にとっては全部ありがたいことですが、国・県・市等との釣合いはどうでしょうか

【介護保険サービス】

- ヘルパーさん不足のため利用することができない。利用しやすくしてほしい
- 介護サービスを提供している人たちも自分の正しい個人情報を相手の家族に伝えるべきだと思います。この仕事はお互いの信頼関係が必要なので、それができる人に頼りたいです

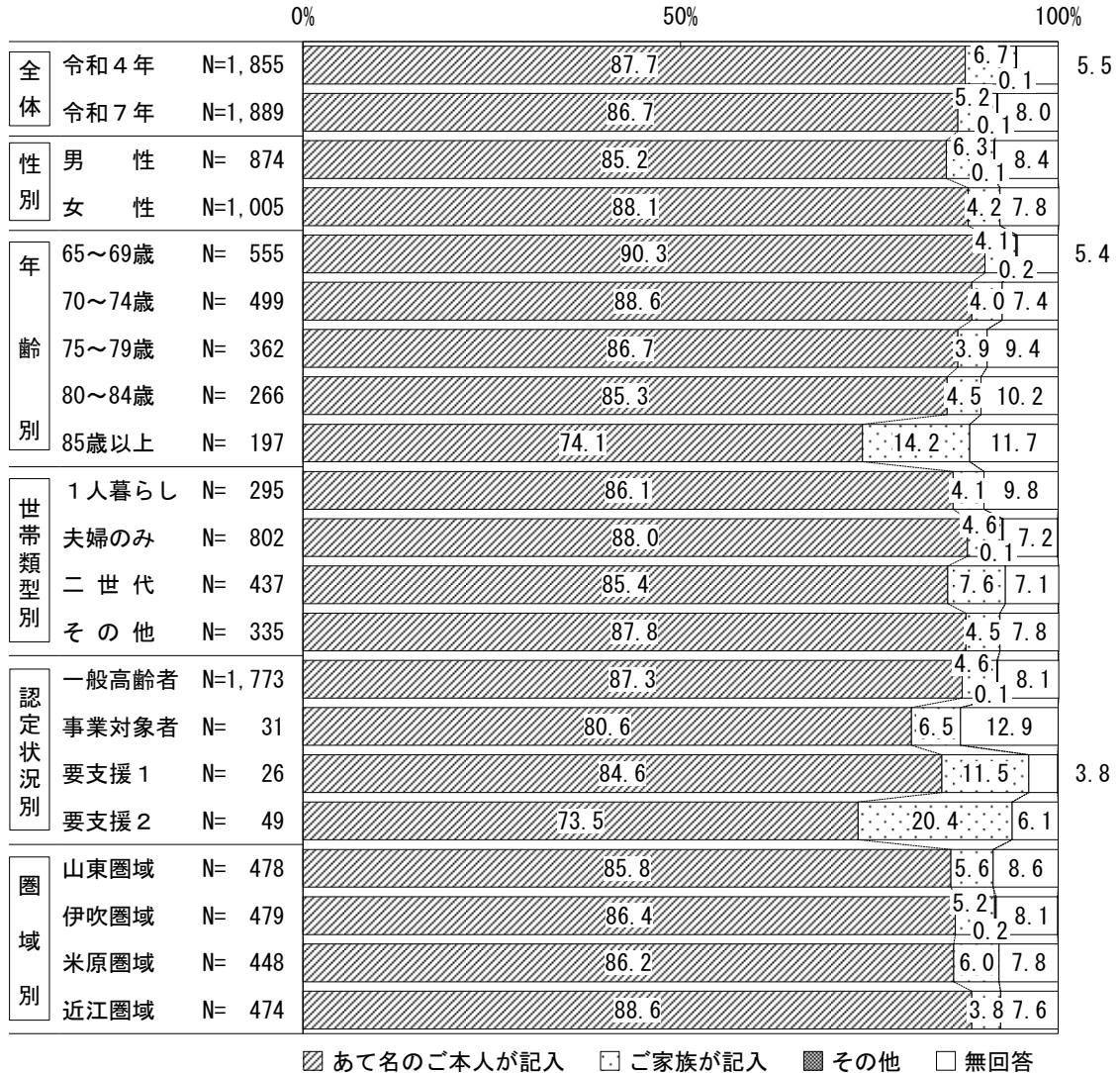
【その他】

- 健康推進員として学ばせていただいた
- 本人に寄り添える気持ち、心持ち
- 新庄にはポストがないため、他のところまで行かなければならないので、アンケートをもらっても大変です
- わからない

13 調査票の記入者.....

調査票の記入者は、「あて名のご本人が記入」が86.7%を占めています。

図表 4-118 調査票の記入者



14 意見・要望.....

(1) 高齢社会

- 年金で安心して暮らせる社会を望みます。
- 地域に尽くしてきた方（自分も）に、住みよい地域、市になってほしい。
- 独居老人が増加傾向にあるので、すべての人が暮らせる社会を望みます。
- 人々の絆が薄れ、日本の古きよき習慣が途切れて、高齢化が進む地域の限界集落、空家が増加する現状に抜本的な人的制度と助成が必要だと思っています。尊厳ある人間の終末介護ができる社会制度を願っています。
- 介護保険料が高くなっていきますが、今後、米原市は高齢者が増加していくので心配です。また空家も増えるのも不安です。築50～60年と経過している家屋ばかりになってきます。子どもや孫へと負担をつなぐのは大変です。米原市の人口減少を食い止めるにはどうすべきでしょうか。
- 老人クラブの事業も年々少なくなり、人との触れ合いの機会が減ってきて寂しい限りである。
- 10年先を考えると不安ばかり。10年後になってみないと理解できない。どうしたらいいかわからないことばかり。金、健康、認知症どれをとっても大丈夫と思えず、長生きすることに安心感がない。
- 現役で仕事をしている時が一番幸せを感じます。昔ならここまでの制度はなかったように思います。認知症になりたくないですが、こればかりはと思うと複雑です。
- 米原市は近隣とのお付き合いがありとても温かいところです。岐阜県は病院やスーパーが近くにあり便利ですが、人とのつながりは欠けています。私は帰りたいですが、1人での生活は不安なので子どもや孫たちの側が一番よいのかと思っています。
- 米原市はこれらに熱心だと認識しています。医療等を含め住みよいところだと思います。
- 年齢を重ねれば、いつかは人生が終わる。ジタバタせず、自然に任せよう。
- 延命処置をしない制度
- 今は健康なので、今後のことで困りごとはあまり考えたくない。寝たきりになったらすぐに最期を迎えたい。尊厳死を認めてほしい。私は人に迷惑をかけたくない。
- 65歳以上とって高齢者と断定するのはどうなのか。75歳以上を高齢者としてはいかがか。

(2) 介護全般

- 制度・認定が厳しい。早め（軽いうち）に関わってもらう方がよい。暗いイメージがあるので、高齢者だけでなく地域の若い人や子どもたちへの理解を深めていくことも大切。介護保険料の使い道や在り方について、自分たちが必要とした時に十分にしてもらえるか不安。
- 介護が必要となった時の手続きがわかりづらいです。しかし、このようなアンケートがあり、少し安心しました。
- 書類等申請手続きのできる限りの簡素化。
お茶の間創造事業のボランティアのなり手が不足している。
- 介護が必要になった時に、家族や親戚がまずはやれるところまでやってみるという姿勢で対応してほしい。どうしても無理な部分についてのみ公的補助に頼るということにしないと、介護保険料は上がるばかり。運動をして健康を保とうと努力する者は補助を受けずに支払うばかり。ある意味不平等ではないかと思う。
- 近くに老人ホーム等の介護施設があればいいと思います。
- 近年、老々介護になっている。希望する施設に入りたくても金額が合わず家族負担となる。米原市も高齢者の年金で入れる施設をもっとつくるべきでは。彦根市、岐阜県は充実しているように思う。今後、自分の人生は、不安だらけ。子どもには迷惑をかけたくない。
- 介護施設の拡充。介護職員の待遇の改善・向上。
- 介護保険料の引き下げ。温泉旅行気分で行けるような高齢者施設の設置。姥捨山といつて母が行くのを嫌がります。
- 以前、全盲、末期がんの叔母と寝たきりの老母を自宅で介護していました。介護のため定職にも就けず、精神的・肉体的に苦しみ続けていました。対応する行政サービスに何があったのか未だに知りません。市役所からは「必要とする住民全員に公平に行政サービスを行ったら予算が持ちません」と言われました。「助けて」と声の上げ方を知らない生活弱者や、自分より苦しんでおられる方で助けを求めても断られることが多い人を見つけ出し、必要な支援を公平に実践できる方策を作りあげてほしいと願います。
- 現在、在宅で100歳以上の母を介護中です。要介護者への取組は積極的にしていただいて嬉しく思います。しかし介護者がストレスを吐き出すところが近くになく、悶々とした日々を送っています。介護者が集う場所の情報もほぼなく、被介護者・介護者が共倒れの状況です。前回の調査でも同じことを書きましたがまったく変わっていません。70歳以上の介護者が被介護者になってしまう危険性を理解してほしいし、伝わるように切に希望します。

- 年とともによい介護ができるようにお願いします。ありがたいと思っております。
- できるだけ早く介護支援してください。
- 介護に従事する方々は大変なお仕事だと思います。これから先、私もお世話にならなくてはならないはずです。どれだけ迷惑をかけるかと思うと心が痛みます。家族でさえ嫌がるのに本当に敬服します。ありがとうございます。お体に気を付けてください。
- 初任者研修修了、防災士、巡回バス運転手、自治会役員は実施済み。介護福祉タクシー運転手をやりたい。
- 動けなくなったらよろしくお願いします。

(3) 介護保険

- 今の介護保険でどこまでもつのか、自分たちの時にはどうなるのか。夜、寝られない時には不安を感じる時が多い。
- 介護認定を受ける時、迅速な対応を求めます。
- 介護保険制度のランク付けを緩くしてほしい。
- 3つの病気を抱えていますが、何とか今のところ自分でできています。介護保険が利用できないので大変です。せめて要支援1でも受けて利用できるようにしていただきたいです。今、老老（夫婦）介護で大変です。助けてください。
- 介護関係に携わる方々の報酬を充実させてあげてください。
介護保険料の有効活用（特に予防を重視）。

(4) 介護保険料

- 介護保険料が高く、年金だけでは生活が苦しい。
- 介護保険料が高い。
- 毎月の介護保険料が高過ぎる。
- 介護保険料は高額を払っているのに、いざ使う時には高くて使えないため困ります。
- 少ない年金から高額介護保険料が引いてあります。今お金が必要なのはわかりますが多すぎるのではないですか。個人の生活が不安になります。
- 現在80歳を超え、年金生活ですから、介護保険料の支払いが大変です。
- 介護保険料を安くしてほしい。
- 介護保険料が高過ぎる。必要な人がいるのはわかるが負担しきれない。
- 介護保険料の負担低減をお願いします。

- 後期高齢者医療保険負担金、介護保険負担金がこれ以上増額しないことを希望します。
- 年金生活者にとって後期高齢者健康保険料、介護保険料がとても高いと思います。
- 収入に応じてサービスや介護保険料が変わるが、収入に大差はないのに随分差を感じる。介護保険料が高過ぎる。年金だけの生活が無理。
- 介護保険料が高過ぎる。申請しなくても所得の低い世帯には適切な措置が図られるようにしないと、平等や公平性がまったく担保されないと痛感する。知ってる者は得をして、知らない者は損をする世の中のしくみを是正してこそ、福祉の充実が実現されるものだろうと考える。
- 介護保険料の見直しが検討されています。年齢で区切られると年収の高い方も低い方も一律の負担となり不公平となります。高い方はそれなりの負担割合にして、低い方の負担割合を下げてもらいたい。
- 介護を受ける意志はないので、介護保険料を安くしてほしいです。利用者の負担割合を大きくすべきだと思います。
- 介護保険料の引き下げ。一般会計繰入の大幅増額。基準外繰入になっても、政策判断すべき。
- 介護保険料が高過ぎます。どう決めておられるのか説明していただきたい気持ちです。
- 介護保険料を年金から引かれています。自分のお金がどこで誰に使われているのか見えてこないです。介護保険料を個人年金から引くのをやめてください。

(5) 介護保険サービス

- 私は令和5年6月から訪問介護のお世話になっておりますが、現在心臓の具合もよく誠にありがたく感謝の至りです。
- 今の施設に通うことができ、大分ましになりました。ありがとうございました。
- 朝、介護の車が停車する時、仕事に出勤する車が通れるよう通路の幅を確保して停車をお願いします。
- まもなく毎週2回1時間お世話になることになりました。

(6) 福祉全般

- 今はまだこのようなサービスを必要とする身体ではないのですが、今後、市へは充実した手厚いサービスを期待したいと思っております。
- 母と主人を介護してきましたが、福祉サービスを色々利用でき充実していると感じました。

- 制度はあるが、誰もが同様の支援が受けられないのではないかと思います。特に金銭的なことが大きいと思います。
- 子どもと同居していると福祉サービスの対象にならない事業があります。残念なところ
です。
- 高齢者福祉サービス一覧を拝見させていただきました。こんなに多くのサービスを利用
できることを初めて知りました。いつかは利用することになるかと思います。勉強になり
ました。どうかこれからもよろしくをお願いします。
- 1人暮らしをしているので、世間のことは何一つわかっていませんでした。このアンケー
トを見て色々なシステムがあることを知り安心しました。今までは一生懸命1人で生活
してきましたが、限界を感じています。何かとお世話をかけるとは思いますが、よろしく見
守ってください。
- 家の掃除を1時間お願いしています。ごみ捨てもお願いしています。リハビリも診療所に
お願いしています。ありがたいです。
- 紙おむつをしているので助成してほしい。
- 東京などではおこめ券を配っています。米原市もしてほしいです。介護保険料を減らして
ほしいです。
- 物価が上がり生活が苦しいです。補助金やまいちゃん号の値下げの検討をお願いしたい
です。物価の補助を考えてほしいです。
- なわとび体操教室（ゆうすげ）でトレーニング室を利用しました。筋力トレーニングにつ
いて講習会を開催しました。今後別に個人で利用する人もいると思います。ただ利用料が
高い（400円）ので、シニア割とか高齢者に対して半額等利用しやすい金額にしてい
きたいです。
- 問題解決型の支援とともに、社会的な孤立や認知症の進行を防止するための、つながりを
大切にされた家庭機能の社会化を進める人材の育成や地域支援メニューの充実を望みます。
- 住みやすい環境の場所を提供。住み慣れた自分の家でずっと暮らしたいが、そのようにす
るには限りがあります。今のうちにそのようなところに移り、安心して最期を迎えたい。
- 高齢者住宅支援。入居希望申告。
- 夫婦とも80歳を超えました。私は車にも乗っています。日常は何とか暮らしていますが、
近頃は手すりが必要に感じるようになりました。例えば風呂に入る時等、風呂が大きい
ので手すりを付けてほしいと思います。庭に降りる時も、どこかにつかまって降ります。要
介護認定を受けていない場合は利用できないですか。

- 自分のこととして、まだ身近に感じていない。何かあった時、緊急時に対応していただける体制は必要。
- 宅地や林道等除雪してくださる方が必要である。
- 訪問マッサージサービス事業がほしい。
- 訪問見守りで困っていることを聞いてあげて対策してあげる。
- 運転免許証更新時、講習対策の支援（高齢者に対する市独自の支援プログラム作成）。
- 1人暮らしを今から想定しています。庭や散歩道で倒れて、携帯を持っていなかったら「緊急通報システム事業」は必要。体が不自由になったら「高齢者自立支援住宅改修助成事業」で金銭的に助けてほしい。料理をするのが危なくなったら「配食サービス事業」に頼りたい。雪がたくさん降る地域なのでもっと補助してほしい。何とぞお願いします。
- 今は1人で食事を作って食べていますが、先々はやはり配食また訪問理容サービス等でお世話になると思います。難しいことがだんだん無理になってくると思います。市の方でよろしく願いいたします。
- 介護用品支給助成事業を利用しています。ありがとうございます。
- もしもの時に備えて、成年後見制度の取り入れは考えていますか。
[例] 財産の譲渡等の手配（独り身の場合）
- 国家レベルでは将来の世代に対する負担軽減対策が優先されているようですが、最近の物価高により全世代がそのしわ寄せに苦悩している現状であります。特に医療費の上昇が高齢者にのみしわ寄せされることは、弱者の切り捨てに関わる問題であることだと危惧します。政府に対し自治体から声を届けてほしいです。
- 生活保護を受けていますが、書類を提出する時に米原市役所に行くのが大変になってきました。何とかありませんか。
- 私が若かった時は、何の補助もなく子どもを育ててきました。高齢になったら年金で生活できると思っていましたが、社会保険料が高過ぎて生活を圧迫しています。現在の若い人は私の若い頃と比べて贅沢になっていて、昔の時代の人は犠牲者です。
- 最近、高齢者だけでなく、若年層での1人暮らしが多くみられる。対応を早急にすべき。

(7) 地域福祉・地域活動

- 地域お茶の間創造事業を各地すべてに位置付けてほしい。どうしたら居場所づくりができるのか具体的に指導していただきたい。立ち上げるための組織づくりが難しい。若い人から指導する必要がある。

○現在の米原市の地域課題として、老老見守り・介護の現状があると思います（一見元気そうに見える高齢者が明日は要介護になるリスク）。地域福祉の担い手となる若い人材の発掘が必要だと思います。

○松尾寺政所の利用で地域の偉人の紹介。霊仙三蔵のパネル展。伊吹山の植物の写真展示。上丹生の絵画作家の展覧会等。霊仙三蔵顕彰会の会員の高齢化の中、次世代へ地域の偉人を紹介して伝えていくため、夏場の梅花藻見学に訪れる人に簡単なチラシを作成して配布しています。高齢者の居場所づくりに提供させていただいていますが「町づくりは、人づくり」に参加できればありがたいです。

○生活している人は、最後はみんな1人になってしまうので、夫婦二人から独居になるまでの期間を施設に入居して見てもらうのではなく、地域でお互いに見守っていけるシステムを形成してほしい。

○私も含め、高齢者の多い米原市です。私たちが安心して暮らせる米原市にしてほしいです。生きてきた分の知恵もあるので、地域がもっと生かしてほしいです。

○各施設に参加したくても交通手段がない（運転免許証は返納、自転車はふらつく等自由に行動が困難）。

コロナ以後地域の住民の交流が極端に減少してきた。各集落での運動会、農業祭、文化祭が復活されていない。各集落の婦人会やPTAも消滅が心配されている現状と思われる。学校の運動会等も、コロナ前から比べると地域との交流が減少。

地域の交流がなくなりフランクな話がしづらくなってきた。各集落での運動会や文化祭の開催を奨励できないか（各集落のリーダーの育成、補助金の支給等）。また、学校との交流を増やせないか（学校と集落の交流を増やす事業）。

(8) 情報提供、相談

○高齢者福祉、介護保険制度に関して、定期的に高額な費用を年金から引かれているのに、そのお金がどのように使われているか不明です。どのような内容にどのくらい使われているのか知りたいです。

○米原市がやっていることの情報が入ってこない。彦根市の場合はきちんと毎月配ってくれる。

○今回の調査に同封の福祉サービス一覧を、身近で市民が知ることができるようにはしてほしい。

○20人程でサークル活動をしてはいますが、1人暮らしの人が多数おられます。日常生活の中で突然の事故、病気、けが等があった場合を心配されています。こうした場合の対処についての体制づくり、処置方法について情報提供をするとういと考えます。

○まだ自分でできているが、もしもの時どうしたらいいのかわからない。①介護者のこと、②家のことをどうしたらいいか、等。

○米原市で高齢福祉サービスがあることをなぜもっと早く教えてもらえなかったのかわかりません。今になって調査票を送ってくるなんて信じられないです。今後は母親に信用できる人に不安な気持ちを話せることやわかりやすく正しい情報を教えたいです。

○近年区役員も高齢化しています。個人だけでなく区に対しても、様々な活動などあれば教えてほしいです。

○必要になれば相談をしたいと思っている。

(9) 買い物・移動支援

○田舎生活では車は生活に必要な交通手段ですが、高齢者は運転の危険性も伴うため、運転免許証を返納する方が今後も増えてきます。米原市は老人用の移動手段をもっと様々な角度から検討することが必要です。まいちゃん号の制度はあまりにも不便です。タクシーもバスも不自由で当てになりません。タクシーは台数が少なく、バスは1時間に1本です。

○高齢者が気軽に買い物に行ける社会に向かうために、何かいいアイデアはないですか。年を重ねた今、痛切に思います。私は外出にタクシーを使う余裕もなく、頼れる家族も少し遠方に勤務地があるので、これから先はお手上げ状態になるでしょう。現在の生活には満足していますが、買物が気軽にできるような今後を願っています。高齢者の交通事故も増加している現在、全国的にも問題となっている課題が解決する日が来るように、また米原市がモデルケースになるような政策が考えられる日が来るように願います。自分に都合のいいことばかりを記入し申し訳ありませんでした。

○米原市は生活するために車が必要なところですが。高齢になり運転免許証返納を考えた時に、タクシー、バス等、交通手段をわかりやすく便利にしてほしい。

○いつでも好きな時間に病院、公共施設、買物ができるようにしてほしい。

○買い物難民について。健康寿命がささやかれている昨今、健康ですが家族等から免許証返納を勧められ仕方なく応じたものの、特に「食」に関して、自分の眼で見て、選び、調理をし、季節を感じ食事をする満足度は、日々の生活の中の大きな要素だと思います。週に1～2回程度、指定されたスーパーへ相乗り車輛で送迎を考えていただきたいです。

- 通院や買い物等が安心して自由にできるように、外出支援のサービスを充実させてほしい。高齢になると荷物を持つての移動は大変なので、家から目的地まで直接行けると安心。まいちゃん号はあるがエリア外になると高額となるので、利用料金の検討をしてほしい。
- まいちゃん号の停留所番号を住民にわかりやすくする。

(10) 介護予防、生きがい・健康づくり

- 高齢者になるべく自分で生活できるように体力、知力が維持できるように手助けをお願いしたいです。
- 心身が健康な状態で生活が送れるように、フレイルや認知症の予防対策に力を入れていく必要があると思う。
- いよいよそんな年齢になったのかと思っています。まだ実感はありませんが、迷惑をおかけすることがないように努めたいと思います。
- 昨年までに、義母の認知症・身体介護、実母の身体介護が終わりました。福祉の方々には色々お世話になりました。今は自分の身体のメンテナンス中です。一日でも介護してもらわなくてよい生活が送れるように努力したいと思っています。
- 高齢者福祉介護の認定手続きをしている状態です。自分がお世話になることを考えていませんでした。年のせいにはばかりにできないことがわかりました。少しでもできることは自分でしたいと思う今日この頃です。
- 今回配布された高齢者福祉サービス一覧および居場所づくり・介護予防事業の一覧表は大変助かりました。知らない人もたくさんいると思います。若い世代との話し合いの資料にもなります。私も介護にならないように健康、生活に気を付けます。
- 近江地域で、なわとび体操を毎週金曜13:30からやすらぎハウスで実施しています。
- 自治会でほたるん体操を週2回行っています。参加者は7~13人位です。マンネリ化してきたので、何か刺激があればと思います。年1回くらい指導がてら顔を見に来てください。代表者は自治会でたずねてください。参加者は50~80歳代です。
- 70歳までは週3日以上企業で仕事をしていきたいと思っています。それ以上はまだ計画していません。父が要介護3の認定を受けています。ありがとうございます。
- 現在は元気なので、社員食堂で週5日働いています。毎日充実した日々を送っています。健康に感謝しています。いずれお世話になると思います。

○90歳を越えても不自由はしていないので、アンケート内容がわからないものばかりである。ただ健康にだけ気を付けて、よい天気の際は1時間程歩くようにしている。他には畑で野菜づくりをしている。

○将来自分が病気になった時、どうしたらいいか心配です。救急車で行けと息子は言いますが、メニエール病で動けないことがあり、心配なことがありました。毎日スクワット体操、6:30のラジオ体操をしています。迷惑をかけないよう頑張ります。

○最近新型コロナに感染したらしく、数日後に症状が出ましたがどこの病院も駄目で、月曜日にかかりつけ医で検査して判明し治療。3日目くらいから症状もよくなってきました。いい薬のおかげです。感謝です。

(11) 認知症

○認知症の早期発見につながる血液検査の導入。

○親鸞聖人の教えを学ばせていただいていますので、認知症予防になっていると思います。

○妻の認知症介護で限界を感じ施設に入所させたばかりで、自分も少々不安定な状況にある。

(12) 日々の生活

○今後もよろしくお願いします。先のごことはわからないので不安です。

○年金生活では、本当に苦しい。毎月の水道代、電気代、固定資産税、自動車税など負担が多すぎる。

○診療所からの紹介で病院に行く時、保険証やマイナンバーカードをしっかりと管理していないので、探しまわって大変だった。90歳の高齢者には管理が難しいと思った。

○1か月前くらいに知らないうちに圧迫骨折をしていて、今までとは違う身体の状態です。アンケートの答えもおかしいかも知れません。介護を受けたほうがいいのかと思っています。上の方の2本と腰の骨を折り、動くにも思うように動かせない状態です。

○毎日「おかげ様です」の心で生活するように心がけています。

○別にございませぬ。毎日感謝の心で暮らすことが大切だと思っています。

(13) 市への意見等

○市は65歳以上の方のリストを作り、状況を把握して、意見があれば指導して個人の情報を得ておく必要があると思う。突然死んだりした時、どう対応できるのか教えてほしい。

○多くの事業が書いてあるが、申請しないと行政は動かない。デジタル化して職員もわかるだろうに手続きしろと言う。高齢者には無理。今まで近くにあった役場がなくなった現実。

- 高齢者に対する福祉も大切だが、人口増加のため子育て対策をもっと充実させてほしい。人口減が止まらず、区の存続が危ぶまれる。A I 等によるコンピュータの活用による経費削減も必要だが、高齢者には文字媒体による情報が一番であることをお忘れなく。
- 必要な時にその都度制度が生かされる事業の体制づくりに期待する。
- 私は身体障がい者（狭心症による心臓機能障がい、社会生活活動制限あり）で、多数の病氣も抱えております。6つの診療科を受診しているだけではなく、突発性難聴により片耳が聞こえません。また、妻も身体障がい者で、認知症も患っております。何十年も前から村木区が要望している消雪設備工事が実現されていません。降雪時に無理をして除雪していましたが、体調の問題もあるうえ、90歳を過ぎ体の状態も衰え、除雪することができません。また市道は通学路でもありますし、デイサービスの送迎車も通ります。消雪設備工事が早く実現するように切望しております。関係部署の方にも働きかけていただき、早く実現しますようお願いいたします。

(14) アンケート

- 介護サービスを受ける本人や介護する家族は本音をアンケートに答える余裕がありません。今まで何回も色々なアンケートがありましたが、本当に困っている人の声はあまり反映されていないのでは。アンケートの項目をもう少し短くすることが必要ではないかと思えます。せっかく返ってきた意見を拾って、高齢者福祉が改善されればと思います。
- 質問項目によって選びづらいものがたくさんありました。
- アンケートの設問内容を答えるものの立場に立って考えてほしい。また、回答が本当に施策などに反映されるのか等、このアンケートに対する不満が多い。
- 4か月ほど前にアンケートをした気がするのですが。
- 何回か調査が来ますが、同じ人ではなくて色々な人に調査された方がいいのではないのでしょうか。
- 今回のアンケートで最後にしてください。
- 高齢者となり、今回のようなアンケート用紙の回答は大変な作業です。電話ならばいつもスマホを離さず持っておりますから、お電話でお願いします。
- このようなアンケート調査に対して感謝致しております。ご配慮ありがとうございます。

(15) その他

- あまり身近に感じない。
- 実際まだ自分の立場がそこまでいっていないのでよくわかりません。